

(是正事項) 総合人文社会科学研究科 総合人文社会科学専攻 (M)

14. <シラバスの記載が不整合>

シラバスの記載に整合性がない。特に、成績評価の方法の記載に科目間で差が生じている。シラバスの記載を適切な記載に改めること。

(対応)

ご指摘を踏まえ、シラバスにおける成績評価の基準等の記載に関し、設置計画書を修正する。

(新旧対照表) シラバス (1~433 ページ)

| 新 | 旧 |
|--|--|
| <p>解析手法論 I (4) 成績評価の方法 出席は前提。各回に課す課題ごとの評価 (50%) と最終レポートの到達目標への到達度の評価 (50%) の総計で評価する。 <u>90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可と評価する。</u> <u>59点以下の場合は単位認定しない。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>「俯瞰力」</u> <u>・例示された社会課題についての他分野の解析手法について、正確に理解した質問やコメントができて</u> <u>いるか。</u> <u>・例示された社会課題の解決策を、他分野の解析手法を含め、総合的に解決する方策を提案しているか。</u> <u>「応用力」</u> <u>・例示された他分野の社会課題の解決策について、自身の研究分野の解析手法を応用した提案がなされて</u> <u>いるか。</u> <u>これらの力について、極めて高い水準にあれば【卓越している】、非常に高い水準にあれば【かなり上にある】、高い水準にあれば【やや上にある】、一定水準にあれば【その水準にある】と判断する。</u></p> <p>【教科書】 <u>各担当教員が独自に作成したプリントを配布する 他</u></p> | <p>解析手法論 I (4) 成績評価の方法 出席は前提。各回に課す課題ごとの評価 (50%) と最終レポートの到達目標への到達度の評価 (50%) の総計で評価する。</p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可と評価する。</u> <u>59点以下の場合は単位認定しない。</u></p> <p>【教科書】 <u>授業において指示する。</u></p> |

| | |
|--|---|
| <p>【参考文献】 指定しない</p> | <p>【参考文献】 課題内容に従って、指導教員より指示される。</p> |
| <p>解析手法論Ⅰ・心理統計法特論 【参考文献】 田中敏・中野博幸 (2013). R&STARデータ分析入門 新曜社 小宮あすか・布井雅人 (2013). Excelで今すぐはじめる心理統計 簡単ツールHADで基本を身につける 講談社 南風原朝和 (2002). 心理統計学の基礎—統合的理解のために 有斐閣 柳川堯 (2018). P値 —その正しい理解と適用 近代科学社</p> | <p>解析手法論Ⅰ・心理統計法特論 【参考文献】 内容に応じて随時紹介する。</p> |
| <p>解析手法論Ⅱ (4) 成績評価の方法 出席は前提。各回に課す課題ごとの評価(50%)と最終レポートの到達目標への到達度の評価(50%)の総計で評価する。 90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可と評価する。 59点以下の場合は単位認定しない。</p> <p>(5) 成績評価の基準 「俯瞰力」 ・例示された社会課題についての他分野の解析手法について、正確に理解した質問やコメントができて いるか。 ・例示された社会課題の解決策を、他分野の解析手法を含め、総合的に解決する方策を提案しているか。 「応用力」 ・例示された他分野の社会課題の解決策について、自身の研究分野の解析手法を応用した提案がなされているか。 これらの力について、極めて高い水準にあれば【卓越している】、非常に高い水準にあれば【かなり上にある】、高い水準にあれば【やや上にある】、一定水準にあれば【その水準にある】と判断する。</p> <p>【教科書】 各担当教員が独自に作成したプリントを配布する 他</p> <p>【参考文献】</p> | <p>解析手法論Ⅱ (4) 成績評価の方法 出席は前提。各回に課す課題ごとの評価(50%)と最終レポートの到達目標への到達度の評価(50%)の総計で評価する。</p> <p>(5) 成績評価の基準 90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可と評価する。 59点以下の場合は単位認定しない。</p> <p>【教科書】 授業において指示する。</p> <p>【参考文献】</p> |

| | |
|--|---|
| <p><u>指定しない</u></p> | <p><u>課題内容に従って、指導教員より指示される。</u></p> |
| <p>人文社会科学研究者倫理 A (2) 授業の概要 開講時の入門講義により、研究者倫理（研究公正）に関する基礎知識の修得を図り、その後、研究者倫理 e-ラーニングプログラム「APRIN（旧 CITI Japan）」の受講及び対象学生を分野横断的グループに配置したグループワークの実施により、地域中核人材・研究者としてのあるべき倫理的行為、してはならない不正行為について理解の深化を図る。本講義の締めくくりとなる集中講義では、研究者倫理分野における我が国第一線の講師による講義及び優秀グループワークの講評を通じ、それまでの過程で修得した知識及び倫理観のまとめを図る。一連の授業を通じて受講学生がその後の修士学生としての学修・研究生活を送る上での基本的な倫理観を修得する。<u>なお、e-ラーニングプログラム「APRIN」の受講に当たっては、キャンパス内の演習室等を利用し、担当教員もしくは TA による指導をその場で受ける。</u></p> <p>(4) 成績評価の方法 成績評価は、予習と復習としての課題、ディスカッションへの参加状況と姿勢、プレゼンテーションにより総合的に評価する。 <u>90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可と評価する。</u> <u>59 点以下の場合は単位認定しない。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>「倫理観」</u> <u>先入観に左右されたり、自身の解釈に有利になる結果を導き出す情報のみを取り入れたりするのではなく、客観的に関係する情報を収集し、客観的に正しい判断を導くことができるか。</u> <u>以上について、極めて高い水準にあれば【卓越している】、非常に高い水準にあれば【かなり上にある】、高い水準にあれば【やや上にある】、一定水準にあれば【その水準にある】と判断する。</u> <u>【教科書】</u> <u>e-ラーニングプログラム上にアップされたテキストを用いる 等</u></p> | <p>人文社会科学研究者倫理 A (2) 授業の概要 開講時の入門講義により、研究者倫理（研究公正）に関する基礎知識の修得を図り、その後、研究者倫理 e-ラーニングプログラム「APRIN（旧 CITI Japan）」の受講及び対象学生を分野横断的グループに配置したグループワークの実施により、地域中核人材・研究者としてのあるべき倫理的行為、してはならない不正行為について理解の深化を図る。本講義の締めくくりとなる集中講義では、研究者倫理分野における我が国第一線の講師による講義及び優秀グループワークの講評を通じ、それまでの過程で修得した知識及び倫理観のまとめを図る。一連の授業を通じて受講学生がその後の修士学生としての学修・研究生活を送る上での基本的な倫理観を修得する。</p> <p>(4) 成績評価の方法 成績評価は、予習と復習としての課題、ディスカッションへの参加状況と姿勢、プレゼンテーションにより総合的に評価する。</p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可と評価する。</u> <u>59 点以下の場合は単位認定しない。</u></p> <p><u>【教科書】</u> <u>授業において指示する。</u></p> |

| | |
|---|---|
| <p>【参考文献】 指定しない。</p> | <p>【参考文献】 課題内容に従って、指導教員より指示される。</p> |
| <p>人文社会科学研究者倫理 B 【参考文献】 指定しない。</p> | <p>人文社会科学研究者倫理 B 【参考文献】 課題内容に従って、指導教員より指示される。</p> |
| <p>人文社会科学修論課題合同発表 A (3) 授業計画 本演習は集中で行う。ここでは、正副指導教員以外の専攻の担当教員、分野および他分野在籍の2年次を含む全院生の参加はもちろんのこと、他研究科の教員および学生、外部参加者[一般市民を含む]にも広く開かれ、さまざまな質問やコメントを受け付け討論する。 第1回 導入 第2～14回 修士論文の課題の進捗状況の報告および質疑応答 (13回×90分) 第15回 講評 松本キャンパス及び長野(教育)キャンパスを遠隔講義システムで接続し、4日間かけて集中で行う。発表者一人あたりの持ち時間は30分(発表+質疑応答)とする。正副指導教員は、指導院生に対して、事前指導を充分に行う。当日の質疑や指導は、正副指導教員以外の参加者からのものを主とする。なお、発表時の司会進行は、<u>担当教員が務める。</u> (4) 成績評価の方法 出席は前提。研究進展段階における発表の水準と、質疑に対する応答の水準に対する研究科教員(指導教員は含まれない)の評価(40点満点)の平均点と、発表後に指導教員に再提出するハンドアウトの評価(60点)とを合算して評価する。 <u>90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可と評価する。</u> <u>59点以下の場合には単位認定しない。</u> (5) 成績評価の基準 <u>「俯瞰力」</u> <u>・自身の課題発表において他分野の学生・教員の質問の意味や意図を正確に理解し、的確な回答がなされている。</u></p> | <p>人文社会科学修論課題合同発表 A (3) 授業計画 本演習は集中で行う。ここでは、正副指導教員以外の専攻の担当教員、分野および他分野在籍の2年次を含む全院生の参加はもちろんのこと、他研究科の教員および学生、外部参加者[一般市民を含む]にも広く開かれ、さまざまな質問やコメントを受け付け討論する。 第1回 導入 第2～14回 修士論文の課題の進捗状況の報告および質疑応答 第15回 講評 4日間かけて集中で行う。発表者一人あたりの持ち時間は40分(発表+質疑応答)とする。正副指導教員は、指導院生に対して、事前指導を充分に行い、<u>発表当日の指導院生への指導・質疑は行わない。</u>当日の質疑や指導は、正副指導教員以外の参加者からのものを主とする。なお、発表時の司会進行は、<u>正副指導教員のいずれかが務める。</u> (4) 成績評価の方法 出席は前提。研究進展段階における発表の水準と、質疑に対する応答の水準に対する研究科教員(指導教員は含まれない)の評価(40点満点)の平均点と、発表後に指導教員に再提出するハンドアウトの評価(60点)とを合算して評価する。 (5) 成績評価の基準 <u>90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可と評価する。</u> <u>59点以下の場合には単位認定しない。</u></p> |

| | |
|---|---|
| <p>・他分野の学生の課題発表の内容を十分理解し、適切な質問やコメントをしているか。</p> <p>「応用力」</p> <p>・他分野の学生の課題に対し、自身の分野の研究手法に立脚した質問やコメントができてきているか。</p> <p>これらの力について、極めて高い水準にあれば【卓越している】、非常に高い水準にあれば【かなり上にある】、高い水準にあれば【やや上にある】、一定水準にあれば【その水準にある】と判断する。</p> <p>【参考文献】 指定しない。</p> | <p>【参考文献】 発表内容に従って、指導教員より指示される。</p> |
| <p>人文社会科学修論課題合同発表 B 担当教員 澁谷豊，高橋知音，上村恵津子，越智康詞，島田英昭，茅野理恵，水口崇，高柳充利，友川幸，高橋史，小野貴史，森下孟，瀧直也，安達仁美，林寛平，井上信宏，橋本彩</p> <p>(3) 授業計画 本演習は集中で行う。ここでは、正副指導教員以外の専攻の担当教員、分野および他分野在籍の1年次を含む全院生の参加はもちろんのこと、他研究科の教員および学生、外部参加者[一般市民を含む]にも広く開かれ、さまざまな質問やコメントを受け付け討論する。</p> <p>第1回 導入 第2～14回 修士論文の課題の進捗状況の報告および質疑応答 (13回×90分) 第15回 講評</p> <p>松本キャンパス及び長野(教育)キャンパスを遠隔講義システムで接続し、4日間かけて集中で行う。発表者一人あたりの持ち時間は30分(発表+質疑応答)とする。正副指導教員は、指導院生に対して、事前指導を充分に行う。当日の質疑や指導は、正副指導教員以外の参加者からのものを主とする。なお、発表時の司会進行は、担当教員が務める。</p> <p>(4) 成績評価の方法 出席は前提。研究進展段階における発表の水準と、質疑に対する応答の水準に対する</p> | <p>人文社会科学修論課題合同発表 B 担当教員 山田健三，高橋知音，上村恵津子，越智康詞，島田英昭，茅野理恵，水口崇，高柳充利，友川幸，高橋史，小野貴史，森下孟，瀧直也，安達仁美，林寛平，井上信宏，橋本彩</p> <p>(3) 授業計画 本演習は集中で行う。ここでは、正副指導教員以外の専攻の担当教員、分野および他分野在籍の1年次を含む全院生の参加はもちろんのこと、他研究科の教員および学生、外部参加者[一般市民を含む]にも広く開かれ、さまざまな質問やコメントを受け付け討論する。</p> <p>第1回 導入 第2～14回 修士論文の課題の進捗状況の報告および質疑応答 第15回 講評</p> <p>4日間かけて集中で行う。発表者一人あたりの持ち時間は40分(発表+質疑応答)とする。正副指導教員は、指導院生に対して、事前指導を充分に行い、発表当日の指導院生への指導・質疑は行わない。当日の質疑や指導は、正副指導教員以外の参加者からのものを主とする。なお、発表時の司会進行は、正副指導教員のいずれかが務める。</p> <p>(4) 成績評価の方法 出席は前提。研究進展段階における発表の水準と、質疑に対する応答の水準に対する</p> |

| | |
|--|--|
| <p>研究科教員（指導教員は含まれない）の評価（40点満点）の平均点と、発表後に指導教員に再提出するハンドアウトの評価（60点）とを合算して評価する。 <u>90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可と評価する。</u> <u>59点以下の場合には単位認定しない。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>「俯瞰力」</u> <u>・自身の課題発表において他分野の学生・教員の質問の意味や意図を正確に理解し、的確な回答がなされている。</u> <u>・他分野の学生の課題発表の内容を十分理解し、適切な質問やコメントをしているか。</u> <u>「応用力」</u> <u>・他分野の学生の課題に対し、自身の分野の研究手法に立脚した質問やコメントができてきているか。</u> <u>これらの力について、極めて高い水準にあれば【卓越している】、非常に高い水準にあれば【かなり上にある】、高い水準にあれば【やや上にある】、一定水準にあれば【その水準にある】と判断する。</u></p> <p><u>【参考文献】</u> <u>指定しない。</u></p> | <p>研究科教員（指導教員は含まれない）の評価（40点満点）の平均点と、発表後に指導教員に再提出するハンドアウトの評価（60点）とを合算して評価する。</p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可と評価する。</u> <u>59点以下の場合には単位認定しない。</u></p> <p><u>【参考文献】</u> <u>発表内容に従って、指導教員より指示される。</u></p> |
| <p>社会課題別 PBL A (3) 授業計画 第1回 導入（課題の関連分野について事前学習、課題の決定） <u>・担当教員によって用意された具体的課題に基づいて5～6名からなるグループを形成し、扱う課題を選定し、担当教員の中から各学生に「正・副担当教員」2名配置を決定する。</u> 第2～14回 課題の進捗状況の報告および質疑応答 「社会課題別 PBL A」では、指導教員からあらかじめ与えられた喫緊の社会課題に対して分野および他分野在籍の学生の間で議論し、その解決方法を提案する。場合によっては教員からの質問やコメントを受ける。 <u>・ゴールは具体的な解決方法の最終提案（15回目）。そこに到るまでのグループ・</u></p> | <p>社会課題別 PBL A (3) 授業計画 第1回 導入（課題の関連分野について事前学習、課題の決定） 第2～14回 課題の進捗状況の報告および質疑応答 「社会課題別 PBL A」では、指導教員からあらかじめ与えられた喫緊の社会課題に対して分野および他分野在籍の学生の間で議論し、その解決方法を提案する。場合によっては教員からの質問やコメントを受ける。</p> |

| | |
|---|---|
| <p><u>ディスカッションは学生を主体として行うが、正副担当教員も加わり議論の整理・調整などについて助力する。</u></p> <p><u>・担当教員は主として学生に議論の方向性についてアドバイスを与える役割を担うが、そのほか、各学生の正担当教員は主として専門的知識を供与し、副担当教員は他研究領域から見た疑問点の提示を行う。</u></p> <p><u>・参加学生は、授業外における参考資料・情報の収集、正副担当教員から示された参考文献などを読み込み、2～14回のグループ・ディスカッション時にそれらを踏まえた発表をまずは個別に行う。発表時間は20分前後を目安とする。</u></p> <p><u>・議論の進展に伴い、個別の発表を統括して一つの提案発表へとまとめる。</u></p> <p><u>・2～14回の授業展開は、グループごとに課題内容に合わせて、ディスカッションする場を設定する。必要に応じて学外で開催したり、ゲストを呼ぶなど、自由に設定してよい。(ただし謝金など予算がかかることが想定される場合は、正副担当教員と相談すること。)</u></p> <p>第15回 まとめ</p> <p>(<u>松本キャンパス及び長野(教育)キャンパスを遠隔講義システムで接続し授業を行う。2コマ連続で計7回実施、5～6名のグループで討論、6グループに分けて実施、正副担当教員のどちらかが当該学生のグループに参加し、うち1名が司会をつとめる。なお、特定の分野の学生が少なくなる場合には当該分野の教員が参加する分野間の偏りをカバーする。</u>)</p> <p>(4) 成績評価の方法</p> <p><u>議論プロセス・調査プロセスでのグループ内貢献度(50%)、および最終的に提出するレポートの水準(50%)によって評価する。複数の担当教員がグループ・ディスカッション、最終発表の成果およびレポートでそれぞれ採点し、それを取りまとめ合議の上、決定する。</u></p> <p>90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可と評価する。</p> <p>59点以下の場合には単位認定しない。</p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>「俯瞰力」</u></p> | <p>第15回 まとめ</p> <p>(2コマ連続で計7回実施、5～6名のグループで討論、6グループに分けて実施、<u>正副どちらかの指導教員が当該学生のグループに参加し、うち1名が司会をつとめる。なお、特定の分野の学生が少なくなる場合には当該分野の教員が参加する分野間の偏りをカバーする。</u>)</p> <p>(4) 成績評価の方法</p> <p>議論プロセス・調査プロセスでのグループ内貢献度(50%)、および最終的に提出するレポートの水準(50%)によって評価する。</p> <p>(5) 成績評価の基準</p> |
|---|---|

| | |
|---|---|
| <p>・提示もしくは提案した社会課題について、自分分野以外側面からの分析方法や解決策の意味や意図を 正確に理解し、質問やコメントができて いるか。</p> <p>・提示もしくは提案した社会課題の解決策を、他分野からのアプローチを含め総合的に解決する方策 を提案しているか。</p> <p>「応用力」</p> <p>・提示もしくは提案した他分野の社会課題について、自身の研究分野の手法を応用した提案がなされ ているか。</p> <p>これらの力について、極めて高い水準にあれば【卓越している】、非常に高い水準にあれば【かなり上にある】、高い水準にあれば【やや上にある】、一定水準にあれば【その水準にある】と判断する。</p> <p>【参考文献】 指定しない。</p> | <p>90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可と評価する。 59点以下の場合は単位認定しない。</p> <p>【参考文献】 課題内容に従って、指導教員より指示される。</p> |
| <p>社会課題別 PBL B (3) 授業計画 第1回 導入(課題の関連分野について事前学習、課題の決定) ・担当教員によって用意された具体的課題に基づいて5～6名からなるグループを形成し、解決課題を選定し、担当教員の中から各学生に「正・副担当教員」2名配置を決定する。</p> <p>第2～14回 課題の進捗状況の報告および質疑応答 「社会課題別 PBL B」では、指導教員からあらかじめ与えられた喫緊の社会課題に対して分野および他分野在籍の学生の間で議論し、その解決方法を提案する。場合によっては教員からの質問やコメントを受ける。 ・ゴールは具体的な解決方法の最終提案(15回目)。そこに到るまでのグループ・ディスカッションは学生を主体として行うが、担当教員は議論の整理・調整などについて助力する。 ・正・副担当教員は、主として学生に議論の方向性についてアドバイスを与える役割を担うが、そのほか、正担当教員は主とし</p> | <p>社会課題別 PBL B (3) 授業計画 第1回 導入(課題の関連分野について事前学習、課題の決定)</p> <p>第2～14回 課題の進捗状況の報告および質疑応答 「社会課題別 PBL B」では、指導教員からあらかじめ与えられた喫緊の社会課題に対して分野および他分野在籍の学生の間で議論し、その解決方法を提案する。場合によっては教員からの質問やコメントを受ける。</p> |

| | |
|--|--|
| <p>て専門的知識を供与し、副担当教員は他研究領域から見た疑問点の提示を行う。</p> <p>・参加学生は、授業外における参考資料・情報の収集、正副担当教員から示された参考文献などを読み込み、2～14回のグループ・ディスカッション時にそれらを踏まえた発表をまずは個別に行う。発表時間は20分前後を目安とする。</p> <p>・議論の進展に伴い、個別の発表を統括して一つの提案発表へとまとめる。</p> <p>・2～14回の授業展開は、グループごとに課題内容に合わせて、ディスカッションする場を設定する。必要に応じて学外で開催したり、ゲストを呼ぶなど、自由に設定してよい。(ただし謝金など予算がかかることが想定される場合は、正副担当教員と相談すること。)</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>(松本キャンパス及び長野(教育)キャンパスを遠隔講義システムで接続し授業を行う。2コマ連続で計7回実施、5～6名のグループで討論、6グループに分けて実施、正副担当教員のどちらかが当該学生のグループに参加し、うち1名が司会をつとめる。なお、特定の分野の学生が少なくなる場合には当該分野の教員が参加する分野間の偏りをカバーする。)</p> <p>(4) 成績評価の方法</p> <p>議論プロセス・調査プロセスでのグループ内貢献度(50%)、および最終的に提出するレポートの水準(50%)によって評価する。<u>複数の指導教員がグループ・ディスカッション、最終発表の成果およびレポートでそれぞれ採点し、それを取りまとめ合議の上、決定する。</u></p> <p><u>90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可と評価する。</u></p> <p><u>59点以下の場合には単位認定しない。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準</p> <p>「俯瞰力」</p> <p>・提示もしくは提案した社会課題について、自分野以外側面からの分析方法や解決策の意味や意図を</p> <p><u>正確に理解し、質問やコメントができて</u> <u>いるか。</u></p> | <p>第15回 まとめ</p> <p>(2コマ連続で計7回実施、5～6名のグループで討論、6グループに分けて実施、<u>正副どちらかの指導教員が当該学生のグループに参加し、うち1名が司会をつとめる。</u>なお、特定の分野の学生が少なくなる場合には当該分野の教員が参加する分野間の偏りをカバーする。)</p> <p>(4) 成績評価の方法</p> <p>議論プロセス・調査プロセスでのグループ内貢献度(50%)、および最終的に提出するレポートの水準(50%)によって評価する。</p> <p>(5) 成績評価の基準</p> <p><u>90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可と評価する。</u></p> <p><u>59点以下の場合には単位認定しない。</u></p> |
|--|--|

| | |
|--|--|
| <p>・提示もしくは提案した社会課題の解決策を、他分野からのアプローチを含め総合的に解決する方策を提案しているか。 「応用力」</p> <p>・提示もしくは提案した他分野の社会課題について、自身の研究分野の手法を応用した提案がなされているか。 これらの力について、極めて高い水準にあれば【卓越している】、非常に高い水準にあれば【かなり上にある】、高い水準にあれば【やや上にある】、一定水準にあれば【その水準にある】と判断する。</p> <p>【参考文献】 指定しない。</p> | <p>【参考文献】 課題内容に従って、指導教員より指示される。</p> |
| <p>哲学思想論 (4) 成績評価の方法 発表 50%、期末レポート 50%で評価します。 得点率による評価基準 90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</p> <p>【参考文献】 中村元『比較思想論』(岩波書店、1960年)など。</p> | <p>哲学思想論 (4) 成績評価の方法 発表 50%、期末レポート 50%で評価します。</p> <p>【参考文献】 中村元『比較思想論』(岩波書店、1960年)など。他は授業中に適宜紹介します。</p> |
| <p>文化情報論・社会学論 (4) 成績評価の方法 授業評価は、前半と後半の授業それぞれで、授業中でのディスカッション参加(50%)と、レポート課題(50%)で評価して100%ずつ算出し、その平均をとったものを全体の評価とする。評価基準は得点率90%以上を秀、89-80%を優、79-70%を良、69-60%を可、59%以下を不可とする。</p> | <p>文化情報論・社会学論 (4) 成績評価の方法 授業評価は、前半と後半の授業それぞれで、授業中でのディスカッション参加(50%)と、レポート課題(50%)で評価して100%ずつ算出し、その平均をとったものを全体の評価とする。</p> |
| <p>歴史学論 (4) 成績評価の方法 e-alpsの課題(50%)、授業態度(50%)の総合評価 得点率による評価基準は次のとおりとする。90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</p> | <p>歴史学論 (4) 成績評価の方法 e-alpsの課題(50%)、平常点(50%)の総合評価</p> |

| | |
|--|---|
| <p>(5) 成績評価の基準</p> <p><u>【卓越している=秀】歴史学研究法に関する基礎的な知識をもとに、論理的に思考し、批判的に分析し、自律的に考える力を総合して、極めて高い水準にある。</u></p> <p><u>【かなり上にある=優】歴史学研究法に関する基礎的な知識をもとに、論理的に思考し、批判的に分析し、自律的に考える力を総合して、非常に高い水準にある。</u></p> <p><u>【やや上にある=良】歴史学研究法に関する基礎的な知識をもとに、論理的に思考し、批判的に分析し、自律的に考える力を総合して、高い水準にある。</u></p> <p><u>【その水準にある=可】歴史学研究法に関する基礎的な知識をもとに、論理的に思考し、批判的に分析し、自律的に考える力を総合して、一定水準にある。</u></p> <p>【教科書】 各回の内容に合わせて独自に作成したプリントをそのつど配布する。</p> | <p>(5) 成績評価の基準</p> <p><u>授業中の討論を通じて理解度を測り、自分の主張は客観的であるか、他の人の理解を得られる論理的な発言かをみる。また、プレゼンテーションの内容がどれだけ客観的か、論理的であるか、わかりやすく構成されているかを総合的に判断する。</u></p> <p>【教科書】 授業中に指示する。</p> |
| <p>日本語文化論</p> <p>(5) 成績評価の基準</p> <p>90 点以上を秀、80 点以上を優、70 点以上を良、60 点以上を可と評価する。</p> <p>59 点以下の場合は単位認定しない。</p> <p><u>【秀：卓越している】文献学的研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な学的処理を行い、論理的思考し、自律的に考える力を総合して、極めて高い水準にある。</u></p> <p><u>【優：かなり上にある】文献学的研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な学的処理を行い、論理的思考し、自律的に考える力を総合して、非常に高い水準にある。</u></p> <p><u>【良：やや上にある】文献学的研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な学的処理を行い、論理的思考し、自律的に考える力を総合して、高い水準にある。</u></p> <p><u>【可：その水準にある】文献学的研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な学的処理を行い、論理的思考し、自律的に考える力を総合して、一定水準にある。</u></p> <p>【教科書】 各回の内容に合わせて独自に作成したプリントをそのつど配布する。</p> <p>【参考文献】</p> | <p>日本語文化論</p> <p>(5) 成績評価の基準</p> <p>90 点以上を秀、80 点以上を優、70 点以上を良、60 点以上を可と評価する。</p> <p>59 点以下の場合は単位認定しない。</p> <p>【教科書】 テキスト（論文等）は授業中に配布する。</p> <p>【参考文献】</p> |

| | |
|---|--|
| <p>山田健三 (2015)「連綿句読法：書記システムの記述方法をめぐって」(『信州大学人文科学論集』2号)、前田雅之『書物と権力』(吉川弘文館 2018)、他。</p> | <p>山田健三 (2015)「連綿句読法：書記システムの記述方法をめぐって」(『信州大学人文科学論集』2号)、前田雅之『書物と権力』(吉川弘文館 2018)、他。<u>授業内にて紹介する。</u></p> |
| <p>英米言語文化論 (4) 成績評価の方法 授業内でのアクティビティ 50%とレポート 50%による。 ●得点率による評価基準は次のとおりとする。 <u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 【卓越している(秀)】<u>テーマやテキストを正確に理解できたか及びそのテーマやテキストから問題を発見できたか、という点において、極めて高い水準にある。</u> 【かなり上にある(優)】<u>テーマやテキストを正確に理解できたか及びそのテーマやテキストから問題を発見できたか、という点において、非常に高い水準にある。</u> 【やや上にある(良)】<u>テーマやテキストを正確に理解できたか及びそのテーマやテキストから問題を発見できたか、という点において、高い水準にある。</u> 【その水準にある(可)】<u>テーマやテキストを正確に理解できたか及びそのテーマやテキストから問題を発見できたか、という点において、一定水準にある。</u></p> <p>【教科書】 Grodén, Michael, Martin Kreiswirth and Imre Szeman. Eds. <i>Contemporary Literary and Cultural Theory</i>. The Johns Hopkins UP, 2012. <u>他</u></p> <p>【参考文献】 Blust, Robert. <i>101 Problems and Solutions in Historical Linguistics</i>. Edinburgh UP, 2018. Nevalainen, Terttu and Elizabeth Closs Traugott, eds. <i>The Oxford Handbook of the History of English</i>. (Oxford UP, 2012. <u>寺澤芳雄編『英語学要語辞典』研究社, 2002.</u></p> | <p>英米言語文化論 (4) 成績評価の方法 授業内でのアクティビティ 50%とレポート 50%による。</p> <p>(5) 成績評価の基準 授業内でのアクティビティ 50%とレポート 50%による。<u>評価点は、テーマやテキストを正確に理解できたか、そのテーマやテキストから問題を発見できたかである。その度合いに応じて、合計 100 点で評価し、90 点以上を秀、80 点以上を優、70 点以上を良、60 点以上を可と評価し、60 点未満の場合は単位を与えない。</u></p> <p>【教科書】 Grodén, Michael, Martin Kreiswirth and Imre Szeman. Eds. <i>Contemporary Literary and Cultural Theory</i>. The Johns Hopkins UP, 2012. <u>その他にプリントも配布する。</u></p> <p>【参考文献】 Blust, Robert. <i>101 Problems and Solutions in Historical Linguistics</i>. Edinburgh UP, 2018. <u>その他は授業中に適宜紹介する。</u></p> |

| | |
|--|---|
| <p>比較言語文化論</p> <p>(4) 成績評価の方法</p> <p>●以下を総合して判定する。各課題発表で行うプレゼンテーションとディスカッション(50%)と学期末のレポート(50%)で評価を出す。※評価割合は若干の調整を行うことがある。</p> <p>●得点率による評価基準は次のとおりとする。90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</p> <p>(5) 成績評価の基準</p> <p><u>【卓越している】</u> (1)問題の設定が適切であり、(2)その問題の背景を説明できており、(3)その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(4)それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており、(5)その上で自分の見解を提示できており、(1)～(5)に加えて、授業で学んだ中の複数の分野に関わる文献が参照されており、極めて高い水準にある。</p> <p><u>【かなり上にある】</u> 上記(1)から(5)までの5項目を満たしていい、非常に高い水準にある。</p> <p><u>【やや上にある】</u> 上記(1)から(4)までの4項目を満たしていい、高い水準にある。</p> <p><u>【その水準にある】</u> 上記(1)から(3)までの3項目を満たしていい、一定水準にある。</p> <p>【教科書】 各回の内容に合わせて独自に作成したプリントをそのつど配布する。</p> <p>【参考文献】 松澤和宏編『テキストの解釈学』名古屋大学出版会、2012。 真野倫平編『近代科学と芸術創造—19～20世紀のヨーロッパにおける科学と文学の関係』、行路社、2015。 和田博文他『言語都市・パリ—1862-1945』藤原書店、2002。 他。</p> | <p>比較言語文化論</p> <p>(4) 成績評価の方法</p> <p><u>「授業のねらい」で掲げた内容を問うレポートを期末に課し、それによって評価を行なう。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準</p> <p>(1)問題の設定が適切であり、(2)その問題の背景を説明できており、(3)その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(4)それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており、(5)その上で自分の見解を提示できており、(1)～(5)に加えて、授業で学んだ中の複数の分野に関わる文献が参照されていれば「卓越している」。(1)から(5)の5項目を満たしていれば「かなり上にある」。4項目までできていれば「やや上にある」。3項目までできていれば「合格水準にある」と評価される。</p> <p>【教科書】 プリントや紀要論文等を配布して進める。</p> <p>【参考文献】 松澤和宏編『テキストの解釈学』名古屋大学出版会、2012。 真野倫平編『近代科学と芸術創造—19～20世紀のヨーロッパにおける科学と文学の関係』、行路社、2015。 和田博文他『言語都市・パリ—1862-1945』藤原書店、2002。 <u>その他、授業の際に随時紹介する。</u></p> |
| <p>芸術コミュニケーション論</p> <p>(4) 成績評価の方法</p> <p><u>以下を総合して判定する。</u></p> <p>参考資料(含英文)の精読30%と毎回の授業時のディスカッション30%、最終レポート40%※評価割合は若干の調整を行うことが</p> | <p>芸術コミュニケーション論</p> <p>(4) 成績評価の方法</p> <p>参考資料(含英文)の精読30%と毎回の授業時のディスカッション30%、最終レポート40%</p> |

| | |
|---|--|
| <p>ある。 得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、 69-60% 可、59%以下 不可。</p> <p>(5) 成績評価の基準 【卓越している】芸術コミュニケーション研究に関する基礎的な知識をもとに、資料精読とディスカッションを進めつつ、芸術文化研究の諸相を個々のジャンルと方法に応じて検討し、その現状と課題を明らかにする力において、極めて高い水準にある。 【かなり上にある】芸術コミュニケーション研究に関する基礎的な知識をもとに、資料精読とディスカッションを進めつつ、芸術文化研究の諸相を個々のジャンルと方法に応じて検討し、その現状と課題を明らかにする力において、非常に高い水準にある。 【やや上にある】芸術コミュニケーション研究に関する基礎的な知識をもとに、資料精読とディスカッションを進めつつ、芸術文化研究の諸相を個々のジャンルと方法に応じて検討し、その現状と課題を明らかにする力において、高い水準にある。 【その水準にある】芸術コミュニケーション研究に関する基礎的な知識をもとに、資料精読とディスカッションを進めつつ、芸術文化研究の諸相を個々のジャンルと方法に応じて検討し、その現状と課題を明らかにする力において、一定水準にある。</p> <p>【教科書】 なし。</p> <p>【参考文献】 Jerrold Levinson, <i>The Oxford Handbook of Aesthetics</i>, Oxford Univ., 2005. ほか。</p> | <p>(5) 成績評価の基準 レポートについて、授業で示した基本用語・事例を理解していれば「水準にある」。重要語句・重要事例に対する理解が進んでいけば「やや上にある」。授業内容をしっかり理解し、自身の見解も示せれば「かなり上にある」。授業内容を完全に把握し、さらに主体的な学習と思考が加えられていけば「卓越している」。</p> <p>【教科書】 なし。必要な資料は配布、もしくは入手方法を指示する。</p> <p>【参考文献】 Jerrold Levinson, <i>The Oxford Handbook of Aesthetics</i>, Oxford Univ., 2005. ほか、授業中に適宜指示する。</p> |
| <p>哲学思想論総合演習 I (哲学総合) (4) 成績評価の方法 発表・討議の水準・参加姿勢 (50%)、最終レポート (50%) の割合で評価します。 得点率による評価基準 90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</p> <p>【教科書】</p> | <p>哲学思想論総合演習 I (哲学総合) (4) 成績評価の方法 発表・討議の水準・参加姿勢 (50%)、最終レポート (50%) の割合で評価します。</p> <p>【教科書】</p> |

| | |
|---|---|
| <p>M. Siderits et al. (eds.), <i>Self, No Self?</i> Oxford University Press, 2011 など</p> <p>【参考文献】 中村元『比較思想論』（岩波書店、1960）等。</p> | <p>M. Siderits et al. (eds.), <i>Self, No Self?</i> Oxford University Press, 2011 など。その他は適宜授業中に配布します。</p> <p>【参考文献】 中村元『比較思想論』（岩波書店、1960）等。その他は適宜授業中に紹介します。</p> |
| <p>哲学思想論総合演習II（比較思想） （4）成績評価の方法 レポートとチュートリアルでの質疑の内容を、一ユニットあたり20%の割合で評価し、結果を合計した数字を最終的な評価とする。 <u>得点率による評価基準 90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>【参考文献】 <u>藤田正勝『西田幾多郎の思索世界-純粹経験から世界認識へ』、岩波書店、2011年</u></p> | <p>哲学思想論総合演習II（比較思想） （4）成績評価の方法 レポートとチュートリアルでの質疑の内容を、一ユニットあたり20%の割合で評価し、結果を合計した数字を最終的な評価とする。</p> <p>【参考文献】 授業中に指示する。</p> |
| <p>文化情報論・社会学総合演習 I（現代文化） （1）授業のねらい <u>現代の消費社会における先進的な文化現象である消費の脱物質主義化、持続可能な消費文化を取りあげ、それらが現代社会にどのような発展をもたらすのか、また、どのような問題を生じさせるのかを、人文社会科学の視点から検討する。それにより、受講生が現代の消費社会の仕組みや背後にある社会構造について、研究計画をたてるスキルである問題発見能力を身につける。</u></p> <p>（2）授業の概要 上記の目標に到達するため、本演習では、まず人文社会科学における研究法、理論と方法の関係について、<u>文献を用いて丁寧に理解を深める。次に、現代の消費社会における先進的な消費社会・文化現象を、講義をとおして俯瞰する。続いて、そうした先進的な現象である脱物質主義的消費・持続可能な消費文化について、資料を収集して歴史的経緯・現状について十分に理解するとともに、国内外の量的・質的な先行研究を精査して、社会的・理論的な問題意識を深める。次に、人文社会科学の理論的視点から、脱物質主義的消費・持続可能な消費文化の現代的課題（研究課題）を絞り込</u></p> | <p>文化情報論・社会学総合演習 I（現代文化） （1）授業のねらい <u>現代社会で生じる多様な文化現象について、資料を収集・分析して実態把握を進める一方、人文社会科学における国内外の専門的な論文や著書を、理論的・方法論的な点にも十分に配慮して精緻に検討する。それによって、学生が現代の文化現象の背後にある社会構造に関する研究計画をたてるスキルである問題発見能力を身につける。</u></p> <p>（2）授業の概要 上記の目標に到達するため、本演習では、まず人文社会科学における研究法、理論と方法の関係について、<u>大学院レベルの概説書などを用いて理解を深める。次に、学生が現代の社会・文化現象について関心のあるテーマを主体的に選択し、資料の収集・分析によって実態把握する。続いて、問題関心を深めたテーマについて国内外の専門的な論文・著書をサーベイする。その上で、当該テーマに関する研究計画案を作成する。以上のいずれにおいても学生による研究発表、ディスカッションの形式で授業を進める。</u></p> |

| | |
|---|---|
| <p>み、明確化させる。そして、それらの研究課題に学術的に適切なアプローチを試みる調査計画を綿密に立てる。以上の講義を除くいずれ取り組みにおいても、学生による研究発表・ディスカッションの形式で授業を進める。なお、本授業に参加するには、社会学における主要な学説・理論・概念について、さらに、社会統計学、または心理統計学における記述統計・推測統計の基礎的事項について学部卒業レベルの習得を済ませていることを必要とする。</p> <p>(3) 授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス 水原</p> <p>第2回：人文社会科学における研究法 佐藤</p> <p>第3回：人文社会科学における理論と方法 水原</p> <p>第4回：先進的な消費社会・文化研究概論 水原</p> <p>第5回：脱物質主義的消費の国内先行研究の検討 佐藤</p> <p>第6回：脱物質主義的消費の海外先行研究の検討 佐藤</p> <p>第7回：持続可能な消費文化の国内先行研究の検討 水原</p> <p>第8回：持続可能な消費文化の海外先行研究の検討 水原</p> <p>第9回：資料・文献サーベイレポートの合評 佐藤、水原</p> <p>第10回：脱物質主義的消費の現代的課題検討 佐藤</p> <p>第11回：持続可能な消費文化の現代的課題検討 水原</p> <p>第12回：脱物質主義的消費の調査計画検討 佐藤</p> <p>第13回：持続可能な消費文化の調査計画検討 水原</p> <p>第14回：最終プレゼンテーション 佐藤、水原</p> | <p>(3) 授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス 水原、佐藤</p> <p>第2回：人文社会科学における研究法 水原</p> <p>第3回：人文社会科学における理論と方法 水原</p> <p>第4回：テーマ設定のためのディスカッション 水原、佐藤</p> <p>第5回：テーマ・資料収集・分析計画 佐藤</p> <p>第6回：資料収集・分析結果 佐藤</p> <p>第7回：テーマに関する問題の所在についてのディスカッション 水原、佐藤</p> <p>第8回：文献サーベイ計画 水原</p> <p>第9回：文献リスト 水原</p> <p>第10回：国内文献サーベイ 水原</p> <p>第11回：海外文献サーベイ 佐藤</p> <p>第12回：隣接分野の文献サーベイ 佐藤</p> <p>第13回：研究計画案に関するディスカッション 水原、佐藤</p> <p>第14回：研究計画案 佐藤</p> <p>第15回：総括討議 水原、佐藤 定期試験は実施しない</p> |
|---|---|

| | |
|--|--|
| <p>第15回：総括討議 水原、佐藤 定期試験は実施しない</p> | |
| <p>文化情報論・社会学総合演習Ⅱ（社会情報）</p> <p>(1) 授業のねらい <u>Society5.0, ビッグデータの活用, 情報リテラシーや情報モラル, デジタルディバイドなどの現代の社会情報に関する問題意識をもとに, 各自が文献・論文による情報収集や調査を行い, プレゼンテーションを行う。プレゼンテーションとディスカッションを通して, 社会や情報に関わる学際諸領域を対象とした問題発見・分析能力と情報活用能力を身につける。</u></p> <p>(2) 授業の概要 <u>授業では, 現代の地域文化や社会情報系人文学に関する領域の問題意識をもとに, 各自が設定した課題について文献・論文による情報収集や調査を行い, プレゼンテーションを行う。参加者同士のディスカッションを通して, 社会情報に関わる学際領域に対する問題意識の交換と, 適切に議論を進める総合的な情報活用能力を養成することを重視する。学部生を議論に参加させることもある。</u></p> <p>(3) 授業計画 第1回 <u>ガイダンス</u> 佐藤, 水原 第2回 <u>社会情報に関する課題とは?</u> 佐藤 第3回 <u>「情報リテラシー, 情報モラル」に関する情報収集・調査</u> 佐藤 第4回 <u>「情報リテラシー, 情報モラル」に関する発表</u> 佐藤 第5回 <u>「情報リテラシー, 情報モラル」に関するディスカッション</u> 佐藤 第6回 <u>「超高齢社会とデジタルディバイド」に関する情報収集・調査</u> 佐藤 第7回 <u>「超高齢社会とデジタルディバイド」に関する発表</u> 佐藤</p> | <p>文化情報論・社会学総合演習Ⅱ（社会情報）</p> <p>(1) 授業のねらい <u>IoTの普及, ビッグデータの活用, SNSにおける不適切行動などの現代の社会情報に関する問題意識をもとに, 定期的に各自の研究内容をまとめ, プレゼンテーションを行う。プレゼンテーションとディスカッションを通して, 社会や情報に関わる学際諸領域を対象とした問題発見・分析能力と情報活用能力を身につける。</u></p> <p>(2) 授業の概要 <u>現代の地域文化や社会情報系人文学に関する領域の問題意識をもとに, 各自の研究を進行状況にあわせて一定間隔で発表し, 他の参加者とのディスカッションを繰り返す。発表内容は研究進展に従い, 文献発表や調査計画・進展状況報告など適宜設定する。参加者同士のディスカッションを通して, 社会情報に関わる学際領域に対する問題意識の交換と, 適切に議論を進める総合的な情報活用能力を養成することを重視する。学部生を議論に参加させることもある。</u></p> <p>(3) 授業計画 第1回 <u>ガイダンス</u> 佐藤, 水原 第2回 <u>社会情報に関する課題 (IoT, ビッグデータ, SNS など)</u> 水原 第3回 <u>社会情報に関する具体的なテーマ決定</u> 水原 第4回 <u>社会情報に関する先行研究のレビュー</u> 水原 第5回 <u>社会情報に関する先行研究に基づく仮説の構築</u> 水原 第6回 <u>研究計画の作成</u> 水原 第7回 <u>研究計画に関するプレゼンテーション</u></p> |

| | |
|---|--|
| <p>第8回 <u>「超高齢社会とデジタルディバイド」に関するディスカッション</u> 佐藤</p> <p>第9回 <u>「Society5.0, Iot」に関する情報収集・調査</u> 水原</p> <p>第10回 <u>「Society5.0, Iot」に関する発表</u> 水原</p> <p>第11回 <u>「Society5.0, Iot」に関するディスカッション</u> 水原</p> <p>第12回 <u>「ウェブ上の宣伝広告, 消費行動」に関する情報収集・調査</u> 水原</p> <p>第13回 <u>「ウェブ上の宣伝広告, 消費行動」に関する発表</u> 水原</p> <p>第14回 <u>「ウェブ上の宣伝広告, 消費行動」に関するディスカッション</u> 水原</p> <p>第15回 <u>まとめ</u> 佐藤、水原</p> <p><u>定期試験：行わない</u></p> <p>(4) 成績評価の方法 授業への取り組み方（発表，ディスカッション）（100%）を基に，研究能力と情報活用能力を評価する。</p> <p><u>得点率による評価基準は次のとおりとする。</u></p> <p><u>90%以上 秀，89-80% 優，79-70% 良，69-60% 可，59%以下 不可。</u></p> | <p><u>ン</u> 佐藤、水原</p> <p>第8回 <u>研究計画に関するディスカッション</u> 佐藤、水原</p> <p>第9回 <u>調査・実験の準備</u> 佐藤</p> <p>第10回 <u>調査・実験の実施</u> 佐藤</p> <p>第11回 <u>データの基礎集計</u> 佐藤</p> <p>第12回 <u>データの応用的分析</u> 佐藤</p> <p>第13回 <u>研究のまとめ</u> 佐藤</p> <p>第14回 <u>研究プレゼンテーション</u> 佐藤、水原</p> <p>第15回 <u>研究プレゼンテーションに関するディスカッション，まとめ</u> 佐藤、水原</p> <p>(4) 成績評価の方法 授業への参加度（発表，ディスカッション）（100%）を基に，研究能力と情報活用能力を評価する。</p> |
| <p>歴史学総合演習 I（日本史学研究法）</p> <p>(4) 成績評価の方法 e-alps の課題（50%）、<u>授業態度（50%）の総合評価</u> <u>得点率による評価基準は次のとおりとする。90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>【卓越している＝秀】日本史学研究法に関する基礎的な知識をもとに、論理的に思考し、批判的に分析し、自律的に考える力を総合して、極めて高い水準にある。</u> <u>【かなり上にある＝優】日本史学研究法に関する基礎的な知識をもとに、論理的に思</u></p> | <p>歴史学総合演習 I（日本史学研究法）</p> <p>(4) 成績評価の方法 e-alps の課題（50%）、<u>平常点（50%）の総合評価</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>授業中の討論を通じて理解度を測り、自分の主張は客観的であるか、他の人の理解を得られる論理的な発言かをみる。また、プレゼンテーションの内容がどれだけ客観的か、論理的であるか、わかりやすく構成されているかを総合的に判断する。</u></p> |

| | |
|--|--|
| <p><u>考し、批判的に分析し、自律的に考える力を総合して、非常に高い水準にある。</u></p> <p><u>【やや上にある＝良】日本史学研究法に関する基礎的な知識をもとに、論理的に思考し、批判的に分析し、自律的に考える力を総合して、高い水準にある。</u></p> <p><u>【その水準にある＝可】日本史学研究法に関する基礎的な知識をもとに、論理的に思考し、批判的に分析し、自律的に考える力を総合して、一定水準にある。</u></p> <p>【教科書】 各回の内容に合わせて独自に作成したプリントをそのつど配布する。</p> | <p>【教科書】 授業中に指示・配布する。</p> |
| <p>歴史学総合演習Ⅱ（西洋史・東洋史学研究法）</p> <p>(4) 成績評価の方法</p> <p>●以下を総合して判定する。 授業への取り組み方（70%）、レポート（30%）※評価割合は若干の調整を行うことがある。</p> <p>●得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</p> <p>(5) 成績評価の基準</p> <p><u>【卓越している】外国史に関わる歴史学研究法に関する基礎的な知識をもとに、情報を収集し、論理的に思考し、一般化可能な形で収集した情報を提示できる力を総合して、極めて高い水準にある。</u></p> <p><u>【かなり上にある】外国史に関わる歴史学研究法に関する基礎的な知識をもとに、情報を収集し、論理的に思考し、一般化可能な形で収集した情報を提示できる力を総合して、非常に高い水準にある。</u></p> <p><u>【やや上にある】外国史に関わる歴史学研究法に関する基礎的な知識をもとに、情報を収集し、論理的に思考し、一般化可能な形で収集した情報を提示できる力を総合して、高い水準にある。</u></p> <p><u>【その水準にある】外国史に関わる歴史学研究法に関する基礎的な知識をもとに、情報を収集し、論理的に思考し、一般化可能な形で収集した情報を提示できる力を総合して、一定水準にある。</u></p> | <p>歴史学総合演習Ⅱ（西洋史・東洋史学研究法）</p> <p>(4) 成績評価の方法</p> <p>授業中の討論を通じて理解度を測り（20%）、自分の主張をどれだけ客観的に行っているか（20%）、他の人の理解を得られる論理的な発言か（20%）をみる。また、プレゼンテーションの内容がどれだけ客観的、論理的であるか（20%）、理解し組み上がっているか（20%）を総合的に判断する。</p> <p>(5) 成績評価の基準</p> <p>理解度：テキスト内容・自らのプレゼン内容などを概ね把握できていれば「その水準にある」とし、内容をふまえてさらに踏み込んだ発言があれば「卓越している」と評価する。</p> <p>客観性：自らの主張に際して、三人称を用い、感覚的な表現を排して、一般化が可能な論理を用いることができているならば「その水準にある」と評価する。</p> <p>論理性：自らの主張に際して、破綻なく議論を組み立てられていれば「その水準にある」と評価する。</p> |

| | |
|--|---|
| <p>【教科書】 <u>各回の内容に合わせて独自に作成したプリントをそのつど配布する。</u></p> | <p>【教科書】 <u>授業中に資料を配布する。</u></p> |
| <p>日本語文化総合演習Ⅰ（異文化としての日本語・日本文学） (4) 成績評価の方法 目標への到達度をはかるため、各授業においてコメントシートの提出を課す（40点）。また、授業における作業への取り組み（40点）、フィールドワークに関するレポート（20点）を総合して評価する。 <u>得点による評価基準は次のとおりとする。</u> <u>合計100点満点のうち、90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可と評価する。59点以下の場合は単位認定しない。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>テキスト精読や補足的準備を中心とした事前および事後学習を基に授業での報告や討議への積極的・能動的な参加が求められる。以上に加え、レポート課題に対し適切に問題設定を行い、授業で学んだ専門的概念や視点を用いて論理的に論述できれば、本授業の達成目標の「水準にある」と判定する。加えて、適切な具体例を挙げつつ論述できるならば水準の「やや上にある」とし、基本的概念と具体例を統合的に用いて論述できるならば水準の「かなり上にある」と判定する。さらに、授業で学んだ事項を統合的に用い、具体例を挙げつつ、応用的かつ発展的に、そして複眼的に論述できる場合は水準を「卓越している」と判定する。</u></p> | <p>日本語文化総合演習Ⅰ（異文化としての日本語・日本文学） (4) 成績評価の方法 目標への到達度をはかるため、各授業においてコメントシートの提出を課す（40点）。また、授業における作業への取り組み（40点）、フィールドワークに関するレポート（20点）を総合して評価する。</p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>合計100点満点のうち、90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可と評価する。59点以下の場合は単位認定しない。</u></p> |
| <p>【教科書】 <u>『仮名草子集成』第58巻（柳沢昌紀等編、東京堂出版、2017年）</u> <u>『「やさしい日本語」は何を目指すか—多文化共生社会を実現するために』（庵功雄ほか編、2013年、ココ出版）</u></p> <p>【参考文献】： 新編日本古典文学全集『枕草子』（小学館1986） 新日本古典文学大系明治編『新体詩 聖書讃美歌集』（岩波書店2001）</p> | <p>【教科書】 <u>毎回の授業において、担当教員による資料を配布する。</u></p> <p>【参考文献】： 新編日本古典文学全集『枕草子』（小学館1986） 新日本古典文学大系明治編『新体詩 聖書讃美歌集』（岩波書店2001）</p> |

| | |
|---|--|
| <p>『〈やさしい日本語〉と多文化共生』（庵功雄ほか編、ココ出版、2019年）</p> | |
| <p>日本語文化総合演習Ⅱ（古代日本語文献コミュニケーション論） (5) 成績評価の基準 90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可と評価する。59点以下の場合には単位認定しない。 <u>【秀：卓越している】文献学的研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な学的処理を行い、論理的思考し、自律的に考える力を総合して、極めて高い水準にある。</u> <u>【優：かなり上にある】文献学的研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な学的処理を行い、論理的思考し、自律的に考える力を総合して、非常に高い水準にある。</u> <u>【良：やや上にある】文献学的研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な学的処理を行い、論理的思考し、自律的に考える力を総合して、高い水準にある。</u> <u>≧【可：その水準にある】文献学的研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な学的処理を行い、論理的思考し、自律的に考える力を総合して、一定水準にある。</u></p> <p><u>【教科書】</u> 各回の内容に合わせて独自に作成したプリントをそのつど配布する。</p> <p><u>【参考文献】</u> 山田健三（2014）「仮名をめぐる歴史上の書記用語・再考」（『日本語学』32-11（通巻414号））、堀川貴司『書誌学入門 古典籍を見る・知る・読む』勉誠出版、他。</p> | <p>日本語文化総合演習Ⅱ（古代日本語文献コミュニケーション論） (5) 成績評価の基準 90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可と評価する。59点以下の場合には単位認定しない。</p> <p><u>【教科書】</u> テキスト（論文・資料等）は授業中に配布する。</p> <p><u>【参考文献】</u> 山田健三（2014）「仮名をめぐる歴史上の書記用語・再考」（『日本語学』32-11（通巻414号））、堀川貴司『書誌学入門 古典籍を見る・知る・読む』勉誠出版、他。<u>授業内にて紹介する。</u></p> |
| <p>英米言語文化総合演習Ⅰ（英語学） (4) 成績評価の方法 授業内でのアクティビティ50%とレポート50%による。 ●<u>得点率による評価基準は次のとおりとする。</u> <u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>【卓越している（秀）】文献を的確に理解し議論が行えたか及びすぐれたレポートが</u></p> | <p>英米言語文化総合演習Ⅰ（英語学） (4) 成績評価の方法 授業内でのアクティビティ50%とレポート50%による。</p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>授業内でのアクティビティ50%とレポート50%による。評価点は、文献を的確に理</u></p> |

| | |
|---|--|
| <p>書けたかという点において、極めて高い水準にある。</p> <p><u>【かなり上にある（優）】</u> 文献を的確に理解し議論が行えたか及びすぐれたレポートが書けたかという点において、非常に高い水準にある。</p> <p><u>【やや上にある（良）】</u> 文献を的確に理解し議論が行えたか及びすぐれたレポートが書けたかという点において、高い水準にある。</p> <p><u>【その水準にある（可）】</u> 文献を的確に理解し議論が行えたか及びすぐれたレポートが書けたかという点において、一定水準にある。</p> <p>【教科書】 Hornsby, David. <i>Linguistics: A Complete Introduction</i>. Teach Yourself, 2014. Campbell, Lyle. <i>Historical Linguistics: An Introduction</i>. MIT Press, 2013. <u>他</u></p> <p>【参考文献】 <i>The Concise Oxford Dictionary of Linguistics</i>. 2014. <i>The Routledge Encyclopedia of Film Theory</i>. 2014. <u>他</u></p> | <p>解し議論できたか、すぐれたレポートが書けたかである。その度合いに応じて、合計100点で評価し、90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可と評価し、60点未満の場合は単位を与えない。</p> <p>【教科書】 Hornsby, David. <i>Linguistics: A Complete Introduction</i>. Teach Yourself, 2014. Campbell, Lyle. <i>Historical Linguistics: An Introduction</i>. MIT Press, 2013. <u>その他にプリントも配布する。</u></p> <p>【参考文献】 <i>The Concise Oxford Dictionary of Linguistics</i>. 2014. <i>The Routledge Encyclopedia of Film Theory</i>. 2014. <u>その他は授業中に適宜紹介する。</u></p> |
| <p>英米言語文化総合演習Ⅱ（英米言語文化） （4）成績評価の方法 授業内でのアクティビティ50%とレポート50%による。 ●得点率による評価基準は次のとおりとする。 <u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>（5）成績評価の基準 <u>【卓越している（秀）】</u> 問題に関して英語で議論できたか及びそれに基づいて優れたレポートが書けたか、という点において、極めて高い水準にある。 <u>【かなり上にある（優）】</u> 問題に関して英語で議論できたか及びそれに基づいて優れたレポートが書けたか、という点において、非常に高い水準にある。 <u>【やや上にある（良）】</u> 問題に関して英語で議論できたか及びそれに基づいて優れた</p> | <p>英米言語文化総合演習Ⅱ（英米言語文化） （4）成績評価の方法 授業内でのアクティビティ50%とレポート50%による。</p> <p>（5）成績評価の基準 授業内でのディスカッションのアクティビティ50%とレポート50%による。評価点は、問題に関して英語で議論できたか、それに基づいてすぐれたレポートが書けたかである。その度合いに応じて、合計100点で評価し、90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可と評価し、60点未満の場合は単位を与えない。</p> |

| | |
|---|--|
| <p><u>レポートが書けたか、という点において、高い水準にある。</u></p> <p><u>【その水準にある（可）】問題に関して英語で議論できたか及びそれに基づいて優れたレポートが書けたか、という点において、一定水準にある。</u></p> <p>【教科書】 <i>Contemporary Literary & Cultural Theory: The Johns Hopkins Guide: Johns Hopkins Guide.</i> Johns Hopkins UP, 2012. <i>The Routledge Encyclopedia of Film Theory.</i> Routledge, 2015. <u>他</u></p> <p>【参考文献】 <i>The Concise Oxford Dictionary of Linguistics.</i> 2014. <i>Oxford Concise Companion to English Literature.</i> 2012. Kehe, David. et al. <i>Discussion Strategies.</i> Pro Lingua Associates 2012. <u>他</u></p> | <p>【教科書】 <i>Contemporary Literary & Cultural Theory: The Johns Hopkins Guide: Johns Hopkins Guide.</i> Johns Hopkins UP, 2012. <i>The Routledge Encyclopedia of Film Theory.</i> Routledge, 2015. <u>その他にプリントも配布する。</u></p> <p>【参考文献】 <i>The Concise Oxford Dictionary of Linguistics.</i> 2014. <i>Oxford Concise Companion to English Literature.</i> 2012. Kehe, David. et al. <i>Discussion Strategies.</i> Pro Lingua Associates 2012. <u>その他は授業中に適宜紹介する。</u></p> |
| <p>比較言語文化総合演習 I（散文） (4) 成績評価の方法 ●以下を総合して判定する。 <u>合評会での質疑応答内容（50%），レポート（50%）*評価割合は若干調整を行う場合もある。</u> ●得点率による評価基準は次のとおりとする。 <u>90%以上 秀，89-80% 優，79-70% 良，69-60% 可，59%以下 不可</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>【卓越している】各研究領域の授業で扱われた問題を理解し，質疑応答を通して問題を深めながら新たな課題を見つけ，その課題解決の道筋を示すことができ，各専門領域の相互連関を踏まえて自ら関心を抱いているテーマを大きな展望のもとに位置づける力を総合して，極めて高い水準にある。秀</u> <u>【かなり上にある】上記の力が，非常に高い水準にある。優</u> <u>【やや上にある】上記の力が，高い水準にある。良</u> <u>【その水準にある】上記の力が，一定の水準にある。可</u></p> | <p>比較言語文化総合演習 I（散文） (4) 成績評価の方法 「授業のねらい」で掲げた内容を問うレポートを期末に課し、それによって評価を行う。<u>なう。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 (1)各研究領域の授業で扱われた問題を理解し説明することができ、(2)各研究領域の授業で扱われた問題と自らの専門領域及び現在関心を抱いているテーマとの関連を説明することができ、(3)質疑応答を通して問を深めながら新たな課題を発見することができ、(4)その課題の解決のための道筋をつけることができ、(5)各研究領域の授業の相互連関を踏まえて自らの専門領域及び現在関心を抱いているテーマを大きな展望のもとに位置づけることができ、さらに(1)～(5)に加えて、授業で学んだ中の複数の研究領域に関わる文献を参照した上で独</p> |

| | |
|--|--|
| <p>【教科書】 各回の内容に合わせて独自に作成したプリントをそのつど配布する。</p> <p>【参考文献】 阿部良雄『ボードレール全集IV』筑摩書房、1987年 佐々木昭夫編『日本近代文学と西欧—比較文学の諸相』翰林書房、1997年 眞鍋正記『クライスト、認識の擬似性に抗して—その執筆手法』鳥影社、2012年 他</p> | <p>自の見解を提示することができれば「卓越している」。(1)から(5)の5項目を満たしていれば「かなり上にある」。(1)から(4)までの項目を満たしていれば「やや上にある」。(1)から(3)までの項目を満たしていれば「合格水準にある」と評価される。</p> <p>【教科書】 プリント(担当・副担当教員の論文等)を配布して進める。</p> <p>【参考文献】 阿部良雄『ボードレール全集IV』筑摩書房、1987年 佐々木昭夫編『日本近代文学と西欧—比較文学の諸相』翰林書房、1997年 眞鍋正記『クライスト、認識の擬似性に抗して—その執筆手法』鳥影社、2012年 その他、教場で指示する。</p> |
| <p>比較言語文化総合演習Ⅱ(韻文) (4)成績評価の方法 ●以下を総合して判定する。 合評会での質疑応答内容(50%)、レポート(50%) *評価割合は若干調整を行う場合もある。 ●得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可 (5)成績評価の基準 【卓越している】各研究領域の授業で扱われた問題を理解し、質疑応答を通して問題を深めながら新たな課題を見つけ、その課題解決の道筋を示すことができ、各専門領域の相互連関を踏まえて自ら関心を抱いているテーマを大きな展望のもとに位置づける力を総合して、極めて高い水準にある。秀 【かなり上にある】上記の力が、非常に高い水準にある。優 【やや上にある】上記の力が、高い水準にある。良 【その水準にある】上記の力が、一定の水準にある。可</p> | <p>比較言語文化総合演習Ⅱ(韻文) (4)成績評価の方法 「授業のねらい」で掲げた内容を問うレポートを期末に課し、それによって評価を行う。 (5)成績評価の基準 (1)各研究領域の授業で扱われた問題を理解し説明することができ、(2)各研究領域の授業で扱われた問題と自らの専門領域及び現在関心を抱いているテーマとの関連を説明することができ、(3)質疑応答を通して問を深めながら新たな課題を発見することができ、(4)その課題の解決のための道筋をつけることができ、(5)各研究領域の授業の相互連関を踏まえて自らの専門領域及び現在関心を抱いているテーマを大きな展望のもとに位置づけることができ、さらに(1)～(5)に加えて、授業で学んだ中の複数の研究領域に関わる文献を参照した上で自見の解を提示することができれば「卓越している」。(1)から(5)の5項目を満たしていれば「かなり上にある」。(1)から(4)までの項目を満たしていれば「やや上にある」。(1)か</p> |

| | |
|--|--|
| <p>【教科書】 各回の内容に合わせて独自に作成したプリントをそのつど配布する。</p> <p>【参考文献】 杉山正樹『やさしいフランス詩法』白水社、1981年 日本比較文学会編『越境する言の葉—世界と出会う日本文学』彩流社、2011年 山口四郎『ドイツ詩必携—詩法と評釈』鳥影社、2001年 他</p> | <p>ら(3)までの項目を満たしていれば「合格水準にある」と評価される。</p> <p>【教科書】 プリント（担当・副担当教員の論文等）を配布する。</p> <p>【参考文献】 杉山正樹『やさしいフランス詩法』白水社、1981年 日本比較文学会編『越境する言の葉—世界と出会う日本文学』彩流社、2011年 山口四郎『ドイツ詩必携—詩法と評釈』鳥影社、2001年 その他、教場で指示する。</p> |
| <p>芸術コミュニケーション総合演習Ⅰ（理論と歴史） （4）成績評価の方法 以下を総合して判定する。 各回の授業時の発表（レジュメ含む）30%、ディスカッション30%、最終レポート40%※評価割合は若干の調整を行うことがある。 得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</p> <p>（5）成績評価の基準 【卓越している】芸術コミュニケーション研究に関する基礎的な知識をもとに、文献を読解し、芸術文化の諸相を検討し、その現状と課題を分析する力において、極めて高い水準にある。 【かなり上にある】芸術コミュニケーション研究に関する基礎的な知識をもとに、文献を読解し、芸術文化の諸相を検討し、その現状と課題を分析する力において、非常に高い水準にある。 【やや上にある】芸術コミュニケーション研究に関する基礎的な知識をもとに、文献を読解し、芸術文化の諸相を検討し、その現状と課題を分析する力において、高い水準にある。 【その水準にある】芸術コミュニケーション研究に関する基礎的な知識をもとに、文献を読解し、芸術文化の諸相を検討し、そ</p> | <p>芸術コミュニケーション総合演習Ⅰ（理論と歴史） （4）成績評価の方法 各回の授業時の発表（レジュメ含む）30%、ディスカッション30%、最終レポート40%</p> <p>（5）成績評価の基準 発表について 基本的な訳出と要旨の抽出ができていれば「水準にある」。重要語句・重要事例に対する理解が進んでいれば「やや上にある」。テキストの理解に基づいて自身の見解も示せれば「かなり上にある」。さらに他のテキストや事例を援用するなど、主体的な学習と思考が加えられていれば「卓越している」。 レポートについて 授業で示した基本用語・事例を理解していれば「水準にある」。重要語句・重要事例に対する理解が進んでいれば「やや上にある」。授業内容をしっかり理解し、自身の見解も示せれば「かなり上にある」。授業内容を完全に把握し、さらに主体的な学習と思考が加えられていれば「卓越している」。</p> |

| | |
|--|---|
| <p><u>の現状と課題を分析する力において、一定水準にある。</u></p> <p>【教科書】 なし。<u>ただし各回の内容に合わせて独自に作成したプリントをそのつど配布する。</u></p> <p>【参考文献】 Philip V. Bohlman(ed), <i>The globalization of world music in history</i>, Cambridge University Press, 2013. <u>他。</u></p> | <p>【教科書】 <u>なし。必要な資料は配布。もしくは入手方法を指示する。</u></p> <p>【参考文献】 Philip V. Bohlman(ed), <i>The globalization of world music in history</i>, Cambridge University Press, 2013. <u>他、授業中に適宜指示する。</u></p> |
| <p>芸術コミュニケーション総合演習Ⅱ（個別研究） （4）成績評価の方法 <u>以下を総合して判定する。</u> 各回の授業時の発表（レジュメ含む）30%、ディスカッション30%、最終レポート40%<u>※評価割合は若干の調整を行うことがある。</u> <u>得点率による評価基準は次のとおりとする。</u> <u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>（5）成績評価の基準 <u>【卓越している】芸術コミュニケーション総合演習Ⅰ（理論と歴史）の学修成果を基盤に、文献を精読し、芸術文化の諸相を検討し、その現状と課題を分析する力において、極めて高い水準にある。</u> <u>【かなり上にある】芸術コミュニケーション総合演習Ⅰ（理論と歴史）の学修成果を基盤に、文献を精読し、芸術文化の諸相を検討し、その現状と課題を分析する力において、非常に高い水準にある。</u> <u>【やや上にある】芸術コミュニケーション総合演習Ⅰ（理論と歴史）の学修成果を基盤に、文献を精読し、芸術文化の諸相を検討し、その現状と課題を分析する力において、高い水準にある。</u> <u>【その水準にある】芸術コミュニケーション総合演習Ⅰ（理論と歴史）の学修成果を基盤に、文献を精読し、芸術文化の諸相を検討し、その現状と課題を分析する力において、一定水準にある。</u></p> <p>【教科書】</p> | <p>芸術コミュニケーション総合演習Ⅱ（個別研究） （4）成績評価の方法 各回の授業時の発表（レジュメ含む）30%、ディスカッション30%、最終レポート40%</p> <p>（5）成績評価の基準 発表について <u>基本的な訳出と要旨の抽出ができていれば「水準にある」。重要語句・重要事例に対する理解が進んでいれば「やや上にある」。テキストの理解に基づいて自身の見解も示せれば「かなり上にある」。さらに他のテキストや事例を援用するなど、主体的な学習と思考が加えられていれば「卓越している」。</u> レポートについて <u>授業で示した基本用語・事例を理解していれば「水準にある」。重要語句・重要事例に対する理解が進んでいれば「やや上にある」。授業内容をしっかり理解し、自身の見解も示せれば「かなり上にある」。授業内容を完全に把握し、さらに主体的な学習と思考が加えられていれば「卓越している」。</u></p> <p>【教科書】</p> |

| | |
|---|--|
| <p>なし。ただし各回の内容に合わせて独自に作成したプリントをそのつど配布する。</p> <p>【参考文献】 Hal Foster, Rosalind Krauss, Yve-Alain Bois, Benjamin H. D. Buchloh, David Joselit, <i>Art Since 1900: Modernism Antimodernism Postmodernism</i>, Thames & Hudson, 2016. 他。</p> | <p>なし。必要な資料は配布。もしくは入手方法を指示する。</p> <p>【参考文献】 Hal Foster, Rosalind Krauss, Yve-Alain Bois, Benjamin H. D. Buchloh, David Joselit, <i>Art Since 1900: Modernism Antimodernism Postmodernism</i>, Thames & Hudson, 2016. 他、授業中に適宜紹介する。</p> |
| <p>哲学思想論実践実習 I (アカデミックリテラシー)</p> <p>(1) 授業のねらい 「<u>哲学的思考を現代社会に適用すること</u>」をテーマとする授業である。また、この授業の到達目標は、<u>混迷の度を深め、複雑さを増す社会のリーダーとなるべき人材が身につけておくべきスキルとしての「哲学的リテラシーの習得」に定められている。言い換えるならば、「来るべき知識基盤型社会を生き抜く新たな知の技法」としての「哲学的思考」を、「現代社会における諸問題に適用するための実践的技術」として活用できるようになることが本授業の目標である。</u></p> <p>(2) 授業の概要 「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」と題された中教審答申は、「知識集約型社会」の到来を前に、2040年の中等・高等教育を担う未来人材が身につけておくべき「<u>基盤的リテラシー</u>」のあり方を提案している。この授業では、中教審答申の前提をなしている OECD による「<u>キー・コンピテンシー</u>」の定義を出発点に採用しつつ、その発想を「<u>哲学</u>」という領域に固有の方法と融合させることを試みる。すなわち、<u>現代社会を生きる「21世紀型市民」に必須の「基盤的リテラシー」のあり方を、「哲学を学習するもの」に固有の知的技術や思考の方法との連続性のもとに明確化し、そのことをもって日常的な「哲学」の学習を「現代社会の諸問題に適用可能な実践的知の技法」へと接続することがこの授業では試みられる。</u></p> <p>(3) 授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：OECDによるキー・コンピテンシーの定義を理解する</p> | <p>哲学思想論実践実習 I (アカデミックリテラシー)</p> <p>(1) 授業のねらい 混迷の度を深め、複雑さを増す社会のリーダーとなるべき人材が身につけておくべき「<u>アカデミック・リテラシーの習得</u>」を目指して授業が行われる。言い換えるならば、「<u>来るべき知識基盤型社会を生き抜く新たな知の技法</u>」の習得を目指した実践的演習が行われる。</p> <p>(2) 授業の概要 本授業では、「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」と題された中教審答申が予測する「<u>知識集約型社会</u>」の到来を前に、2040年の中等・高等教育を担う未来人材が身につけておくべき<u>基盤的リテラシーのうち、情報収集、情報の理解と整理(読書)、情報発信(プレゼンテーション)の習得に焦点を合わせた演習を行う。</u></p> <p>(3) 授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：OECDによるキー・コンピテンシーの</p> |

| | |
|---|--|
| <p>第3回：「現代に生きる哲学的方法」としての「ソクラテス的対話」</p> <p>第4回：情報リテラシーとしての「哲学的懐疑」</p> <p>第5回：「レトリック」と「わかりやすい文章」の関係について</p> <p>第6回：「分析哲学の明晰さ」は「伝わる文章」と何か関係があるのか？</p> <p>第7回：図書館はいまでも「知の殿堂」たりえているか</p> <p>第8回：学問と政治（1）：京都学派と戦争協力</p> <p>第9回：学問と政治（2）：ハイデガーとナチズム</p> <p>第10回：「大衆の時代」と「批判的精神」</p> <p>第11回：データ・サイエンスの時代に「教養市民層」は何ができるか</p> <p>第12回：「専門書」のポキャブラリーをパラフレーズする技術</p> <p>第13回：「翻訳文化の功罪」について</p> <p>第14回：ネオ・プラグマティズムとフェイク・ニュースの時代</p> <p>第15回：まとめと振り返り（ピア評価の実践）</p> <p>定期試験：実施しない。</p> <p>（4）成績評価の方法</p> <p>ピア評価のシステムを導入する。ピア評価シートを用いて、プログラム開始時から終了時までの活動参加度、発話回数、他者の発話に真摯に耳を傾け、理解しようとする態度などの成長度合いを定量的に測定する。また、最終レポートとして、「自分が成長したと思える理由」を、具体的なエピソードと共に記述してもらうことを通じて、学修成果の確実な測定を実現する。</p> <p><u>得点率による評価基準</u> 90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</p> <p>【教科書】： リチャード・ローティ『プラグマティズムの帰結』、ちくま学芸文庫、2014年 鈴木哲也、高瀬桃子『学術書を書く』、京都大学学術出版会、2015年</p> | <p>定義を理解する</p> <p>第3回：情報収集の技法（1）ネット上の情報を活用する</p> <p>第4回：情報収集の技法（2）フェイク・ニュースとファクト・チェック</p> <p>第5回：情報収集の技法（3）図書館の活用</p> <p>第6回：情報収集の技法（4）翻訳について</p> <p>第7回：情報収集の技法（5）専門書の活用の仕方</p> <p>第8回：読書の技法（1）多読と精読</p> <p>第9回：読書の技法（2）ノートテイキング</p> <p>第10回：読書の技法（3）クリティカル・シンキング</p> <p>第11回：プレゼンテーションの技法（1）事例に学ぶ</p> <p>第12回：プレゼンテーションの技法（2）「話す速度」について</p> <p>第13回：プレゼンテーションの技法（3）「ポキャブラリーの選択」</p> <p>第14回：プレゼンテーションの技法（4）スライドデザインと身体的コミュニケーション</p> <p>第15回：まとめと振り返り（ピア評価の実践）</p> <p>定期試験：実施しない。</p> <p>（4）成績評価の方法</p> <p>ピア評価のシステムを導入する。ピア評価シートを用いて、プログラム開始時から終了時までの活動参加度、発話回数、他者の発話に真摯に耳を傾け、理解しようとする態度などの成長度合いを定量的に測定する。また、最終レポートとして、「自分が成長したと思える理由」を、具体的なエピソードと共に記述してもらうことを通じて、学修成果の確実な測定を実現する。</p> <p>【教科書】： 戸田山和久（2012）『新版 論文の教室』NHK出版</p> |
|---|--|

| | |
|--|--|
| <p>【参考書】： <u>中嶋嶺雄『学歴革命：国際教養大学の挑戦』、KKベストセラーズ、2012年</u> <u>松下佳代・京都大学高等教育研究開発推進センター（編）『ディープ・アクティブラーニング：大学授業を深化させるために』、2015年</u></p> | <p><u>ジェレミー・ドノバン『TEDトーク 世界最高のプレゼン術』</u> 【参考書】： <u>授業中に指示する。</u></p> |
| <p>哲学思想論実践実 II（イノベーションコンピテンシー） (1) 授業のねらい <u>「哲学的思考を現代社会に適用すること」をテーマとする授業である。また、この授業の到達目標は、混迷の度を深め、複雑さを増す社会のリーダーとなるべき人材が身につけておくべきスキルとしての「哲学的リテラシーの習得」に定められている。言い換えるならば、「来るべき知識基盤型社会を生き抜く新たな知の技法」としての「哲学的思考」を、「現代社会における諸問題に適用するための実践的技術」として活用できるようになることが本授業の目標である。</u></p> <p>(2) 授業の概要 <u>「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」と題された中教審答申は、「知識集約型社会」の到来を前に、2040年の中等・高等教育を担う未来人材が身につけておくべき「基盤的リテラシー」のあり方を提案している。また、その前提となるOECDの提言は、「変革を起こすコンピテンシー」として、3つの能力——すなわち「新たな価値を想像する力、対立やジレンマを克服する力、責任ある行動をとる力」——を挙げている。</u> <u>この授業では、OECDによる「変革を起こすコンピテンシー」の定義を出発点に採用しつつ、その発想を「哲学」という領域に固有の方法と融合させることを試みる。すなわち、現代社会を生きる「21世紀型市民」に必須の「変革を起こすコンピテンシー」のあり方を、「哲学を学習するもの」に固有の知的技術や思考の方法との連続性のもとに明確化し、そのことをもって日常的な「哲学」の学習を「現代社会の諸問題に適用可能な実践的知の技法」へと接続することがこの授業では試みられる。</u></p> | <p>哲学思想論実践実 II（イノベーションコンピテンシー） (1) 授業のねらい 混迷の度を深め、複雑さを増す社会のリーダーとなるべき人材が身につけておくべき「<u>アカデミック・リテラシーの習得</u>」を目指して授業が行われる。言い換えるならば、「<u>来るべき知識基盤型社会を生き抜く新たな知の技法</u>」の習得を目指した実践的演習が行われる。</p> <p>(2) 授業の概要 本授業では、「<u>2040年に向けた高等教育のグランドデザイン</u>」と題された中教審答申が予測する知識集約型社会の到来を前に、<u>OECDが「変革を起こすコンピテンシー」として定義する 3つの能力、すなわち、「新たな価値を想像する力、対立やジレンマを克服する力、責任ある行動をとる力」を習得することを目指す。</u></p> |

| | |
|---|---|
| <p>(3) 授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：「自主的な学び」とソクラテスの産婆術</p> <p>第3回：「アダルト・ラーニング」とプラトンのアカデメイア</p> <p>第4回：「レジリエンス」を強化する実践的技法としての瞑想について</p> <p>第5回：「ライフ・デザイン」：マルクス・アウレリウスにおける「皇帝であること」と「哲学者であること」の両立について</p> <p>第6回：「協同で考える」(1) 現代に生きる反デカルト主義とデザイン思考の関係について</p> <p>第7回：「協同で考える」(2) 哲学的方法としての「思考実験」とマインドマップの活用</p> <p>第8回：「協同で考える」(3) コミュニケーション・デザインとしての哲学</p> <p>第9回：「考えを伝え／理解を生む」ことについて(1) 「理由の論理空間」という考え方</p> <p>第10回：「考えを伝え／理解を生む」ことについて(2) パラフレーズという手法</p> <p>第11回：「考えを伝え／理解を生む」ことについて(3) 言語分析はいかに文章のあいまいさを減少させるか</p> <p>第11回：リーダーシップについて(1) 俯瞰する力としての哲学的反省</p> <p>第12回：リーダーシップについて(2) 哲学とリーダーシップ</p> <p>第13回：リーダーシップについて(3) カント的啓蒙の精神：みずから手を挙げる勇氣について</p> <p>第14回：リーダーシップについて(4) 大衆の時代を生きるリーダーのあり方について</p> <p>第15回：まとめ(ピア・レビューの実施) 定期試験：行わない</p> <p>(4) 成績評価の方法</p> <p>ピア評価のシステムを導入する。ピア評価シートを用いて、プログラム開始時から終了時までの活動参加度、発話回数、他者の発話に真摯に耳を傾け、理解しようとする態度などの成長度合いを定量的に測定す</p> | <p>(3) 授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：「自主的な学び」に向けた動機づけ</p> <p>第3回：「アダルト・ラーニング」について</p> <p>第4回：「レジリエンス」を強化する実践的技法</p> <p>第5回：「ライフ・デザイン」について</p> <p>第6回：「協同で考える」(1) デザイン思考という発想について</p> <p>第7回：「協同で考える」(2) マインドマップの活用</p> <p>第8回：「協同で考える」(3) コミュニケーションをデザインする</p> <p>第9回：「伝わる文章」の書き方について(1) アウトラインとパラグラフ</p> <p>第10回：「伝わる文章」の書き方について(2) 異論を考慮する</p> <p>第11回：「伝わる文章」の書き方について(3) 主張を根拠付ける</p> <p>第11回：リーダーシップについて(1) 俯瞰する力</p> <p>第12回：リーダーシップについて(2) リーダーシップ教育としてのアクティブ・ラーニング</p> <p>第13回：リーダーシップについて(3) みずから手を挙げる</p> <p>第14回：リーダーシップについて(4) 「評価」の技法</p> <p>第15回：まとめ(ピア・レビューの実施) 定期試験：行わない</p> <p>(4) 成績評価の方法</p> <p>ピア評価のシステムを導入する。ピア評価シートを用いて、プログラム開始時から終了時までの活動参加度、発話回数、他者の発話に真摯に耳を傾け、理解しようとする態度などの成長度合いを定量的に測定す</p> |
|---|---|

| | |
|--|--|
| <p>る。また、最終レポートとして、「自分が成長したと思える理由」を、具体的なエピソードと共に記述してもらうことを通じて、学修成果の確実な測定を実現する。 <u>得点率による評価基準 90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>【教科書】： <u>千葉雅也『勉強の哲学 来るべきバカのために』、文藝春秋、2017年</u></p> <p>【参考書】： <u>バーネット&エヴァンズ (2017) 『ライフデザイン スタanford式最高の人生設計』早川書房</u> <u>ティム・ブラウン (2014) 『デザイン思考が世界を変える イノベーションを導く新しい考え方』ハヤカワ文庫</u> <u>ハイフェッツ&リンスキー (2007) 『最前線のリーダーシップ』ファーストプレス</u></p> | <p>る。また、最終レポートとして、「自分が成長したと思える理由」を、具体的なエピソードと共に記述してもらうことを通じて、学修成果の確実な測定を実現する。</p> <p>【教科書】： <u>バーネット&エヴァンズ (2017) 『ライフデザイン Stanford式最高の人生設計』早川書房</u> <u>ティム・ブラウン (2014) 『デザイン思考が世界を変える イノベーションを導く新しい考え方』ハヤカワ文庫</u> <u>ハイフェッツ&リンスキー (2007) 『最前線のリーダーシップ』ファーストプレス</u></p> <p>【参考書】： <u>授業中に指示する。</u></p> |
| <p>社会学実践演習Ⅰ（社会学の理論と実証） (4) 成績評価の方法 第1回～第7回までの演習で、それぞれ練習問題レポートを課す（35%）。第10回の演習で、対象分析レポートを課す（15%）。第15回終了後、最終レポートを課す（40%）。授業期間中の社会調査の実施と総合討論における主体的なパフォーマンスを評価に加える（10%）。 <u>得点率による評価基準は次のとおりとする。</u> <u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> | <p>社会学実践演習Ⅰ（社会学の理論と実証） (4) 成績評価の方法 第1回～第7回までの演習で、それぞれ練習問題レポートを課す（35%）。第10回の演習で、対象分析レポートを課す（15%）。第15回終了後、最終レポートを課す（40%）。授業期間中の社会調査の実施と総合討論における主体的なパフォーマンスを評価に加える（10%）。</p> |
| <p>社会学実践演習Ⅱ（質的研究法） (1) 授業のねらい <u>社会学の専門研究における〈理論〉と〈実証〉の両輪のうち、実証の柱をなす社会調査法は、質的調査と量的調査に大別される。本授業では質的社会調査に基づく様々な領域社会学の研究成果を通じて、様々な</u></p> | <p>社会学実践演習Ⅱ（質的研究法） (1) 授業のねらい <u>社会調査法は質的調査と量的調査に大別されるが、この授業は質的調査に基づく研究法をテーマとする。聞きとり調査やフィールドワークにもとづくデータだけでなく、新聞・雑誌記事、資料文書、映像、放送、</u></p> |

| | |
|--|---|
| <p><u>領域社会学の概念や視点を身につけると同時に、そうした研究成果がどのような質的社会調査を通じて生産されているのかを理解し、自身の専門研究において質的社会調査を展開することができるようになることを到達目標とする。</u></p> | <p><u>音楽など質的データは多岐にわたるが、質的研究におけるデータ収集の手続きの体系、質的調査によって収集されたデータ分析の方法、さらに質的データを重視した「グラウンデッド・セオリー」の方法を習得することを到達目標とする。</u></p> |
| <p>(2) 授業の概要 <u>社会学における質的社会調査の体系的なテキストである岸他『質的社会調査の方法』を用いて、方法論のレパートリーについて俯瞰した上で、保健医療社会学、教育・労働社会学、都市社会学、文化社会学等の領域社会学における代表的な研究成果の内容的読解と、リサーチ・デザインの批判的検討、質的社会調査の様々な方法論について理解を深めるための演習を実施する。</u></p> | <p>(2) 授業の概要 <u>社会学における質的研究法の体系的なテキストである、J. コービンとA. ストラウスによる <i>Basics of Qualitative Research</i> (邦訳『質的研究の基礎』) を用いた演習を行う。テキストの各章の内容について受講者が報告し、討論を行いながら、課題に取り組む。授業期間中に、受講生の関心に基づいて質的データを収集し、それらをテキストの方法に沿って取り扱う実践的な内容を含む。</u></p> |
| <p>(3) 授業計画 第1回：<u>質的社会調査とは何か</u> 第2回：<u>フィールドワーク、インタビュー法、参与観察法</u> 第3回：<u>ハンセン病者のライフヒストリー研究の内容理解</u> 第4回：<u>『「病の経験」を聞き取る』におけるリサーチ・デザインの批判的検証</u> 第5回：<u>生活史調査の方法 [中間レポート①]</u> 第6回：<u>イギリスにおける教育と労働に関するフィールドワーク研究の内容理解</u> 第7回：<u>『ハマータウンの野郎ども』におけるリサーチ・デザインの批判的検証</u> 第8回：<u>フィールドワークおよび異なる水準のインタビューの方法 [中間レポート②]</u> 第9回：<u>アーバニズムの下位文化理論に関する参与観察研究の内容理解</u> 第10回：<u>『都市の舞台俳優たち』におけるリサーチ・デザインの批判的検証</u> 第11回：<u>参与観察の方法 [中間レポート③]</u> 第12回：<u>「自己」の文化社会学的解明に関するドキュメント分析の内容理解</u> 第13回：<u>『自己啓発の時代』におけるリサーチ・デザインの批判的検証</u> 第14回：<u>ドキュメント分析法 [中間レポート④]</u></p> | <p>(3) 授業計画 第1回：<u>質的研究とは何か</u> 第2回：<u>質的研究を行ううえでの検討事項</u> 第3回：<u>分析へのプレリユード</u> 第4回：<u>質的データ分析の戦略</u> 第5回：<u>文脈、プロセス、理論的統合への導入 [練習問題レポート]</u> 第6回：<u>メモとダイアグラム</u> 第7回：<u>理論的サンプリング</u> 第8回：<u>質的データの収集</u> 第9回：<u>質的データの集計</u> 第10回：<u>概念開発のためのデータ分析</u> 第11回：<u>分析の精緻化 [練習問題レポート]</u> 第12回：<u>文脈に基づくデータ分析</u> 第13回：<u>分析のプロセスへの取り込み</u> 第14回：<u>カテゴリーの統合</u> 第15回：<u>受講者が収集したデータの記述と概念化、最終レポート課題の提示</u></p> |

| | |
|--|---|
| <p>第15回：質的社会調査に立脚した受講者のリサーチ・デザインの検討</p> <p>(4) 成績評価の方法 <u>第5回、第8回、第11回、第14回に中間レポート(40%)を課す。第15回終了後、最終レポート(60%)を課す。</u> <u>得点率による評価基準は次のとおりとする。</u> <u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>1)各領域の社会学の代表的な成果と理論的インプリケーションを読み解き、2)質的社会調査によるデータ収集と解釈の体系について整序することができ、3)各種の方法論が持つ得失を適切に識別し論じることができ、4)十分な能力の涵養が認められれば「卓越している」と評価する。いずれかに卓越さが欠ける場合には「かなり上にある」、以上の項目の全てに妥当性が認められ、いずれかに秀でる点がある場合は「やや上にある」、総合的に妥当性が認められる場合は「その水準にある」と評価する。</u></p> <p>【教科書】： <u>岸政彦・石岡丈昇・丸山里美(2016)『質的社会調査の方法：他者の合理性の理解社会学』有斐閣。</u></p> <p>【参考書】 <u>蘭由岐子(2017)『「病の経験」を聞き取る：ハンセン病者のライフヒストリー』生活書院</u> <u>P.ウィリス(1977=1996)『ハマータウンの野郎ども：学校への反抗、労働への順応』ちくま学芸文庫</u> <u>田村公人(2015)『都市の舞台俳優たち：アーバニズムの下位文化理論の検証に向かって』ハーベスト社</u> <u>牧野智和(2012)『自己啓発の時代：「自己」の文化社会学的探求』勁草書房</u></p> | <p>(4) 成績評価の方法 <u>第5回と第11回に練習問題レポート(40%)を課す。第15回終了後、最終レポート(60%)を課す。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>1)質的研究におけるデータ収集の手続きの体系について適切に説明でき、2)質的調査によって収集されたデータ分析の方法を適切にオペレートすることができるかを評価する。十分な能力の涵養が認められれば「卓越している」と評価する。いずれかに卓越さが欠ける場合には「かなり上にある」、以上の項目の全てに妥当性が認められ、いずれかに秀でる点がある場合は「やや上にある」、総合的に妥当性が認められる場合は「その水準にある」と評価する。</u></p> <p>【教科書】： <u>J.コービン、A.ストラウス(2008=2012)『質的研究の基礎[第3版]』医学書院。</u></p> <p>【参考書】 <u>木下康仁(2014)『グラウンデッド・セオリー論』弘文堂。</u> <u>B.G.グレイザー、A.L.ストラウス(1967=1996)『データ対話型理論の発見』新曜社。</u></p> |
| <p>文化情報論実践演習 I (内容分析) (1) 授業のねらい <u>科学技術の発達と社会の情報化が現代社会にもたらす科学コミュニケーションの陥穽</u></p> | <p>文化情報論実践演習 I (内容分析) (1) 授業のねらい <u>出版物や新聞、インターネット上の記事やコミュニケーション、アンケートの自由記</u></p> |

| | |
|---|--|
| <p>をテーマとして、Popper の反証主義や Hanson の理論負荷性の概念をもとに、インターネット上の自然言語テキストを対象とした内容分析によって分析考察する。これによりメディアを的確に読み解き、現代社会に特有な科学情報を多面的に評価する批判的思考能力を習得する。</p> <p>(2) 授業の概要 <u>科学技術と人間のかかわりに関して、主として科学哲学や科学論分野で議論される境界設定問題と反証主義や理論負荷性などの主要理論とその応用について基礎文献の読解・発表・ディスカッションを通して理解する。これらを通して科学と倫理や現代社会と関係について多面的な理解を形成した上で、科学コミュニケーションの不全が生じる諸課題（リスクリテラシーやネットリテラシー、フェイク・ニュースなど）をフィールドとして、院生それぞれの問題意識にもとづいて具体的な調査課題を設定し、インターネット上や出版物に蓄積されているテキスト情報を計量的に分析するテキストマイニングの手法を用いて分析し、その成果の発表と議論を行う。これらを通して、科学の境界設定と公共倫理の問題がかかわる科学コミュニケーションのありかたを深く考察するとともに、自然言語処理と統計的解析に必要なプログラミングの技法を習得しながら、膨大な情報の信頼性や妥当性を評価して、現代社会と科学技術に対する倫理的・批判的な思考力を養っていく。</u></p> <p>(3) 授業計画 <u>授業計画</u> <u>第1回：ガイダンス 科学コミュニケーションと現代社会の諸問題</u></p> | <p><u>述回答といった大量の自然言語テキストを客観的・計量的に分析する内容分析の手法と、必要な統計処理やプログラミング技術を身に付ける。これにより、メディアを的確に読み解き、社会情報を多面的に評価する批判的思考能力を習得する。</u></p> <p>(2) 授業の概要 <u>出版物やインターネット上に蓄積されている言語情報を計量的に分析する技法であるテキストマイニングを中心とする内容分析の手法について実践的に習得する。そして、この技法をもとに膨大な情報の信頼性や妥当性を評価して、社会事象に対する批判的な思考力を養っていく。</u> <u>授業では、まずインターネット上に蓄積されているテキストデータを利用して、現代社会のリスク事態に関する諸課題（科学リテラシーやネットリテラシー、リスク・コミュニケーションなど）をテーマに具体的な調査課題を設定し、テキストマイニングにもとづくデータ処理と分析を体験し、自然言語処理と統計的解析に必要なプログラミングの技法を習得する。その上で学生は、社会に対するそれぞれの問題意識にもとづいて、オリジナリティのある研究対象と方法をディスカッションの上で設定し、適切な内容分析を行って成果をまとめ、発表と議論を行う。</u></p> <p>(3) 授業計画 <u>授業計画</u> <u>第1回：内容分析の研究と技法について知る</u> <u>第2回：自由記述データに対するテキスト</u></p> |
|---|--|

| | |
|--|---|
| <p>第2回：<u>反証可能性と境界設定問題の基礎的理解</u></p> <p>第3回：<u>現代社会における反証可能性とパラダイム論</u></p> <p>第4回：<u>境界設定問題に関する文献発表とディスカッション</u></p> <p>第5回：<u>科学リテラシーに関する文献発表とディスカッション</u></p> <p>第6回：<u>倫理・環境問題と科学コミュニケーションに関する文献発表とディスカッション</u></p> <p>第7回：<u>自由記述データに対するテキストマイニングの研究事例発表とディスカッション</u></p> <p>第8回：<u>科学コミュニケーションを対象としたテキストマイニング調査の問題設定</u></p> <p>第9回：<u>調査の企画・設計・仮説構成</u></p> <p>第10回：<u>データの体系的な収集と整理</u></p> <p>第11回：<u>KH Coderを用いた処理の方法</u></p> <p>第12回：<u>コレスポネンダンス分析とデータのマッピング</u></p> <p>第13回：<u>科学コミュニケーションに関する総合的な分析と結果の検討</u></p> <p>第14回：<u>成果発表とディスカッション</u></p> <p>第15回：<u>全体の振り返りと発展事例について</u></p> <p>期末試験の有無：無</p> <p>(4) 成績評価の方法 テキストマイニングと統計的分析の習得レベルと(50%)と調査の企画実施・最終成果発表(50%)の内容で評価する。<u>評価基準は得点率90%以上を秀、89-80%を優、79-70%を良、69-60%を可、59%以下を不可とする。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準</p> | <p>マイニングの研究事例</p> <p>第3回：<u>出版物に対するテキストマイニングの研究事例</u></p> <p>第4回：<u>リスク事態を対象としたテキストマイニング調査1の問題設定</u></p> <p>第5回：<u>リスク事態に関するデータの体系的な収集とKH Coderを用いた処理の方法</u></p> <p>第6回：<u>形態素解析と抽出データ処理</u></p> <p>第7回：<u>言語データの基礎的整理と分析</u></p> <p>第8回：<u>リスクに関するコレスポネンダンス分析とデータのマッピング</u></p> <p>第9回：<u>学生調査企画・問題設定</u></p> <p>第10回：<u>リスクに関する調査2の計画立案と試行</u></p> <p>第11回：<u>データの体系的な収集と検討</u></p> <p>第12回：<u>形態素解析とデータ処理</u></p> <p>第13回：<u>リスクとコミュニケーションに関する総合的な分析と結果の検討</u></p> <p>第14回：<u>成果発表とディスカッション</u></p> <p>第15回：<u>全体の振り返りと発展事例について</u></p> <p>期末試験の有無：無</p> <p>(4) 成績評価の方法 テキストマイニングと統計的分析の習得レベルと(50%)と調査の企画実施・最終成果発表(50%)の内容で評価する。</p> <p>(5) 成績評価の基準 テキストマイニングや統計分析手法が応用可能なレベルに習得され、かつ、素材とし</p> |
|--|---|

| | |
|--|---|
| <p>テキストマイニングや統計分析手法が応用可能なレベルに習得され、かつ、素材とした社会事象に対する多面的な考察が十分に深められていれば『卓越している』と評価する。テキストマイニングと統計的分析法が確実に習得され、かつ社会事象への独自の観点からの考察が行われていれば『かなり上にある』、<u>データに応じた適切なテキストマイニングとそのデータ分析、考察が重大な瑕疵なく最後まで遂行できていれば『やや上にある』、テキストマイニングと統計手法の重要な部分が習得され、そこからデータの分析考察が行われていれば『その水準にある』と評価する。</u></p> | <p>た社会事象に対する多面的な考察が十分に深められていれば『卓越している』と評価する。テキストマイニングと統計的分析法が確実に習得され、かつ社会事象への独自の観点からの考察が行われていれば『かなり上にある』、<u>標準的なテキストマイニングとそのデータ分析が完遂され、かつデータにもとづいた考察が行われていれば『その水準にある』と評価する</u></p> |
| <p>文化情報論実践演習Ⅱ(行動調査) (1) 授業のねらい <u>人の行動や意思決定の非合理性・限定合理性について理解の枠組みを提供する認知の二重過程理論(dual-process theories)とヒューリスティック処理モデルをもとに、社会的なリスク事態への態度をテーマとして、行動観察法や実験法などの調査技法を用いた複合的・応用的な調査を実施して分析を行う。この過程を通して、社会事象に対するリスク・リテラシーとクリティカルな思考力を身に付け、実践的な調査分析データから現代社会における諸リスクについて考察が行えることを目的とする。</u></p> <p>(2) 授業の概要 <u>自社会的推論プロセスをもとにした人の意志決定が、規範的合理性から逸脱してしまう現象は、公的な問題解決から日常的な判断の場までしばしば見られる。これらを統一的に説明する有用なモデルとして、直観的自動的な処理過程(システム1)と合理的意識的な処理過程(システム2)を想定する二重過程理論が広く応用されている。その概要と応用実践について、院生それぞれが文献精読と発表・ディスカッションを行う。その過程で、社会的なリスク事態にヒューリスティック処理や認知的不協和といった自動的な処理過程が影響を与えることを理解する。さらに、こうして習得した二重過程理論の諸知見や仮定を応用し、現代の高度情報化社会におけるリスク事態と、それにかかわる諸問題(消費者問題, SNSとネットのリスク, サブカルチャーな</u></p> | <p>文化情報論実践演習Ⅱ(行動調査) (1) 授業のねらい <u>行動観察法や実験法など、言語報告によらない多様な社会調査法について習得し、これらを用いてリスク事態への対応をテーマとした複合的・応用的な調査を実施して分析と考察を行う。この過程を通して、独自の調査を可能とする高度な社会調査技法と分析法を身につけると同時に、それにもとづく社会事象に対するクリティカルな思考力を身に付けることを目的とする。</u></p> <p>(2) 授業の概要 <u>自己報告式の質問票(紙)を用いずに対象者の意識や行動を的確に把握する社会調査技法として、社会学や心理学でともに用いられる行動頻度や傾向を記録する行動観察法や、反応時間や正答率を記録する実験的手法を習得し、実際に応用的な調査とデータ分析を行う。まず共同の課題として、現代の高度情報化社会における諸問題や文化現象(消費者問題, SNS利用, サブカルチャー, 広告など)から題材を選び、複数の行動調査法と実験計画法にもとづくデータ収集と分析を実施し、結果を考察する。これらの中で、概念の潜在連合を利用した潜在連</u></p> |

| | |
|---|---|
| <p>ど)を院生それぞれの問題意識から取り上げ、<u>研究対象と質問紙手法によらない行動調査方法を用いてデータ収集と分析を実施し、結果を考察・発表する。</u>これらの中で、<u>概念の潜在連合を利用した潜在連合テスト(IAT)を活用する方法も実践的に理解する。</u></p> <p>(3) 授業計画 授業計画 第1回：<u>ガイダンス リスクリテラシーと現代社会</u> 第2回：<u>リスク下での意思決定に関する理論と研究紹介</u> 第3回：<u>二重過程理論と認知的経験論的自己理論CEST</u> 第4回：<u>ヒューリスティックと非合理的な意思決定</u> 第5回：<u>意思決定のバイアスとリスクリテラシーに関する文献発表とディスカッション</u> 第6回：<u>二重過程理論とリスクに関する文献発表とディスカッション</u> 第7回：<u>二重過程理論の応用に関する文献発表とディスカッション</u> 第8回：<u>現代社会のリスク事態への二重過程理論の応用</u> 第9回：<u>潜在連合を利用した実験的手法の社会調査への応用事例</u> 第10回：<u>リスクにかかわる調査テーマ設定と仮説構成についてディスカッション</u> 第11回：<u>実験計画法と要因配置について理解</u> 第12回：<u>IATによる行動データの収集と基本的整理</u> 第13回：<u>ANOVAを用いた統計的なデータ処理</u></p> | <p><u>合テスト(IAT)を活用する方法を実践的に理解する。</u>その上で、<u>学生は同じく社会文化事象に対するそれぞれの問題意識にもとづいて、オリジナリティのある研究対象と方法をディスカッションの上で設定し、適切な行動調査を行って成果をまとめ、発表と議論を行う。</u></p> <p>(3) 授業計画 授業計画 第1回：<u>行動分析研究の特徴について知る</u> 第2回：<u>行動観察法の研究事例</u> 第3回：<u>実験的手法の社会調査への応用研究事例</u> 第4回：<u>概念の潜在連合を利用した実験的手法とその応用事例</u> 第5回：<u>高度情報社会の社会文化現象を対象とした初回調査(1)の企画設計</u> 第6回：<u>実験計画法と要因配置について理解する</u> 第7回：<u>社会文化事象に関する行動データの収集と基本的整理</u> 第8回：<u>ANOVAを用いたデータ分析と結果のまとめ</u> 第9回：<u>学生による調査企画・問題設定</u> 第10回：<u>学生による社会文化事象についての調査(2)計画の立案と試行</u> 第11回：<u>IATもしくは類同の手法を試行したデータの整理と方法の改善</u> 第12回：<u>統計的なデータ処理</u> 第13回：<u>現代の文化事象という観点からの総合的な分析と結果の検討</u> 第14回：<u>情報化社会の課題解決につながる</u></p> |
|---|---|

| | |
|--|---|
| <p>第14回：<u>成果発表と課題解決につなげるディスカッション</u></p> <p>第15回：全体の振り返りと発展事例について</p> <p>期末試験の有無：無</p> <p>(4) 成績評価の方法 行動調査や実験的手法と統計的分析の習得レベルと（50%）と調査の企画実施・最終成果発表（50%）の内容で評価する。<u>評価基準は得点率90%以上を秀、89-80%を優、79-70%を良、69-60%を可、59%以下を不可とする。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 高度な社会調査技法と分析法が応用可能なレベルに習得され、かつ、クリティカルシンキングにもとづくリスク事態に対する多面的な考察が十分に深められていれば『卓越している』と評価する。社会調査技法と分析法が確実に習得され、かつリスク事態への独自の観点からの考察が行われていれば『かなり上にある』、<u>標準的な調査と分析と、かつデータにもとづいた考察が瑕疵なく最後まで遂行できていれば『やや上にある』、社会調査技法と分析法の要点が理解され、適切な考察が行われていれば『その水準にある』と評価する。</u></p> | <p><u>る成果発表とディスカッション</u></p> <p>第15回：全体の振り返りと発展事例について</p> <p>期末試験の有無：無</p> <p>(4) 成績評価の方法 行動調査や実験的手法と統計的分析の習得レベルと（50%）と調査の企画実施・最終成果発表（50%）の内容で評価する。</p> <p>(5) 成績評価の基準 高度な社会調査技法と分析法が応用可能なレベルに習得され、かつ、クリティカルシンキングにもとづくリスク事態に対する多面的な考察が十分に深められていれば「卓越している」と評価する。社会調査技法と分析法が確実に習得され、かつリスク事態への独自の観点からの考察が行われていれば『かなり上にある』、<u>標準的な調査と分析が完遂され、かつデータにもとづいた考察が行われていれば『その水準にある』と評価する。</u></p> |
| <p>歴史学実践演習Ⅰ（史学概論・日本史）</p> <p>(4) 成績評価の方法 ●以下を総合して判定する 授業中の討論を通じて理解度を測り（20%）、自分の主張をどれだけ客観的に行っているか（20%）、他の人の理解を得られる論理的な発言か（20%）をみる。また、プレゼンテーションの内容がどれだけ客観的、論理的であるか（20%）、理解し組み上がっているか（20%）を総合的に判断する。 ●得点率による評価基準は以下の通りとする。 <u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>【卓越している】歴史学の作品内容およびその方法論を理解し、的確に要約しつつ自らの</u></p> | <p>歴史学実践演習Ⅰ（史学概論・日本史）</p> <p>(4) 成績評価の方法 授業中の討論を通じて理解度を測り（20%）、自分の主張をどれだけ客観的に行っているか（20%）、他の人の理解を得られる論理的な発言か（20%）をみる。また、プレゼンテーションの内容がどれだけ客観的、論理的であるか（20%）、理解し組み上がっているか（20%）を総合的に判断する。</p> <p>(5) 成績評価の基準 理解度：テキスト内容・自らのプレゼン内容などを概ね把握できていれば「その水準にあ</p> |

| | |
|---|--|
| <p><u>主張を破綻なく議論として組み立てられていること。加えて研究史のなかに読解する作品や、自らの主張を的確かつ自覚的に位置づけていること。さらに自らの主張に際して、三人称を用い、感覚的な表現を排して、一般化が可能な論理を用いることができおり、内容をふまえてさらに踏み込んだ発言があれば「卓越している」と評価する。</u></p> <p><u>【かなり上にある】歴史学の作品内容およびその方法論を理解し、的確に要約しつつ自らの主張を破綻なく議論として組み立てられていること。さらに自らの主張に際して、三人称を用い、感覚的な表現を排して、一般化が可能な論理を用いることができれば「かなり上にある」と評価する。</u></p> <p><u>【やや上にある】歴史学の作品内容およびその方法論を理解し、的確に要約しつつ自らの主張を破綻なく議論として組み立てられていれば「やや上にある」と評価する。</u></p> <p><u>【その水準にある】歴史学の作品の内容を理解し、的確に要約しつつ自らの主張を破綻なく議論として組み立てられていれば「その水準にある」と評価する。</u></p> <p>【教科書】 <u>各回の内容に合わせて独自に作成したプリントをそのつど配布する。</u></p> | <p><u>る」とし、内容をふまえてさらに踏み込んだ発言があれば「卓越している」と評価する。</u></p> <p><u>客観性：自らの主張に際して、三人称を用い、感覚的な表現を排して、一般化が可能な論理を用いることができれば「その水準にある」と評価する。</u></p> <p><u>論理性：自らの主張に際して、破綻なく議論を組み立てられていれば「その水準にある」と評価する。</u></p> <p>【教科書】 <u>授業中に指示・配布する。</u></p> |
| <p>歴史学実践演習 II（史学概論・西洋史・東洋史）</p> <p>(4) 成績評価の方法</p> <p>●以下を総合して判定する。</p> <p><u>授業への取り組み方（70%）、レポート（30%）※評価割合は若干の調整を行うことがある。</u></p> <p>●<u>得点率による評価基準は次のとおりとする。</u></p> <p><u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準</p> <p><u>【卓越している】歴史学研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、極めて高い水準にある。</u></p> <p><u>【かなり上にある】歴史学研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、</u></p> | <p>歴史学実践演習 II（史学概論・西洋史・東洋史）</p> <p>(4) 成績評価の方法</p> <p><u>授業中の討論を通じて理解度を測り（20%）、自分の主張をどれだけ客観的に行っているか（20%）、他の人の理解を得られる論理的な発言か（20%）をみる。また、プレゼンテーションの内容がどれだけ客観的、論理的であるか（20%）、理解し組み上がっているか（20%）を総合的に判断する。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準</p> <p><u>理解度：テキスト内容・自らのプレゼン内容などを概ね把握できていれば「その水準にある」とし、内容をふまえてさらに踏み込んだ発言があれば「卓越している」と評価する。</u></p> <p><u>客観性：自らの主張に際して、三人称を用い、感覚的な表現を排して、一般化が可能な論理を用いることができれば「その水準にある」と評価する。</u></p> |

| | |
|--|---|
| <p>自律的に考える力を総合して、非常に高い水準にある。</p> <p><u>【やや上にある】歴史学研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、高い水準にある。</u></p> <p><u>【その水準にある】歴史学研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、一定水準にある。</u></p> <p>【参考文献】 マルク・ブロック(松村剛訳)『歴史のための弁明－歴史家の仕事－』岩波書店、2004年。</p> | <p>論理性：自らの主張に際して、破綻なく議論を組み立てられていれば「その水準にある」と評価する。</p> <p>【参考文献】 授業時に指示する。</p> |
| <p>日本文学実践演習 I (韻文) (4) 成績評価の方法 出席は前提。各課題発表で行うプレゼンテーション(60点)とディスカッション(40点)で、到達目標への到達度を課題評価点ではかる。 <u>100点満点中、90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可と評価する。59点以下の場合には単位認定しない。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>【秀：卓越している】日本文学における韻文研究について、文献学的・文学的研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な学術的処理を行い、論理的思考をし、自立的に考える力を総合して、極めて高い水準にある。</u> <u>【優：かなり上にある】日本文学における韻文研究について、文献学的・文学的研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な学術的処理を行い、論理的思考をし、自立的に考える力を総合して、非常に高い水準にある。</u> <u>【良：やや上にある】日本文学における韻文研究について、文献学的・文学的研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な学術的処理を行い、論理的思考をし、自立的に考える力を総合して、高い水準にある。</u> <u>【良：やや上にある】日本文学における韻文研究について、文献学的・文学的研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な学術的処理を行い、論理的思考をし、自立的に考える力を総合して、一定水準にある。</u></p> | <p>日本文学実践演習 I (韻文) (4) 成績評価の方法 出席は前提。各課題発表で行うプレゼンテーション(60点)とディスカッション(40点)で、到達目標への到達度を課題評価点ではかる。</p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>100点満点中、90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可と評価する。59点以下の場合には単位認定しない。</u></p> |

| | |
|--|--|
| <p>【教科書】 各回の内容に合わせて独自に作成したプリントをそのつど配布する。</p> <p>【参考文献】 【シリーズ】日本文学の展望を拓く5『資料学の現在』（小峰和明監修、笠間書院2017）、他。</p> | <p>【教科書】 テキスト（論文・資料等）は授業時に配布する。</p> <p>【参考文献】 『資料学の現在』（笠間書院）、他。随時授業内にて紹介する。</p> |
| <p>日本文学実践演習Ⅱ（散文） （4）成績評価の方法 自らが見出した問題点について、データベースの活用も含め適切に情報収集できているか（20点）、その情報を適切に理解・集約できているか（20点）、明確にプレゼンテーションできているか（40点）、ディスカッションに積極的に参加できているか（20点）によって評価する。 合計100点満点のうち、90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可と評価する。59点以下の場合は単位認定しない。</p> <p>（5）成績評価の基準 【秀：卓越している】日本文学における散文研究について、文献学的・文学的研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な学術的処理を行い、論理的思考をし、自立的に考える力を総合して、極めて高い水準にある。</p> <p>【優：かなり上にある】日本文学における散文研究について、文献学的・文学的研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な学術的処理を行い、論理的思考をし、自立的に考える力を総合して、非常に高い水準にある。</p> <p>【良：やや上にある】日本文学における散文研究について、文献学的・文学的研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な学術的処理を行い、論理的思考をし、自立的に考える力を総合して、高い水準にある。</p> <p>【良：やや上にある】日本文学における散文研究について、文献学的・文学的研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な学術的処理を行い、論理的思考をし、自立的に考える力を総合して、一定水準にある。</p> <p>【教科書】 各回の内容に合わせて独自に作成したプリ</p> | <p>日本文学実践演習Ⅱ（散文） （4）成績評価の方法 自らが見出した問題点について、データベースの活用も含め適切に情報収集できているか（20点）、その情報を適切に理解・集約できているか（20点）、明確にプレゼンテーションできているか（40点）、ディスカッションに積極的に参加できているか（20点）によって評価する。</p> <p>（5）成績評価の基準 合計100点満点のうち、90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可と評価する。59点以下の場合は単位認定しない。</p> <p>【教科書】</p> |

| | |
|--|--|
| <p><u>ントをそのつど配布する。</u></p> <p>【参考文献】 市古貞次・久保田淳編『新版日本文学大年表』(おうふう2002) 小峯和明監修『日本文学の展望を拓く5 資料学の現在』(笠間書院2017) <u>他</u></p> | <p><u>毎回の授業において、担当教員による資料を配布する。</u></p> <p>【参考文献】 市古貞次・久保田淳編『新版日本文学大年表』(おうふう2002) 小峯和明監修『日本文学の展望を拓く5 資料学の現在』(笠間書院2017) <u>その他、授業各回において、事前に指示する</u></p> |
| <p>日本語学実践演習 I (古代語) (4) 成績評価の方法 ●以下を総合して判定する。 <u>出席は前提。各課題発表で行うプレゼンテーション(50点)とディスカッション(50点)で、到達目標への到達度を課題評価点ではかる。※評価割合は若干の調整を行うことがある。</u> ●得点率による評価基準は次のとおりとする。 <u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>【卓越している】古代日本語研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、極めて高い水準にある。</u> <u>【かなり上にある】古代日本語研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、非常に高い水準にある。</u> <u>【やや上にある】古代日本語研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、高い水準にある。</u> <u>【その水準にある】古代日本語研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、一定水準にある。</u></p> <p>【教科書】 『土佐日記』の現行流布テキスト(版は問わない)を購入しておくこと。<u>各回の内容に合</u></p> | <p>日本語学実践演習 I (古代語) (4) 成績評価の方法</p> <p>出席は前提。各課題発表で行うプレゼンテーション(50点)とディスカッション(50点)で、到達目標への到達度を課題評価点ではかる。</p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可と評価する。</u> <u>59点以下の場合は単位認定しない。</u></p> <p>【教科書】 『土佐日記』の現行流布テキスト(版は問わない)を購入しておくこと。<u>その他テキ</u></p> |

| | |
|---|--|
| <p><u>わせて独自に作成したプリントをそのつど配布する。</u></p> <p>【参考文献】 亀井孝ほか『言語史研究入門（日本語の歴史・別巻）』平凡社。他</p> | <p><u>スト（影印資料・論文・資料等）は授業時に配布する。</u></p> <p>【参考文献】 亀井孝ほか『言語史研究入門（日本語の歴史・別巻）』平凡社。<u>その他授業内で課題発表内容に応じて言及する。</u></p> |
| <p>日本語学実践演習Ⅱ（近代語） (4) 成績評価の方法 ●以下を総合して判定する。 出席は前提。各課題発表で行うプレゼンテーション（50点）とディスカッション（50点）で、到達目標への到達度を課題評価点ではかる。<u>※評価割合は若干の調整を行うことがある。</u> ●得点率による評価基準は次のとおりとする。 <u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 【卓越している】近代日本語研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、極めて高い水準にある。 【かなり上にある】近代日本語研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、非常に高い水準にある。 【やや上にある】近代日本語研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、高い水準にある。 【その水準にある】近代日本語研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、一定水準にある。</p> <p>【教科書】 『徒然草』の現行流布テキスト（版は問わない）を購入しておくこと。各回の内容に合わせて独自に作成したプリントをそのつど配布する。</p> | <p>日本語学実践演習Ⅱ（近代語） (4) 成績評価の方法 出席は前提。各課題発表で行うプレゼンテーション（50点）とディスカッション（50点）で、到達目標への到達度を課題評価点ではかる。</p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可と評価する。</u> <u>59点以下の場合は単位認定しない。</u></p> <p>【教科書】 『徒然草』の現行流布テキスト（版は問わない）を購入しておくこと。<u>その他のテキスト（影印資料・論文・資料等）は授業時に配布する。</u></p> |

| | |
|---|---|
| <p>【参考文献】 北原保雄ほか『国語学研究法』武蔵野書院、ネウストプニーほか『言語研究の方法：言語学・日本語学・日本語教育学に携わる人のために』くろしお出版、亀井孝ほか『言語史研究入門（日本語の歴史・別巻）』平凡社。小松英雄『徒然草抜書』講談社学術文庫、<u>他。</u></p> | <p>【参考文献】 北原保雄ほか『国語学研究法』武蔵野書院、ネウストプニーほか『言語研究の方法：言語学・日本語学・日本語教育学に携わる人のために』くろしお出版、亀井孝ほか『言語史研究入門（日本語の歴史・別巻）』平凡社。小松英雄『徒然草抜書』講談社学術文庫、<u>その他授業内で課題発表内容に応じて言及する。</u></p> |
| <p>日本語学教育学実践演習Ⅰ（言語研究と言語教育） （4）成績評価の方法 以下の2点とその割合によって評価する。 授業への参加度（60％）・期末のレポート（40％） <u>得点率による評価基準は次のとおりとする。</u> <u>90％以上「秀」、89-80％「優」、79-70％「良」、69-60％「可」、59％以下「不可」</u></p> <p>【教科書】 『日本語教育研究への招待』（砂川有里子ほか編、くろしお出版、2010年）<u>他</u></p> <p>【参考文献】 <u>『日本語教育のための質的研究入門』（舘岡洋子編、ココ出版、2015年）、他</u></p> | <p>日本語学教育学実践演習Ⅰ（言語研究と言語教育） （4）成績評価の方法 以下の2点とその割合によって評価する。 授業への参加度（60％）・期末のレポート（40％）</p> <p>【教科書】 『日本語教育研究への招待』（砂川有里子ほか編、くろしお出版、2010年）：<u>必要に応じてテキストを追加し、授業内で補足資料を配布する。</u></p> <p>【参考文献】 <u>授業の中で適宜、紹介する。</u></p> |
| <p>日本語学教育学実践演習Ⅱ（第二言語習得・学習） （4）成績評価の方法 以下の2点とその割合によって評価する。 授業への参加度（60％）・期末のレポート（40％） <u>得点率による評価基準は次のとおりとする。</u> <u>90％以上「秀」、89-80％「優」、79-70％「良」、69-60％「可」、59％以下「不可」</u></p> <p>【教科書】 『多様化する言語習得環境とこれからの日本語教育』（坂本正ほか編、スリーエーネットワーク、2008年）<u>他</u></p> <p>【参考文献】 <u>『外国語学習に潜む意識と無意識』（福田純也、開拓社、2018年）、他</u></p> | <p>日本語学教育学実践演習Ⅱ（第二言語習得・学習） （4）成績評価の方法 以下の2点とその割合によって評価する。 授業への参加度（60％）・期末のレポート（40％）</p> <p>【教科書】 『多様化する言語習得環境とこれからの日本語教育』（坂本正ほか編、スリーエーネットワーク、2008年）：<u>必要に応じてテキストを追加し、授業内で補足資料を配布する。</u></p> <p>【参考文献】 <u>授業の中で適宜、紹介する。</u></p> |

| | |
|---|--|
| <p>中国語学・文学実践演習Ⅰ（中国文学） (4) 成績評価の方法 <u>受講生には論文に関する資料作成と討論への積極的な発言を求めて理解度を測り、提出資料（50%）と授業時の取り組み（50%）とを総合して判定する。得点率による評価基準は；</u> <u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>上記の観点に即して、理解度が卓越していれば秀。</u> <u>理解度がかなり上にあれば優。</u> <u>理解度がやや上にあれば良。</u> <u>理解度が一定の水準にあれば可。</u> <u>最低限の理解度が認められなければ不可。</u></p> <p>【参考文献】 <u>興膳宏編『中国文学を学ぶ人のために』（世界思想社）</u></p> | <p>中国語学・文学実践演習Ⅰ（中国文学） (4) 成績評価の方法 <u>平常点。受講生には論文に関する資料作成と討論への積極的な発言を求めて理解度を測り、両者の結果を一对一の比で集計する。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>作成資料や発言内容に総じて、卓越した理解度が認められれば秀。</u> <u>優れた理解度が認められれば優。</u> <u>一定の理解度が認められれば良。</u> <u>最低限の理解度が認められれば可。</u> <u>最低限の理解度が認められなければ不可。</u></p> <p>【参考文献】 <u>授業中に紹介する。</u></p> |
| <p>中国語学・文学実践演習Ⅱ（現代中国語学） (4) 成績評価の方法 <u>●以下を総合して判定する。</u> <u>学生の準備資料・授業での分析検討内容（50%）と、期末レポート（50%）</u> <u>※評価割合は若干の調整を行うことがある。</u> <u>●得点率による評価基準は次のとおりとする。</u> <u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>【参考文献】 <u>『中国語はじめの一步』木村英樹，ちくま新書</u> <u>《現代汉语八百词》吕淑湘，商务印书馆</u></p> | <p>中国語学・文学実践演習Ⅱ（現代中国語学） (4) 成績評価の方法 <u>学生の準備資料・授業での分析検討内容（5割）と、期末レポート（5割）で評価します。</u></p> <p>【参考文献】 <u>必要な場合は教員から適宜紹介をします。</u></p> |
| <p>比較文学実践演習Ⅰ（詩） (4) 成績評価の方法 各課題発表で行うプレゼンテーションとディスカッション（50%）と学期末のレポート（50%）で評価を出す。 <u>得点率による評価基準は次のとおりとする。</u> <u>90%以上 秀、89 - 80% 優、79 - 70% 良、69 - 60% 可、59%以下 不可。</u></p> | <p>比較文学実践演習Ⅰ（詩） (4) 成績評価の方法 各課題発表で行うプレゼンテーションとディスカッション（50%）と学期末のレポート（50%）で評価を出す。</p> |

| | |
|--|--|
| <p>【教科書】 Niall Rudd (ed.), <i>Horace, Odes and Epodes</i> (Loeb Classical Library), 2004. Felix Budelmann, <i>Greek Lyric: A Selection</i> (Cambridge Greek and Latin Classics), Cambridge University Press, 2018. Rimbaud, <i>Œuvres</i>, préface, notices et notes par Jean-Luc Steinmetz, Flammarion, coll. GF, tome II (<i>Illuminations</i>, Correspondance 1873-1891), 1989. <u>他</u></p> <p>【参考文献】 Ian Rutherford (ed.) <i>Oxford Readings in Greek Lyric Poetry</i> (Oxford Readings in Classical Studies), Oxford University Press 2019. R. G. M. Nisbet & alii (ed.), <i>A Commentary on Horace Odes</i> (in 3 volumes), 1989-2007, Oxford University Press. André Guyaux, <i>Poétique du fragment, essai sur les Illuminations de Rimbaud</i>, Neuchâtel, À la Baconnière, coll. Langages, 1985. Pierre Brunel, Claude Pichois, André-Michel Rousseau, <i>Qu'est-ce que la littérature comparée ?</i>, Armand Colin, 2^e éd., 2000. <u>他</u></p> | <p>【教科書】 <u>David A. Campbell, <i>Greek Lyric Poetry</i> (BCP Greek Texts), Bristol Classical Press, 1991.</u> Niall Rudd (ed.), <i>Horace, Odes and Epodes</i> (Loeb Classical Library), 2004. Felix Budelmann, <i>Greek Lyric: A Selection</i> (Cambridge Greek and Latin Classics), Cambridge University Press, 2018. Rimbaud, <i>Œuvres</i>, préface, notices et notes par Jean-Luc Steinmetz, Flammarion, coll. GF, tome II (<i>Illuminations</i>, Correspondance 1873-1891), 1989. <u>その他、授業中に文献資料を配布する。</u></p> <p>【参考文献】 Ian Rutherford (ed.) <i>Oxford Readings in Greek Lyric Poetry</i> (Oxford Readings in Classical Studies), Oxford University Press 2019. R. G. M. Nisbet & alii (ed.), <i>A Commentary on Horace Odes</i> (in 3 volumes), 1989-2007, Oxford University Press. André Guyaux, <i>Poétique du fragment, essai sur les Illuminations de Rimbaud</i>, Neuchâtel, À la Baconnière, coll. Langages, 1985. Pierre Brunel, Claude Pichois, André-Michel Rousseau, <i>Qu'est-ce que la littérature comparée ?</i>, Armand Colin, 2^e éd., 2000. <u>その他、授業中に随時指示する。</u></p> |
| <p>比較文学実践演習Ⅱ（小説） (4) 成績評価の方法 各課題発表で行うプレゼンテーションとディスカッション（50％）と学期末のレポート（50％）で評価を出す。 <u>得点率による評価基準は次のとおりとする。</u> <u>90％以上 秀、89 - 80％ 優、79 - 70％ 良、69 - 60％ 可、59％以下 不可。</u></p> <p>【教科書】 M. Zimmerman, S. Panayotakis, V. Hunink, W. H. Keulen, S. J. Harrison,</p> | <p>比較文学実践演習Ⅱ（小説） (4) 成績評価の方法 各課題発表で行うプレゼンテーションとディスカッション（50％）と学期末のレポート（50％）で評価を出す。</p> <p>【教科書】 M. Zimmerman, S. Panayotakis, V. Hunink, W. H. Keulen, S. J. Harrison,</p> |

| | |
|--|---|
| <p>T. D. McCreight, D. van Mal-Maeder & B. Wesseling, <i>Apuleius Madaurensis. Metamorphoses. Books IV 28-35, V and VI 1-24: The Tale of Cupid and Psyche. Text, Introduction and Commentary</i>, Groningen, Egbert Forsten, 2004. E. J. Kenney (ed.), <i>Apuleius: Cupid and Psyche</i>, Cambridge University Press, 1990. Jean Rouaud, <i>Des hommes illustres</i>, Les Éditions de minuit, coll. « double », 1999. <u>他</u></p> <p>【参考文献】 Stephen J. Harrison (Ed.), <i>Oxford Readings in the Roman Novel</i>, Oxford University Press, 1999. Stephen J. Harrison, <i>Apuleius, A Latin Sophist</i>, Oxford University Press, 2000. Sylvie Freyermuth, <i>Jean Rouaud et le périple initiatique : une poétique de la fluidité</i>, L' Harmattan, 2011. Yves Chevrel, <i>La Littérature comparée</i>, P.U.P, coll. Que sais-je, 2006, 5^e éd. refondue. <u>他</u></p> | <p>T. D. McCreight, D. van Mal-Maeder & B. Wesseling, <i>Apuleius Madaurensis. Metamorphoses. Books IV 28-35, V and VI 1-24: The Tale of Cupid and Psyche. Text, Introduction and Commentary</i>, Groningen, Egbert Forsten, 2004. E. J. Kenney (ed.), <i>Apuleius: Cupid and Psyche</i>, Cambridge University Press, 1990. Jean Rouaud, <i>Des hommes illustres</i>, Les Éditions de minuit, coll. « double », 1999. <u>その他、授業中に文献資料を配布する。</u></p> <p>【参考文献】 Stephen J. Harrison (Ed.), <i>Oxford Readings in the Roman Novel</i>, Oxford University Press, 1999. Stephen J. Harrison, <i>Apuleius, A Latin Sophist</i>, Oxford University Press, 2000. Sylvie Freyermuth, <i>Jean Rouaud et le périple initiatique : une poétique de la fluidité</i>, L' Harmattan, 2011. Yves Chevrel, <i>La Littérature comparée</i>, P.U.P, coll. Que sais-je, 2006, 5^e éd. refondue. <u>その他、授業中に随時紹介する。</u></p> |
| <p>フランス語学・フランス文学実践演習I（基礎的方法論） （4）成績評価の方法 <u>●以下を総合して判定する。</u> <u>受講者による課題発表（50%），受講者の資料読解・解説の実践内容（50%）</u> <u>*評価割合は若干調整を行う場合もある。</u> <u>●得点率による評価基準は次のとおりとする。</u> <u>90%以上 秀，89-80% 優，79-70% 良，69-60% 可，59%以下 不可</u></p> <p>（5）成績評価の基準 <u>【卓越している】問題設定が的確で，問題の背景説明が適切になされ，課題に対する既存の学説が把握されており，それらを踏まえた自説の提示に説得力があり，それらが総合して，極めて高い水準にある。秀</u> <u>【かなり上にある】上記の諸能力が，非常に高い水準にある。優</u> <u>【やや上にある】上記の諸能力が，高い水準</u></p> | <p>フランス語学・フランス文学実践演習 I（基礎的方法論） （4）成績評価の方法 <u>出席は前提。各課題発表で行うプレゼンテーションとディスカッションで，到達目標への到達度を課題評価点ではかる。</u></p> <p>（5）成績評価の基準 <u>(1)問題の設定が適切であり，(2)その問題の背景を説明できており，(3)その問題にどのような課題があるのかを指摘できており，(4)それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており，(5)その上で自分の見解を提示できており，(1)～(5)に加えて，授業で学んだ文献が適切に参照されていれば「卓越してい</u></p> |

| | |
|--|--|
| <p>にある。良 <u>【その水準にある】</u> 上記の諸能力が、一定の水準にある。可</p> <p>【参考文献】 シャルル・ボードレール『悪の花』注釈，上・中・下3巻，京都大学人文科学研究所，多田道太郎編，平凡社，1988. 渡辺広士『シャルル・ボードレール 近代の寓意』，小沢書店，1986. 高山鉄男『バルザック 人と思想』，清水書院，2014. 野崎敏 編『バルザック ポケットマスターピース』，集英社，2015. 他</p> | <p>る」。(1)から(5)の5項目を満たしていれば「かなり上にある」。4項目までできていれば「やや上にある」。3項目までできていれば「合格水準にある」と評価される。</p> <p>【参考文献】 シャルル・ボードレール『悪の花』注釈，上・中・下3巻，京都大学人文科学研究所，多田道太郎編，平凡社，1988. 渡辺広士『シャルル・ボードレール 近代の寓意』，小沢書店，1986. 高山鉄男『バルザック 人と思想』，清水書院，2014. 野崎敏 編『バルザック ポケットマスターピース』，集英社，2015. その他，授業の際に随時紹介する。</p> |
| <p>フランス語学・フランス文学実践演習Ⅱ (発展的方法論) (4) 成績評価の方法 ●以下を総合して判定する。 <u>受講者による課題発表 (50%)</u>，<u>受講者の資料読解・解読の実践内容 (50%)</u> *評価割合は若干調整を行う場合もある。 ●<u>得点率による評価基準は次のとおりとする。</u> 90%以上 秀，89-80% 優，79-70% 良，69-60% 可，59%以下 不可</p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>【卓越している】</u> 問題設定が的確で，問題の背景説明が適切になされ，課題に対する既存の学説が把握されており，それらを踏まえた自説の提示に説得力があり，それらが総合して，極めて高い水準にある。秀 <u>【かなり上にある】</u> 上記の諸能力が，非常に高い水準にある。優 <u>【やや上にある】</u> 上記の諸能力が，高い水準にある。良 <u>【その水準にある】</u> 上記の諸能力が，一定の水準にある。可</p> <p>【参考文献】 Jacques Robichez, <i>Verlaine entre Rimbaud et Dieu, Des Romances sans paroles à Sagesse</i>, Société d'édition d'enseignement supérieur, Paris V^e, 1982.</p> | <p>フランス語学・フランス文学実践演習Ⅱ (発展的方法論) (4) 成績評価の方法 <u>出席は前提。各課題発表で行うプレゼンテーションとディスカッションで，到達目標への到達度を課題評価点ではかる。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 (1)問題の設定が適切であり，(2)その問題の背景を説明できており，(3)その問題にどのような課題があるのかを指摘できており，(4)それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており，(5)その上で自分の見解を提示できており，(1)～(5)に加えて，授業で学んだ文献が適切に参照されていれば「卓越している」。(1)から(5)の5項目を満たしていれば「かなり上にある」。4項目までできていれば「やや上にある」。3項目までできていれば「合格水準にある」と評価される。</p> <p>【参考文献】 Jacques Robichez, <i>Verlaine entre Rimbaud et Dieu, Des Romances sans paroles à Sagesse</i>, Société d'édition d'enseignement supérieur, Paris V^e, 1982.</p> |

| | |
|---|---|
| <p>松澤和宏『「ボヴァリー夫人」を読む—恋愛・金銭・デモクラシー』，岩波書店，2004. 蓮實重彦『「ボヴァリー夫人」論』，筑摩書房，2014. <u>他</u></p> | <p>松澤和宏『「ボヴァリー夫人」を読む—恋愛・金銭・デモクラシー』，岩波書店，2004. 蓮實重彦『「ボヴァリー夫人」論』，筑摩書房，2014. <u>その他，授業の際に随時紹介する。</u></p> |
| <p>ドイツ語学・ドイツ文学実践演習 I (ドイツ語学研究)</p> <p>(4) 成績評価の方法 <u>●以下を総合して判定する。</u> <u>授業への取り組み方 (40%)、レポート (60%)</u> <u>*評価割合は若干の調整を行うことがある。</u> <u>●得点率による評価基準は次のとおりとする。</u> <u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>【卓越している】授業内で扱われる項目を正確に理解し、問題の背景を自らの言葉で説明し、適切な方法論を用いて導き出した結論を総合して、極めて高い水準にある。</u> <u>【かなり上にある】】授業内で扱われる項目を正確に理解し、問題の背景を自らの言葉で説明し、適切な方法論を用いて導き出した結論を総合して、かなり上にある。</u> <u>【やや上にある】授業内で扱われる項目を正確に理解し、問題の背景を自らの言葉で説明し、適切な方法論を用いて導き出した結論を総合して、やや上にある。</u> <u>【その水準にある】授業内で扱われる項目を正確に理解し、問題の背景を自らの言葉で説明し、適切な方法論を用いて導き出した結論を総合して、その水準にある。</u></p> <p>【教科書】 Ernst, Peter (2011): Germanistische Sprachwissenschaft. 2. Aufl. UTB-Basic, Wien. <u>他</u></p> <p>【参考文献】</p> | <p>ドイツ語学・ドイツ文学実践演習 I (ドイツ語学研究)</p> <p>(4) 成績評価の方法 <u>発表により、講義内容の理解の正確さを測り、そこでの議論への貢献度を評価する (40点満点)。</u><u>期末レポートでは、授業で扱われた方法論をいかに実際の分析に応用できているかを評価する (60点満点)。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>授業内で扱われる項目が正確に理解できれば「合格の水準にある」、さらにそれを他者にわかりやすく自らの言葉で解説ができれば「やや上にある」。議論に積極的に貢献し、期末レポートにおいて、適切な問題の設定ができれば「かなり上にある」、問題の背景を説明し、適切な方法論を用いて、解決できていれば「卓越している」。</u></p> <p>【教科書】 Ernst, Peter (2011): Germanistische Sprachwissenschaft. 2. Aufl. UTB-Basic, Wien. <u>その他適宜プリントを配布する。</u></p> <p>【参考文献】 <u>教場にて適時指示する。</u></p> |

| | |
|---|---|
| <p><u>Linke, Angelika u. a. (2004): „Studienbuch Linguistik“, 5., Aufl. Tübingen.</u></p> | |
| <p>ドイツ語学・ドイツ文学実践演習Ⅱ（文学研究方法論） (4) 成績評価の方法 ●以下を総合して判定する。 <u>授業内での読解の正確さ、議論への貢献度（50%）、授業で扱われた方法論を作品分析に応用したレポート（50%）</u> ※評価割合は若干の調整を行うことがある。 ●得点率による評価基準は次のとおりとする。 <u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>【教科書】 Robert Walser: Aus dem Bleistiftgebiet. Hrsg. von Bernhard Echte und Werner Morlang. Bd. 3, Frankfurt am Main 2003. <u>他</u></p> | <p>ドイツ語学・ドイツ文学実践演習Ⅱ（文学研究方法論） (4) 成績評価の方法 <u>授業内での読解の正確さ、議論への貢献度、そして授業で扱われた方法論を作品分析に応用したレポートにより評価する。</u></p> <p>【教科書】 Robert Walser: Aus dem Bleistiftgebiet. Hrsg. von Bernhard Echte und Werner Morlang. Bd. 3, Frankfurt am Main 2003. <u>その他に適宜プリントを配布する。</u></p> |
| <p>英語学実践演習Ⅰ（英語学概論）</p> <p>(4) 成績評価の方法 ●以下を総合して判定する。 <u>毎回の授業でのプレゼンテーションと議論への積極的な参加（50%）、期末のレポート課題（50%）</u> ※評価割合は若干の調整を行うことがある。 ●得点率による評価基準は次のとおりとする。 <u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 評価点は次の4点： 1) テーマやテキストの内容への問題を適切に抽出できる 2) 言語現象を的確な研究方法によって分析できる 3) 個々の問題に対する先行研究を踏まえ、新しいアプローチを提示できる 4) 英語を歴史的に理解することで、現代英語の言語文化理解への橋渡しを行うことができる</p> | <p>英語学実践演習Ⅰ（英語学概論）</p> <p>(4) 成績評価の方法 <u>毎回の授業でのプレゼンテーションと議論への積極的な参加を50%、期末のレポート課題を50%でそれぞれ加味し、総合的に評価します。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 評価点は次の4点： 1) テーマやテキストの内容への問題を適切に抽出できる 2) 言語現象を的確な研究方法によって分析できる 3) 個々の問題に対する先行研究を踏まえ、新しいアプローチを提示できる 4) 英語を歴史的に理解することで、現代英語の言語文化理解への橋渡しを行うことができる</p> |

| | |
|--|--|
| <p>これらの基礎能力をそれぞれ25点で評価し、合計100点のうち、90点以上を秀（「<u>卓越している</u>」）、80点以上を優（「<u>かなり上にある</u>」）、70点以上を良（「<u>やや上にある</u>」）、60点以上を可と評価し（「<u>その水準にある</u>」）、60点未満の場合は単位を与えない。</p> <p>【参考文献】</p> <p>Matras, Yaron. <i>Language Contact</i>. Cambridge UP, 2009.</p> <p>Thomason, Sarah Grey and Terrence Kaufman. <i>Language Contact, Creolization, and Genetic Linguistics</i>. U of California P, 1988.</p> <p>Thomason, Sarah G. <i>Language Contact: An Introduction</i>. Edinburgh UP, 2001.</p> <p>Winford, Donald. <i>An Introduction to Contact Linguistics</i>. Blackwell, 2003. <u>他</u></p> | <p>これらの基礎能力をそれぞれ 25 点で評価し、合計 100 点のうち、90 点以上を秀、80 点以上を優、70 点以上を良、60 点以上を可と評価し、60 点未満の場合は単位を与えない。</p> <p>【参考文献】</p> <p>Matras, Yaron. <i>Language Contact</i>. Cambridge UP, 2009.</p> <p>Thomason, Sarah Grey and Terrence Kaufman. <i>Language Contact, Creolization, and Genetic Linguistics</i>. U of California P, 1988.</p> <p>Thomason, Sarah G. <i>Language Contact: An Introduction</i>. Edinburgh UP, 2001.</p> <p>Winford, Donald. <i>An Introduction to Contact Linguistics</i>. Blackwell, 2003. <u>その他の文献は授業内で適宜紹介する。</u></p> |
| <p>英語学実践演習 II（英語学方法論研究）</p> <p>(4) 成績評価の方法</p> <p>●<u>以下を総合して判定する。</u></p> <p><u>授業内発表（50%）、期末レポート（50%）</u></p> <p>※<u>評価割合は若干の調整を行うことがある。</u></p> <p>●<u>得点率による評価基準は次のとおりとする。</u></p> <p><u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準</p> <p>評価点は次の4点：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) テーマやテキストの内容への問題を適切に抽出できる 2) 言語現象を的確な研究方法によって分析できる 3) 個々の問題に対する先行研究を踏まえ、新しいアプローチを提示できる 4) 英語を歴史的に理解することで、現代英語の言語文化理解への橋渡しを行うことができる <p>これらの基礎能力をそれぞれ 25 点で評価し、合計 100 点のうち、90 点以上を秀（「卓</p> | <p>英語学実践演習 II（英語学方法論研究）</p> <p>(4) 成績評価の方法</p> <p><u>授業内発表を 50%、期末レポートを 50%に換算し、総合的に評価します</u></p> <p>(5) 成績評価の基準</p> <p>評価点は次の4点：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) テーマやテキストの内容への問題を適切に抽出できる 2) 言語現象を的確な研究方法によって分析できる 3) 個々の問題に対する先行研究を踏まえ、新しいアプローチを提示できる 4) 英語を歴史的に理解することで、現代英語の言語文化理解への橋渡しを行うことができる |

| | |
|---|--|
| <p>越している』)、80 点以上を優 (「かなり上にある』)、70 点以上を良 (「やや上にある』)、60 点以上を可と評価し (「その水準にある』)、60 点未満の場合は単位を与えない。</p> <p>【参考文献】 Hogg, Richard M. ed. Cambridge History of the English Language, vol.6. Cambridge UP, 1992-2001. 他。</p> | <p>これらの基礎能力をそれぞれ 25 点で評価し、合計 100 点のうち、90 点以上を秀、80 点以上を優、70 点以上を良、60 点以上を可と評価し、60 点未満の場合は単位を与えない。</p> <p>【参考文献】 Hogg, Richard M. ed. Cambridge History of the English Language, vol.6. Cambridge UP, 1992-2001. その他、授業中に紹介する。</p> |
| <p>英語文学実践演習 I (イギリス文学文化)</p> <p>(4) 成績評価の方法 ●以下を総合して判定する。 授業内でのアクティビティ (50%)、英語論文構成概要レポート (50%) ※評価割合は若干の調整を行うことがある。 ●得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</p> <p>(5) 成績評価の基準 【卓越している】英語圏の言語文化に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、極めて高い水準にある。 【かなり上にある】英語圏の言語文化に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、非常に高い水準にある。 【やや上にある】英語圏の言語文化に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、高い水準にある。 【その水準にある】英語圏の言語文化に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、一定水準にある。</p> <p>【教科書】</p> | <p>英語文学実践演習 I (イギリス文学文化)</p> <p>(4) 成績評価の方法 授業内でのアクティビティ 50%と英語論文構成概要レポート 50%による。</p> <p>(5) 成績評価の基準 授業内でのアクティビティ 50%と英語論文構成概要 50%による。評価点は、英語論文の構成がうまくできたかである。その度合いに応じて、合計 100 点で評価し、90 点以上を秀、80 点以上を優、70 点以上を良、60 点以上を可と評価し、60 点未満の場合は単位を与えない。</p> <p>【教科書】</p> |

| | |
|---|--|
| <p>Fabb, Nigel and Alan Durant. <i>How to Write Essays, Dissertations, and Thesis in Literary Studies</i>. Addison-Wesley Longman Ltd, 1993. <u>MLA Handbook. 8th ed. MLA, 2016. 他</u></p> <p>【参考文献】 Furman, Rich and Julie T. Kinn. <i>Practical Tips for Publishing Article</i>. Oxford UP, 2012. Silvia, Paul J. <i>How to Write a Lot: A Practical Guide to Productive Academic Writing</i>. American Psychological Assn, 2007. Wallwork, Adrian. <i>English for Writing Research Papers</i>. Springer, 2016. 一橋大学英語科『英語アカデミック・ライティングの基礎』、研究社、2015年。 他。</p> | <p>Fabb, Nigel and Alan Durant. <i>How to Write Essays, Dissertations, and Thesis in Literary Studies</i>. Addison-Wesley Longman Ltd, 1993. <u>MLA Handbook. 8th ed. MLA, 2016. その他にプリントも配布する。</u></p> <p>【参考文献】 Furman, Rich and Julie T. Kinn. <i>Practical Tips for Publishing Article</i>. Oxford UP, 2012. Silvia, Paul J. <i>How to Write a Lot: A Practical Guide to Productive Academic Writing</i>. American Psychological Assn, 2007. Wallwork, Adrian. <i>English for Writing Research Papers</i>. Springer, 2016. 一橋大学英語科『英語アカデミック・ライティングの基礎』、研究社、2015年。 <u>その他は授業中に適宜紹介する。</u></p> |
| <p>英語文学実践演習Ⅱ（アメリカ文学文化） (4) 成績評価の方法 ●以下を総合して判定する。 <u>授業内でのアクティビティ (50%)、英語論文 (50%)</u> ※評価割合は若干の調整を行うことがある。 ●得点率による評価基準は次のとおりとする。 <u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 【卓越している】英語圏の言語文化に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、極めて高い水準にある。 【かなり上にある】英語圏の言語文化に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、非常に高い水準にある。 【やや上にある】英語圏の言語文化に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、高い水準にある。</p> | <p>英語文学実践演習Ⅱ（アメリカ文学文化） (4) 成績評価の方法 <u>授業内でのアクティビティ 50%と英語論文 50%による。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>授業内でのアクティビティ 50%と英語論文 50%による。評価点は、英語論文がうまく書けたかである。その度合いに応じて、合計 100点で評価し、90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可と評価し、60点未満の場合は単位を与えない。</u></p> |

| | |
|--|--|
| <p><u>【その水準にある】英語圏の言語文化に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、一定水準にある。</u></p> <p>【教科書】 Fabb, Nigel and Alan Durant. <i>How to Write Essays, Dissertations, and Thesis in Literary Studies</i>. Addison-Wesley Longman Ltd, 1993. <i>MLA Handbook</i>. 8th ed. MLA, 2016. <u>他</u></p> <p>【参考文献】 Furman, Rich and Julie T. Kinn. <i>Practical Tips for Publishing Article</i>. Oxford UP, 2012. Silvia, Paul J. <i>How to Write a Lot: A Practical Guide to Productive Academic Writing</i>. American Psychological Assn, 2007. Wallwork, Adrian. <i>English for Writing Research Papers</i>. Springer, 2016. 一橋大学英語科『英語アカデミック・ライティングの基礎』、研究社、2015年。 <u>他。</u></p> | <p>【教科書】 Fabb, Nigel and Alan Durant. <i>How to Write Essays, Dissertations, and Thesis in Literary Studies</i>. Addison-Wesley Longman Ltd, 1993. <i>MLA Handbook</i>. 8th ed. MLA, 2016. <u>その他にプリントも配布する。</u></p> <p>【参考文献】 Furman, Rich and Julie T. Kinn. <i>Practical Tips for Publishing Article</i>. Oxford UP, 2012. Silvia, Paul J. <i>How to Write a Lot: A Practical Guide to Productive Academic Writing</i>. American Psychological Assn, 2007. Wallwork, Adrian. <i>English for Writing Research Papers</i>. Springer, 2016. 一橋大学英語科『英語アカデミック・ライティングの基礎』、研究社、2015年。 <u>その他は授業中に適宜紹介する。</u></p> |
| <p>芸術コミュニケーション実践演習 I (リサーチ・ベース) (4) 成績評価の方法 <u>以下を総合して判定する。</u> 各回の課題60%、第14回の研究発表とそれに関連する事前事後の学習40% <u>※評価割合は若干の調整を行うことがある。</u> <u>得点率による評価基準は次のとおりとする。</u> <u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>【卓越している】芸術コミュニケーション研究に関する基礎的な知識をもとに、独自の視点と問題意識に支えられた研究活動を進め、その研究成果をまとめる力において、極めて高い水準にある。</u> <u>【かなり上にある】芸術コミュニケーション</u></p> | <p>芸術コミュニケーション実践演習 I (リサーチ・ベース) (4) 成績評価の方法 各回の課題60%、第14回の研究発表とそれに関連する事前事後の学習40%</p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>研究発表について</u> <u>基本的に授業内容を踏まえた発表であれば「水準にある」。授業内容を十分に活かした発表であれば「やや上にある」。先行研究の分析や調査の実施に、質・量の充実が認められれば「かなり上にある」。独自性</u></p> |

| | |
|--|---|
| <p>研究に関する基礎的な知識をもとに、独自の視点と問題意識に支えられた研究活動を進め、その研究成果をまとめる力において、非常に高い水準にある。</p> <p><u>【やや上にある】芸術コミュニケーション研究に関する基礎的な知識をもとに、独自の視点と問題意識に支えられた研究活動を進め、その研究成果をまとめる力において、高い水準にある。</u></p> <p><u>【その水準にある】芸術コミュニケーション研究に関する基礎的な知識をもとに、独自の視点と問題意識に支えられた研究活動を進め、その研究成果をまとめる力において、一定水準にある。</u></p> <p>【教科書】 なし。</p> <p>【参考文献】 Jerrold Levinson, <i>The Oxford Handbook of Aesthetics</i>, Oxford Univ., 2005. ほか</p> | <p><u>の</u>高い結論や方法論上の更新に到達していれば「卓越している」。</p> <p>【教科書】 なし。<u>必要な資料は配布。もしくは入手方法を指示する。</u></p> <p>【参考文献】 Jerrold Levinson, <i>The Oxford Handbook of Aesthetics</i>, Oxford Univ., 2005. ほか、<u>授業中に適宜指示する。</u></p> |
| <p>芸術コミュニケーション実践演習Ⅱ（パブリケーション・ベース） （4）成績評価の方法 <u>以下を総合して判定する。</u> 各回の課題60%、第14回の研究発表とそれに関連する事前事後の学習40% <u>※評価割合は若干の調整を行うことがある。</u> <u>得点率による評価基準は次のとおりとする。</u> <u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>（5）成績評価の基準 <u>【卓越している】芸術コミュニケーション実践演習（リサーチ・ベース）の学修成果を基盤に、独自の視点と問題意識に支えられた研究を進め、その成果を公表する力において、極めて高い水準にある。</u> <u>【かなり上にある】芸術コミュニケーション実践演習（リサーチ・ベース）の学修成果を基盤に、独自の視点と問題意識に支えられた研究を進め、その成果を公表する力において、非常に高い水準にある。</u> <u>【やや上にある】芸術コミュニケーション実</u></p> | <p>芸術コミュニケーション実践演習Ⅱ（パブリケーション・ベース） （4）成績評価の方法 各回の課題60%、第14回の研究発表とそれに関連する事前事後の学習40%</p> <p>（5）成績評価の基準 基本的に授業内容を踏まえた発表であれば「水準にある」。授業内容を十分に活かした発表であれば「やや上にある」。先行研究の分析や調査の実施に、質・量の充実が認められれば「かなり上にある」。独自性の高い結論や方法論上の更新に到達していれば「卓越している」。</p> |

| | |
|--|--|
| <p>践演習（リサーチ・ベース）の学修成果を基盤に、独自の視点と問題意識に支えられた研究を進め、その成果を公表する力において、高い水準にある。</p> <p><u>【その水準にある】芸術コミュニケーション実践演習（リサーチ・ベース）の学修成果を基盤に、独自の視点と問題意識に支えられた研究を進め、その成果を公表する力において、一定水準にある。</u></p> <p>【教科書】 なし。</p> <p>【参考文献】 Jerrold Levinson, <i>The Oxford Handbook of Aesthetics</i>, Oxford Univ., 2005. ほか。</p> | <p>【教科書】 なし。<u>必要な資料は配布。もしくは入手方法を指示する。</u></p> <p>【参考文献】 Jerrold Levinson, <i>The Oxford Handbook of Aesthetics</i>, Oxford Univ., 2005. ほか、<u>授業中に適宜指示する。</u></p> |
| <p>哲学思想論 ARI（哲学的対話の方法） （4）成績評価の方法 理解度をチェックする中間報告（6割）と最終レポート（4割）で評価する。 <u>得点率による評価基準 90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>【参考文献】 <u>池上彰『情報を活かす力』、PHP研究所、2016年</u> <u>伊勢田哲治『哲学思考トレーニング』、ちくま書房、2005年</u></p> | <p>哲学思想論 ARI（哲学的対話の方法） （4）成績評価の方法 理解度をチェックする中間報告（6割）と最終レポート（4割）で評価する。</p> <p>【参考文献】 <u>授業中に指示する。</u></p> |
| <p>哲学思想論 ARII（哲学的対話の実践） （4）成績評価の方法 ピア評価のシステムを導入する。ピア評価シートを用いて、プログラム開始時から終了時までの活動参加度、発話回数、他者の発話に真摯に耳を傾け、理解しようとする態度などの成長度合いを定量的に測定する。また、最終レポートとして、「自分が成長したと思える理由」を、具体的なエピソードと共に記述してもらうことを通じて、学修成果の確実な測定を実現する。 <u>得点率による評価基準 90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>【参考文献】</p> | <p>哲学思想論 ARII（哲学的対話の実践） （4）成績評価の方法 ピア評価のシステムを導入する。ピア評価シートを用いて、プログラム開始時から終了時までの活動参加度、発話回数、他者の発話に真摯に耳を傾け、理解しようとする態度などの成長度合いを定量的に測定する。また、最終レポートとして、「自分が成長したと思える理由」を、具体的なエピソードと共に記述してもらうことを通じて、学修成果の確実な測定を実現する。</p> <p>【参考文献】 <u>授業中に指示する。</u></p> |

| | |
|---|--|
| <p>平田オリザ『芸術立国論』、集英社、2001年</p> <p>平田オリザ『下り坂をそろそろと下る』、講談社、2016年</p> | |
| <p>文化情報論・社会学 AR I (調査企画設計)</p> <p>(1) 授業のねらい</p> <p>不確実な状況下での意思決定の特徴について理論化したプロスペクト理論をはじめとした認知的意思決定諸モデルについて文献を精読して学び、それをもとに地域社会に危機をもたらす環境・災害・地方衰退などにおける意思決定をテーマとした実践的な調査研究を企画・設計・実施するアクティブラーニングを経験する。これにより「限定合理性」に制約された意思決定を説明する諸理論を理解するとともに、現代の公共課題の中でこれらの理論を実践する力を身に付け、将来、自治体や組織の中での課題解決に向けて社会調査の実務を遂行可能な人材や、意思決定の視座から現代社会の諸事象をとらえて考察することのできる教育者を育成する。</p> | <p>文化情報論・社会学 AR I (調査企画設計)</p> <p>(1) 授業のねらい</p> <p>現代の地域社会に危機をもたらす地方衰退や環境・災害にかかわる諸課題の解決に結びつく実践的な調査研究を、企画・設計し、これらを実施・分析・集計をおこなうアクティブラーニングを経験することを通して、調査設計から実施分析を可能にする十分な知識と技術を習得する。このプロセスにより社会的課題についての多面的な理解を形成し、将来、自治体や組織の中で社会調査の実務を遂行可能な人材を育成する。</p> |
| <p>(2) 授業の概要</p> <p>Kahneman と Tversky によって提唱されたプロスペクト理論(Prospect theory)は、確率的に不確実な状況下での意思決定についての記述モデルとして、人の行動と社会現象を理解する上で重要な枠組みを提供している。参加者はまず、指定テキストを理解した上で、この理論を応用した先行研究を選定して精読発表とディスカッションを行い、十分に認識を深める。その上で、この理論を応用した具体的な調査対象として、地方活性化、文化共生、環境、災害対策といった現代の地域社会の共通課題を選定した上で、プロスペクト理論が説明する利得損失場面での価値関数や参照点移動、フレーミング効果などの概念が関連する公共的意思決定についての院生共同調査研究を実施する。具体的には、確率値が数値として与えられる選択場面での意思決定を測定変数とした仮説構成を行い、調査票の作成、サンプリングと実査、調査データの整理、比較的簡単な量的分析 とグラフ作成、質的な分析に基づく報告ペーパーの作成などを行う。また、調査にあたっては、アクションリサーチの主旨に照らし、自治体や公共</p> | <p>(2) 授業の概要</p> <p>地方活性化、観光振興、多文化共生、環境、災害対策といった現代の地域社会の共通課題への問題意識をもとに、複数の学生で共同して調査研究のテーマを決定する。このテーマは、各自が専門とする修士論文のテーマとは異なるものとし、毎年ディスカッションの上決定する。調査方法論や調査倫理を踏まえた上で、調査方法の決定、調査企画と設計、仮説構成、調査票の作成、サンプリングないし対象者・フィールドの選定、実査、調査データの整理、比較的簡単な量的分析 とグラフ作成、質的な分析、以上に基づく報告ペーパーの作成などを行う。</p> <p>また、調査にあたっては、自治体や公共組織などとの関係を学生自身が企画し実現する。学部学生が行う調査実習に指導的な立場で連携することもありうる。本実習への</p> |

| | |
|--|---|
| <p>組織などとの関係を院生自身が企画し実現する。本実習への参加のためには学部卒業レベルの推測統計学・多変量解析などの理解と、統計分析を実行できる能力を習得していることを必要とする。意思決定理論にもとづく社会調査データの応用的な分析と価値のある情報発信に取り組む文化情報論社会学 ARⅡ（総合調査法）とセットで受講することを推奨する。</p> <p>(3) 授業計画</p> <p>授業計画</p> <p>第1回：<u>意志決定理論に関するガイダンス</u> 菊池、茅野、水原、佐藤</p> <p>第2回：<u>期待効用理論とプロスペクト理論の概要</u> 菊池</p> <p>第3回：<u>価値関数と損失回避性についての論文発表とディスカッション</u> 菊池</p> <p>第4回：<u>現状維持バイアスと保有効果についての論文発表とディスカッション</u> 菊池</p> <p>第5回：<u>リスク態度の非対称性についての論文発表とディスカッション</u> 佐藤</p> <p>第6回：<u>参照点依存とレーミング効果についての論文発表とディスカッション</u> 佐藤</p> <p>第7回：<u>行動経済学分野での意思決定の特徴についてディスカッション</u> 水原</p> <p>第8回：<u>認知研究から発展した認知的意志決定理論に関する発表とディスカッション</u> 水原</p> <p>第9回：<u>プロスペクト理論を応用した調査研究についての発表とディスカッション</u> 茅野</p> <p>第10回：<u>現代社会の諸課題に対する仮説の構成</u> 茅野</p> <p>第11回：<u>調査票実査と項目の改良</u> 茅野</p> <p>第12回：<u>調査データの整理（コーディング、データクリーニング）の実施</u> 水原</p> | <p>参加のためには学部卒業レベルの推測統計学・多変量解析などの理解と、統計分析を実行できる能力を習得していることを必要とする。</p> <p><u>社会調査データの応用的な分析と価値のある情報発信に取り組む文化情報論社会学 ARⅡ（応用分析）とセットで受講することを推奨する。</u></p> <p>(3) 授業計画</p> <p>授業計画</p> <p>第1回：<u>社会調査を用いた実習の概要について理解する</u> 菊池、茅野、水原、佐藤</p> <p>第2回：<u>地域社会の現状と課題について知る</u> 茅野</p> <p>第3回：<u>具体的なテーマと調査方針をディスカッションの上、決定する</u> 茅野</p> <p>第4回：<u>詳細な調査プランについてディスカッションの上、決定する</u> 茅野</p> <p>第5回：<u>先行研究の精査と発表をもとに仮説を構成する</u> 茅野</p> <p>第6回：<u>仮説構成にかかわる問題点を理解し、仮説を精緻化する</u> 茅野</p> <p>第7回：<u>調査の企画設計と組織・自治体との連携についての注意を理解する</u> 佐藤</p> <p>第8回：<u>実施可能な調査票を作成する</u> 佐藤</p> <p>第9回：<u>調査票の試行と項目の精査改良を行う</u> 佐藤</p> <p>第10回：<u>調査票の配布もしくは郵送などの調査実施に着手する</u> 水原</p> <p>第11回：<u>調査プロセスを進行させ、調査票の回収に取りかかる</u> 水原</p> <p>第12回：<u>調査データの整理（コーディング</u></p> |
|--|---|

| | |
|---|---|
| <p>第13回：<u>基礎統計量の整理</u> 水原</p> <p>第14回：<u>情報の表現と可視化表現</u> 菊池</p> <p>第15回：<u>調査の振り返りと反省会を行い意思決定に関する理論の認識を深める</u> 菊池、茅野、水原、佐藤</p> <p>定期試験：行わない</p> <p>(4) 成績評価の方法 <u>学生は調査の(1)調査の企画設計(2)調査に向けて外部機関との連携活動(3)一連の調査実施プロセスの遂行(4)データ分析と報告ペーパーの作成の四過程に参加することを前提に、それらに必要なタスクを遂行した水準を評価し、各25%×4=100%の評価とする。評価基準は得点率90%以上を秀、89-80%を優、79-70%を良、69-60%を可、59%以下を不可とする。</u></p> | <p><u>グ、データクリーニング)の実施</u> 菊池</p> <p>第13回：<u>基礎統計量を整理する</u> 菊池</p> <p>第14回：<u>情報の表現と可視化表現を行う</u> 菊池</p> <p>第15回：<u>調査の振り返りと反省会を行い調査の企画設計に関する認識を深める</u> 菊池、茅野、水原、佐藤</p> <p>(4) 成績評価の方法 <u>学生は調査の(1)調査の企画設計(2)調査に向けて外部機関との連携活動(3)一連の調査実施プロセスの遂行(4)データ分析と報告ペーパーの作成の四過程に参加することを前提に、それらに必要なタスクを遂行した水準を評価し、各25%×4=100%の評価とする。</u></p> |
| <p>文化情報論・社会学 AR II (総合調査法)</p> <p>(1) 授業のねらい <u>不確実な状況下での意思決定にかかわる認知的意思決定モデルと、そこから発展したLibertarian Paternalism の概念を的確に理解し、社会の諸課題に対して応用的に活用することを目的とする。これらの概念を応用して、前期に行った調査データを多変量解析手法によって再分析と考察を行い、その成果を現実社会の問題解決に役立てていく方策について議論し、広く社会に発信するためのアクティブラーニングに取り組む。これらを通して、将来、自治体や組織の中での諸課題解決の実務を遂行可能な人材や、意思決定理論の視座から社会の諸事象を考察することのできる教育者を育成する。</u></p> <p>(2) 授業の概要 <u>前期の文化情報論社会学AR I (調査企画設計)において、意思決定にかかわる諸理論の概要を理解し、地域社会の課題に関する調査研究を完了していることを前提とする。この調査データを利用して、新たに</u></p> | <p>文化情報論・社会学 AR II (総合調査法)</p> <p>(1) 授業のねらい <u>現代の地域社会に危機をもたらす地方衰退や環境・災害といった諸課題の解決に結びつく実践的な社会調査データをもとに、応用的な多変量解析などの手法を活用して高度な分析と考察を行う。そして、その成果を現実の問題解決に役立てていく方策について議論し、広く社会に発信するためのアクティブラーニングに取り組む。これにより社会調査のエビデンスにもとづいて、よい社会構築に向けての提案ができる能力を身につける。</u></p> <p>(2) 授業の概要 <u>前期の文化情報論・社会学AR I (調査企画設計)において、地域社会の共通課題への問題意識をもとに、複数の学生で共同して調査研究を企画設計し実施まで完了していることを前提とする。この調査データを利</u></p> |

| | |
|--|---|
| <p><u>Libertarian PaternalismとNudgeの概念をもとに社会課題への具体的発信を行うために多変量解析など応用的な複数の分析手法を用いて析考察する。中でも前期調査で見いだされた社会的変数の群間差を埋めるために、Nudgeによる働きかけがどの程度有効かという観点から、追加社会調査や行動分析などの補足調査も実施し、総合的な調査結果としてまとめるものとする。この成果をもとに、自治体や機関と連携して地域社会に向けてのワークショップやフォーラムなどのイベント企画など社会的にNudgeの応用を促進しうる価値のある情報発信を行う。</u></p> <p>—</p> <p><u>本実習への参加のためには学部卒業レベルの推測統計学・多変量解析などの理解と、統計分析を実行できる能力を習得しており、文化情報論社会学AR I（調査企画設計）に参加していることを必要とする。</u></p> <p>(3) 授業計画</p> <p>授業計画</p> <p>第1回：<u>社会調査の応用分析と情報発信の方針についてのガイドランス</u> 菊池、茅野、水原、佐藤</p> <p>第2回：<u>認知的意思決定理論の発展について理解する</u> 菊池</p> <p>第3回：<u>Nudgeと行動変容について論文発表とディスカッション</u> 菊池</p> <p>第4回：<u>社会課題解決策としてのNudgeについて論文発表とディスカッション</u> 茅野</p> <p>第5回：<u>Libertarian Paternalismに関する論文発表</u> 茅野</p> <p>第6回：<u>社会調査におけるLibertarianの視点とPaternalismの視点を再考察する</u> 菊池</p> <p>第7回：<u>公的な意思決定や政策におけるNudgeの選択肢設計に関するディスカッション</u> 茅野</p> | <p><u>用して、多変量解析など応用的な複数の分析手法を用いて多面的に分析考察し、必要に応じて追加社会調査や行動分析、データアーカイブの利用などの補足調査も実施し、総合的な調査結果として成果をまとめる。この成果をもとに、自治体や機関と連携して地域社会に向けてのワークショップやフォーラムなどのイベント企画やホームページ構築など社会的に価値のある情報発信を行う。</u></p> <p><u>本実習への参加のためには学部卒業レベルの推測統計学・多変量解析などの理解と、統計分析を実行できる能力を習得していることを必要とする。また、社会調査の企画設計から実行について学ぶ文化情報論社会学AR II（応用分析）に参加していること。</u></p> <p>(3) 授業計画</p> <p>授業計画</p> <p>第1回：<u>社会調査の応用分析と情報発信の方針について議論する</u> 菊池、茅野、水原、佐藤</p> <p>第2回：<u>社会調査データの再検討と応用分析についての仮説を構築する</u> 茅野</p> <p>第3回：<u>先行研究の精査とディスカッションを行う</u> 茅野</p> <p>第4回：<u>総合的な多変量解析の手法について理解を深める</u> 水原</p> <p>第5回：<u>仮説構成にかかわる問題点を理解し、仮説を精緻化する</u> 水原</p> <p>第6回：<u>総合的な多変量解析の実施結果をもとに、補足データについてのディスカッションを行う</u> 水原</p> <p>第7回：<u>情報発信についてターゲットや方</u></p> |
|--|---|

| | |
|--|--|
| <p>第8回：<u>再分析に向けて総合的な多変量解析の手法について理解を深める</u> 水原</p> <p>第9回：<u>仮説と解析法についての問題点を理解し、仮説を精緻化する</u> 水原</p> <p>第10回：<u>Libertarian Paternalismの切り口から、補足データ収集のディスカッションを行う</u> 水原</p> <p>第11回：<u>多変量解析と補足調査の総合的な分析と成果のとりまとめを行う</u> 佐藤</p> <p>第12回：<u>情報発信企画を具体化する上で課題を整理解決する</u> 佐藤</p> <p>第13回：<u>情報発信企画について外部機関との連携を確認・準備を行う</u> 佐藤</p> <p>第14回：<u>情報発信企画を大学外にて開催する（時期は会場条件により変化する予定）</u> 菊池、茅野、水原、佐藤</p> <p>第15回：<u>調査の振り返りと反省会を行い、認識を深める</u> 菊池、茅野、水原、佐藤 <u>期末試験の有無：無</u></p> <p>(4) 成績評価の方法 学生は調査の(1)調査データの応用的分析能力の獲得(2)補足的なデータ収集と分析にかかわる調査企画と遂行(3)情報の議論・発信にかかわる企画の設計と開催の三過程に参加することを前提に、それらに必要なタスクを遂行した水準を全体の1/3ずつ評価し、合計100%の評価とする。<u>評価基準は得点率90%以上を秀、89-80%を優、79-70%を良、69-60%を可、59%以下を不可とする。</u></p> | <p><u>略、外部連携案について検討する</u> 菊池</p> <p>第8回：<u>補足データ収集についての調査活動を遂行する</u> 茅野</p> <p>第9回：<u>補足データの整理と簡単な分析を行う</u> 茅野</p> <p>第10回：<u>応用分析と補足調査の総合的な分析と成果のとりまとめを行う</u> 菊池</p> <p>第11回：<u>情報発信企画を具体化する上で課題を整理解決する</u> 菊池</p> <p>第12回：<u>情報発信企画について外部機関との連携を確認・準備を行う</u> 菊池</p> <p>第13回：<u>情報発信企画の準備とリハーサルを行う</u> 佐藤</p> <p>第14回：<u>情報発信企画を大学外にて開催する（時期は会場条件により変化する予定）</u> 佐藤</p> <p>第15回：<u>調査の振り返りと反省会を行い、認識を深める</u> 菊池、茅野、水原、佐藤 <u>期末試験の有無：無</u></p> <p>(4) 成績評価の方法 学生は調査の(1)調査データの応用的分析能力の獲得(2)補足的なデータ収集と分析にかかわる調査企画と遂行(3)情報の議論・発信にかかわる企画の設計と開催の三過程に参加することを前提に、それらに必要なタスクを遂行した水準を全体の1/3ずつ評価し、合計100%の評価とする。</p> |
| <p>歴史学 AR I（史料調査法・日本史）</p> <p>(4) 成績評価の方法 古文書の読解（50%），<u>学術著書・論文の読解（10%），プレゼンテーション（20%），ディベート（20%）の総合評価</u> <u>得点率による評価基準は次のとおりとする。</u> <u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準</p> | <p>歴史学 AR I（史料調査法・日本史）</p> <p>(4) 成績評価の方法 古文書の読解（50%），<u>平常点（50%）の総合評価</u></p> <p>(5) 成績評価の基準</p> |

| | |
|--|---|
| <p><u>【卓越している＝秀】古文書学研究法に関する基礎的な知識をもとに、論理的に思考し、批判的に分析し、自律的に考える力を総合して、極めて高い水準にある。</u></p> <p><u>【かなり上にある＝優】古文書学研究法に関する基礎的な知識をもとに、論理的に思考し、批判的に分析し、自律的に考える力を総合して、非常に高い水準にある。</u></p> <p><u>【やや上にある＝良】古文書学研究法に関する基礎的な知識をもとに、論理的に思考し、批判的に分析し、自律的に考える力を総合して、高い水準にある。</u></p> <p><u>【その水準にある＝可】古文書学研究法に関する基礎的な知識をもとに、論理的に思考し、批判的に分析し、自律的に考える力を総合して、一定水準にある。</u></p> <p>【教科書】 各回の内容に合わせて独自に作成したプリントをそのつど配布する。</p> | <p>古文書解読 (50%)、学術著書・論文の読解 (10%)、プレゼンテーション (20%)、ディベート (20%) を総合して評価する。授業の趣旨をきちんと理解し、積極的に参加し、提出されたレポートの内容が正確かつ意欲的なものであれば「卓越している」と評価する。以上の項目すべてに関して妥当性が認められる場合は「やや上にある」、総合的に見て妥当性が認められる場合は「その水準にある」と評価する。</p> <p>【教科書】 授業中に指示・配布する。</p> |
| <p>歴史学 ARⅡ (史料調査法・西洋史・東洋史)</p> <p>(4) 成績評価の方法</p> <p>●以下を総合して判定する。</p> <p>授業への取り組み方 (70%)、レポート (30%)</p> <p>※評価割合は若干の調整を行うことがある。</p> <p>●得点率による評価基準は次のとおりとする。</p> <p>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</p> <p>(5) 成績評価の基準</p> <p><u>【卓越している】外国史に関わる史料調査法に関する基礎的な知識をしっかり理解した上で、情報を収集し、論理的に思考し、一般化可能な形で収集した情報を提示できる力を総合して、極めて高い水準にある。</u></p> <p><u>【かなり上にある】外国史に関わる史料調査法に関する基礎的な知識をもとに、情報を収集し、論理的に思考し、一般化可能な形で収集した情報を提示できる力を総合して、非常に高い水準にある。</u></p> <p><u>【やや上にある】外国史に関わる史料調査法に関する基礎的な知識をもとに、情報を収集し、論理的に思考し、一般化可能な形</u></p> | <p>歴史学 ARⅡ (史料調査法・西洋史・東洋史)</p> <p>(4) 成績評価の方法</p> <p>授業中の討論を通じて理解度を測り (20%)、自分の主張をどれだけ客観的に行っているか (20%)、他の人の理解を得られる論理的な発言か (20%) をみる。また、プレゼンテーションの内容がどれだけ客観的、論理的であるか (20%)、理解し組み上がっているか (20%) を総合的に判断する。</p> <p>(5) 成績評価の基準</p> <p>理解度：テキスト内容・自らのプレゼン内容などを概ね把握できていれば「その水準にある」とし、内容をふまえてさらに踏み込んだ発言があれば「卓越している」と評価する。</p> <p>客観性：自らの主張に際して、三人称を用い、感覚的な表現を排して、一般化が可能な論理を用いることができているならば「その水準にある」と評価する。</p> <p>論理性：自らの主張に際して、破綻なく議論を組み立てられていけば「その水準にある」と評価する。</p> |

| | |
|--|--|
| <p>で収集した情報を提示できる力を総合して、高い水準にある。</p> <p><u>【その水準にある】外国史に関わる歴史学研究法に関する基礎的な知識をもとに、情報を収集し、論理的に思考し、一般化可能な形で収集した情報を提示できる力を総合して、一定水準にある。</u></p> <p>【教科書】 <u>各回の内容に合わせて独自に作成したプリントをそのつど配布する。</u></p> | <p>【教科書】 <u>授業中に資料を配布する。</u></p> |
| <p>日本語文化 AR I (コミュニケーションツールとしての日本語・日本文学)</p> <p>(4) 成績評価の方法 目標への到達度をはかるため、各授業においてコメントシートの提出を課す (40点)。また、授業における作業への取り組み (40点)、フィールドワークに関するレポート (20点) を総合して評価する。 <u>得点による評価基準は次のとおりとする。</u> <u>合計 100 点満点のうち、90 点以上を秀、80 点以上を優、70 点以上を良、60 点以上を可と評価する。59 点以下の場合は単位認定しない。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>テキスト精読や補足的準備を中心とした事前および事後学習を基に授業での報告や討議への積極的・能動的な参加が求められる。以上に加え、レポート課題に対し適切に問題設定を行い、授業で学んだ専門的概念や視点をを用いて論理的に論述できれば、本授業の達成目標の「水準にある」と判定する。加えて、適切な具体例を挙げつつ論述できるならば水準の「やや上にある」とし、基本的概念と具体例を統合的に用いて論述できるならば水準の「かなり上にある」と判定する。さらに、授業で学んだ事項を統合的に用い、具体例を挙げつつ、応用的かつ発展的に、そして複眼的に論述できる場合は水準を「卓越している」と判定する。</u></p> <p>【教科書】 <u>『対訳西鶴全集』第3巻 (麻生磯次・富士昭雄編、明治書院、1992年)</u></p> | <p>日本語文化 AR I (コミュニケーションツールとしての日本語・日本文学)</p> <p>(4) 成績評価の方法 目標への到達度をはかるため、各授業においてコメントシートの提出を課す (40点)。また、授業における作業への取り組み (40点)、フィールドワークに関するレポート (20点) を総合して評価する。</p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>合計 100 点満点のうち、90 点以上を秀、80 点以上を優、70 点以上を良、60 点以上を可と評価する。59 点以下の場合は単位認定しない。</u></p> <p>【教科書】 <u>毎回の授業において、担当教員による資料を配布する。</u></p> |

| | |
|--|---|
| <p>『日本語教材研究の視点—新しい教材研究論の確立をめざして』(吉岡英幸ほか編、2016年、くろしお出版)</p> | |
| <p>日本語文化 ARⅡ (近代を中心とする日本語文献コミュニケーション論) (4) 成績評価の方法 出席は前提。第8回と第15回に行うプレゼンテーション (50点) とディスカッション (50点) で、到達目標への到達度を課題評価点ではかる。 <u>得点率による評価基準は次のとおりとする。</u> <u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可と評価する。 59点以下の場合は単位認定しない。 <u>【秀：卓越している】文献学的研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な学的処理を行い、論理的思考し、自律的に考える力を総合して、極めて高い水準にある。</u> <u>【優：かなり上にある】文献学的研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な学的処理を行い、論理的思考し、自律的に考える力を総合して、非常に高い水準にある。</u> <u>【良：やや上にある】文献学的研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な学的処理を行い、論理的思考し、自律的に考える力を総合して、高い水準にある。</u> <u>【可：その水準にある】文献学的研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な学的処理を行い、論理的思考し、自律的に考える力を総合して、一定水準にある。</u></p> <p>【教科書】 各回の内容に合わせて独自に作成したプリントをそのつど配布する。</p> <p>【参考文献】 鈴木広光『日本語活字印刷史』名古屋大学出版会、芳賀矢一『国文学史十講』富山房、他。</p> | <p>日本語文化 ARⅡ (近代を中心とする日本語文献コミュニケーション論) (4) 成績評価の方法 出席は前提。第8回と第15回に行うプレゼンテーション (50点) とディスカッション (50点) で、到達目標への到達度を課題評価点ではかる。</p> <p>(5) 成績評価の基準 90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可と評価する。 59点以下の場合は単位認定しない。</p> <p>【教科書】 テキスト (論文等) は授業中に配布する。</p> <p>【参考文献】 鈴木広光『日本語活字印刷史』名古屋大学出版会、芳賀矢一『国文学史十講』富山房、他。<u>随時授業内に随時授業内にて紹介する。</u></p> |
| <p>英米言語文化 ARⅠ (英語学) (4) 成績評価の方法</p> | <p>英米言語文化 ARⅠ (英語学) (4) 成績評価の方法</p> |

| | |
|--|---|
| <p>授業内でのアクティビティ50%とプレゼンテーション50%による。 得点率による評価基準は次のとおりとする。</p> <p><u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準</p> <p><u>【卓越している】英語圏の言語文化に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、極めて高い水準にある。</u></p> <p><u>【かなり上にある】英語圏の言語文化に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、非常に高い水準にある。</u></p> <p><u>【やや上にある】英語圏の言語文化に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、高い水準にある。</u></p> <p><u>【その水準にある】英語圏の言語文化に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、一定水準にある。</u></p> | <p>授業内でのアクティビティ 50%とプレゼンテーション 50%による。</p> <p>(5) 成績評価の基準</p> <p><u>授業内でのアクティビティ 50%とプレゼンテーション 50%による。評価点は、うまくプレゼンテーションできたか。また、うまくプレゼンテーションに参加できたかである。その度合いに応じて、合計 100 点で評価し、90 点以上を秀、80 点以上を優、70 点以上を良、60 点以上を可と評価し、60 点未満の場合は単位を与えない。</u></p> |
| <p>英米言語文化 ARⅡ (英米文学文化)</p> <p>(4) 成績評価の方法</p> <p>●以下を総合して判定する。 授業内でのアクティビティ (50%)、論文 (50%)</p> <p>※評価割合は若干の調整を行うことがある。</p> <p>●得点率による評価基準は次のとおりとする。</p> <p><u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準</p> <p><u>【卓越している】英語圏の言語文化に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、極めて高い水準にある。</u></p> <p><u>【かなり上にある】英語圏の言語文化に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処</u></p> | <p>英米言語文化 ARⅡ (英米文学文化)</p> <p>(4) 成績評価の方法</p> <p><u>授業内でのアクティビティ 50%と論文 50%による。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準</p> <p><u>授業内でのアクティビティ 50%と論文 50%による。評価点は、うまく論文が書けるようになったか。また、うまく論文が修正できるようになったかである。その度合いに応じて、合計 100 点で評価し、90 点以上を秀、80 点以上を優、70 点以上を良、60</u></p> |

| | |
|---|--|
| <p><u>理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、非常に高い水準にある。</u></p> <p><u>【やや上にある】英語圏の言語文化に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、高い水準にある。</u></p> <p><u>【その水準にある】英語圏の言語文化に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、一定水準にある。</u></p> | <p><u>点以上を可と評価し、60点未満の場合は単位を与えない。</u></p> |
| <p>比較言語文化 AR I (多文化交流サロン) (4) 成績評価の方法</p> <p>●以下を総合して判定する。</p> <p>「授業のねらい」で掲げた内容に関する取り組みの達成度を各授業回の際に担当教員が確認すると共に、多文化交流サロンイベント終了後のレポートを期末に課し、それによって評価を行なう。<u>授業への取り組み方 (50%)、レポート (50%)</u></p> <p>※評価割合は若干の調整を行うことがある。</p> <p>●得点率による評価基準は次のとおりとする。</p> <p><u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準</p> <p><u>【卓越している】各々の研究領域における(1)問題の設定が適切に行われており、(2)その問題に関する問題が説明できており、(3)その問題解決に向けてどのような課題があるのかを十分に指摘できており、(4)それらの課題に関する解決法を適切に批判し、その問題点と課題を明確に把握できており、(5)その上で、自分自身の解決法の発見と提示ができ、実際のイベントが適切に運営できていること、(1)～(5)の諸点に加え、授業で学んだ複数の分野に関わる問題解決の事例が適切に参照されており、極めて高い水準にある。</u></p> <p><u>【かなり上にある】上記(1)から(5)までの5項目を満たしていい、非常に高い水準にある。</u></p> <p><u>【やや上にある】上記(1)から(4)までの4項目を満たしていい、高い水準にある。</u></p> | <p>比較言語文化 AR I (多文化交流サロン) (4) 成績評価の方法</p> <p>「授業のねらい」で掲げた内容に関する達成度を各授業回の際に担当教員が確認すると共に、多文化交流サロンイベント終了後のレポートを期末に課し、それによって評価を行なう。</p> <p>(5) 成績評価の基準</p> <p>各々の研究領域における(1)問題の設定が適切に行われており、(2)その問題に関する問題が説明できており、(3)その問題解決に向けてどのような課題があるのかを十分に指摘できており、(4)それらの課題に関する解決法を適切に批判し、その問題点と課題を明確に把握できており、(5)その上で、自分自身の解決法の発見と提示ができ、実際のイベントをオーガナイズ出来ていること、(1)～(5)の諸点に加え、授業で学んだ複数の分野に関わる問題解決の事例が適切に参照されていれば「卓越している」。(1)から(5)の5項目を満たしていいれば「かなり上にある」。4項目までできていけば「やや上にある」。3項目までできていけば「合格水準にある」と評価される。</p> |

| | |
|--|---|
| <p><u>【その水準にある】上記(1)から(3)までの3項目を満たしていい、一定水準にある。</u></p> <p>【教科書】 各回の内容に合わせて独自に作成したプリントをそのつど配布する。</p> <p>【参考文献】 三浦信孝・西山教行編『現代フランス社会を知るための62章』, 明石書店, 2010. L. D. Reynolds, N. G. Wilson (著), 西村賀子, 吉武 純夫 (翻訳)『古典の継承者たち—ギリシア・ラテン語テキストの伝承にみる文化史』, 国文社, 1996. 他。</p> | <p>【教科書】 プリント等を配布して進める。</p> <p>【参考文献】 三浦信孝・西山教行編『現代フランス社会を知るための62章』, 明石書店, 2010. L. D. Reynolds, N. G. Wilson (著), 西村賀子, 吉武 純夫 (翻訳)『古典の継承者たち—ギリシア・ラテン語テキストの伝承にみる文化史』, 国文社, 1996. その他。、随時紹介する。</p> |
| <p>比較言語文化 AR II (外国語サロン) (4) 成績評価の方法 ●以下を総合して判定する。 「授業のねらい」で掲げた内容に関する取り組みの達成度を各授業回の際に担当教員が確認すると共に、多文化交流サロンイベント終了後のレポートを期末に課し、それによって評価を行なう。<u>授業への取り組み方 (50%)、レポート (50%)</u> ※評価割合は若干の調整を行うことがある。 ●得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>【卓越している】各々の研究領域における(1)問題の設定が適切に行われており、(2)その問題に関する問題が説明できており、(3)その問題解決に向けてどのような課題があるのかを十分に指摘できており、(4)それらの課題に関する解決法を適切に批判し、その問題点と課題を明確に把握できており、(5)その上で、自分自身の解決法の発見と提示ができ、実際のイベントが適切に運営できていること、(1)～(5)の諸点に加え、授業で学んだ複数の分野に関わる問題解決の事例が適切に参照されており、極めて高い水準にある。</u> <u>【かなり上にある】上記(1)から(5)までの5項目を満たしていい、非常に高い水準にある。</u> <u>【やや上にある】上記(1)から(4)までの4項</u></p> | <p>比較言語文化 AR II (外国語サロン) (4) 成績評価の方法 「授業のねらい」で掲げた内容に関する達成度を各授業回の際に担当教員が確認すると共に、多文化交流サロンイベント終了後のレポートを期末に課し、それによって評価を行なう。</p> <p>(5) 成績評価の基準 各々の研究領域における(1)問題の設定が適切に行われており、(2)その問題に関する問題が説明できており、(3)その問題解決に向けてどのような課題があるのかを十分に指摘できており、(4)それらの課題に関する解決法を適切に批判し、その問題点と課題を明確に把握できており、(5)その上で、自分自身の解決法の発見と提示ができ、実際のイベントが適切に運営できていること、(1)～(5)の諸点に加え、授業で学んだ複数の分野に関わる問題解決の事例が適切に参照されていれば「卓越している」。(1)から(5)の5項目を満たしていれば「かなり上にある」。4項目までできていれば「やや上にある」。3項目までできていれば「合格水準にある」と評価される。</p> |

| | |
|--|--|
| <p>目を満たしていい、高い水準にある。 <u>【その水準にある】上記(1)から(3)までの3項目を満たしていい、一定水準にある。</u></p> <p>【教科書】 各回の内容に合わせて独自に作成したプリントをそのつど配布する。</p> <p>【参考文献】 野崎歓編『フランス文学を旅する60章』，明石書店，2018。 L.D. Reynolds, N.G. Wilson (著)，西村賀子，吉武 純夫 (翻訳)『古典の継承者たち—ギリシア・ラテン語テキストの伝承にみる文化史』，国文社，1996。 <u>他。</u></p> | <p>【教科書】 <u>プリント等を配布して進める。</u></p> <p>【参考文献】 野崎歓編『フランス文学を旅する60章』，明石書店，2018。 L.D. Reynolds, N.G. Wilson (著)，西村賀子，吉武 純夫 (翻訳)『古典の継承者たち—ギリシア・ラテン語テキストの伝承にみる文化史』，国文社，1996。 <u>その他、随時紹介する。</u></p> |
| <p>芸術コミュニケーションAR I (創作と芸術実践)</p> <p>(1) 授業のねらい 授業で得られる「学位授与の方針」要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題発見能力 ・問題分析能力 ・社会的応用能力 ・知的柔軟性 <p>授業の達成目標 文化の諸相としての音楽・身体表現・美術に、総合的にアプローチし、<u>多様なコミュニケーションを構築するための実践型の授業</u>。本授業を通して、多様な芸術活動を直接に経験し、その特質を深く理解したうえで、さらにその価値を正確に他者に伝えることができるようになる。</p> <p>(2) 授業の概要 芸術文化の諸相を、共時的に、多分野のインターフェイスとして捉えるためのリサーチ。フィールドリサーチや学外プロジェクトの実施、あるいは芸術系イベント・機関における参与観察を中心に、その準備と<u>コミュニケーション実践</u>、成果の分析を授業のコアカリキュラムとする。芸術の表現・鑑賞経験にとどまらず、その社会的基盤や機能に対する理解の深化をめざすアクティブな授業。本授業では創作サイドへのアプローチを重視する。</p> <p>(3) 授業計画 第1回：ガイダンス(創作サイドへのアプロ</p> | <p>芸術コミュニケーションAR I (創作と芸術実践)</p> <p>(1) 授業のねらい 授業で得られる「学位授与の方針」要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題発見能力 ・問題分析能力 ・社会的応用能力 ・知的柔軟性 <p>授業の達成目標 文化の諸相としての音楽・身体表現・美術に、総合的にアプローチするための実践型の授業。本授業を通して、多様な芸術活動を直接に経験し、その特質を深く理解したうえで、さらにその価値を正確に他者に伝えることができるようになる。</p> <p>(2) 授業の概要 芸術文化の諸相を、共時的に、多分野のインターフェイスとして捉えるためのリサーチ。フィールドリサーチや学外プロジェクトの実施、あるいは芸術系イベント・機関における参与観察を中心に、その準備と、成果の分析を授業のコアカリキュラムとする。芸術の表現・鑑賞経験にとどまらず、その社会的基盤や機能に対する理解の深化をめざすアクティブな授業。本授業では創作サイドへのアプローチを重視する。</p> <p>(3) 授業計画 第1回：ガイダンス(創作サイドへのアプローチ) 濱崎</p> |

| | |
|---|---|
| <p>ーチと多面的なコミュニケーションの構築) 濱崎</p> <p>第2回：芸術文化の諸相（講義と討議）濱崎 第3回：リサーチ・テーマの検討 濱崎 第4回：リサーチ・テーマの仮決定 濱崎 第5回：予備調査 濱崎 第6回：調査結果の分析。テーマの修正 北村 第7回：フィールドとのコミュニケーション 北村 第8回：リサーチ・テーマの確定。<u>コミュニケーション実践方法の検討</u> 北村 第9回：リサーチ方法の確定 北村 第10回：リサーチの準備 北村 第11回：リサーチの実施（前半）金井 第12回：リサーチの実施（中盤）金井 第13回：リサーチの実施（後半）金井 第14回：リサーチ結果のまとめ 金井 第15回：総括 金井 期末試験の有無 なし</p> <p>(4) 成績評価の方法 <u>以下を総合して判定する。</u> 各回の授業時の課題40%、リサーチの実施40%、リサーチのまとめ20% <u>※評価割合は若干の調整をおこなうことがある。</u> <u>得点率による評価基準は下記のとおりとする。</u> 90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>【卓越している】芸術コミュニケーション研究に関する基礎的な知識をもとに、多面的なコミュニケーション構築の可能性を探求し、独自性の高い結論を導くリサーチ力と実践力において極めて高い水準にある。</u> <u>【かなり上にある】芸術コミュニケーション研究に関する基礎的な知識をもとに、多面的なコミュニケーション構築の可能性を探求し、独自性の高い結論を導くリサーチ力と実践力において非常に高い水準にある。</u> <u>【やや上にある】芸術コミュニケーション研究に関する基礎的な知識をもとに、多面的なコミュニケーション構築の可能性を探</u></p> | <p>第2回：芸術文化の諸相（講義と討議）濱崎 第3回：リサーチ・テーマの検討 濱崎 第4回：リサーチ・テーマの仮決定 濱崎 第5回：予備調査 濱崎 第6回：調査結果の分析。テーマの修正 北村 第7回：フィールドとのコミュニケーション 北村 第8回：リサーチ・テーマの確定。方法の検討 北村 第9回：リサーチ方法の確定 北村 第10回：リサーチの準備 北村 第11回：リサーチの実施（前半）金井 第12回：リサーチの実施（中盤）金井 第13回：リサーチの実施（後半）金井 第14回：リサーチ結果のまとめ 金井 第15回：総括 金井 期末試験の有無 なし</p> <p>(4) 成績評価の方法 各回の授業時の課題40%、リサーチの実施40%、リサーチのまとめ20%</p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>リサーチの検討から実施まで実現することができれば「水準にある」。</u>授業内容を十分に活かしたリサーチであれば「やや上にある」。リサーチの質・量の充実が認められれば「かなり上にある」。独自性の高い結論を導くリサーチであれば「卓越している」。</p> |
|---|---|

| | |
|--|--|
| <p>求し、独自性の高い結論を導くリサーチ力と実践力において高い水準にある。</p> <p><u>【その水準にある】芸術コミュニケーション研究に関する基礎的な知識をもとに、多元的なコミュニケーション構築の可能性を探求し、独自性の高い結論を導くリサーチ力と実践力において一定の水準にある。</u></p> <p>【教科書】 なし。</p> <p>【参考文献】 Dena Davida et al., <i>Curating Live Arts: Critical Perspectives, Essays, and Conversations on Theory and Practice</i>, Berghahn Books, 2018. ほか。</p> | <p>【教科書】 なし。<u>必要な資料は配布。もしくは入手方法を指示する。</u></p> <p>【参考文献】 Dena Davida et al., <i>Curating Live Arts: Critical Perspectives, Essays, and Conversations on Theory and Practice</i>, Berghahn Books, 2018. ほか、<u>授業中に適宜指示する。</u></p> |
| <p>芸術コミュニケーションARⅡ（芸術実践と展開）</p> <p>（4）成績評価の方法 <u>以下を総合して判定する。</u> 各回の授業時の課題40%、リサーチの実施40%、リサーチのまとめ20% <u>※評価割合は若干の調整をおこなうことがある。</u> <u>得点率による評価基準は下記のとおりとする。</u> <u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>（5）成績評価の基準 <u>【卓越している】芸術コミュニケーションARⅠで獲得した知識をもとに、多元的なコミュニケーション構築の可能性を探求し、独自性の高い結論を導くリサーチ力と実践力において極めて高い水準にある。</u> <u>【かなり上にある】芸術コミュニケーションARⅠで獲得した知識をもとに、多元的なコミュニケーション構築の可能性を探求し、独自性の高い結論を導くリサーチ力と実践力において非常に高い水準にある。</u> <u>【やや上にある】芸術コミュニケーションARⅠで獲得した知識をもとに、多元的なコミュニケーション構築の可能性を探求し、独自性の高い結論を導くリサーチ力と実践力において高い水準にある。</u></p> | <p>芸術コミュニケーションARⅡ（芸術実践と展開）</p> <p>（4）成績評価の方法 各回の授業時の課題40%、リサーチの実施40%、リサーチのまとめ20%</p> <p>（5）成績評価の基準 <u>リサーチの検討から実施まで実現することができれば「水準にある」。</u>授業内容を十分に活かしたリサーチであれば「やや上にある」。リサーチの質・量の充実が認められれば「かなり上にある」。独自性の高い結論を導くリサーチであれば「卓越している」。</p> |

| | |
|---|---|
| <p><u>【その水準にある】芸術コミュニケーションAR Iで獲得した知識をもとに、多元的なコミュニケーション構築の可能性を探求し、独自性の高い結論を導くリサーチ力と実践力において一定の水準にある。</u></p> <p>【教科書】 なし。</p> <p>【参考文献】 Ramsay Burt, <i>Ungoverning Dance: Contemporary European Theatre Dance and the Commons</i>, Oxford University Press, 2016. ほか。</p> | <p>【教科書】 なし。<u>必要な資料は配布。もしくは入手方法を指示する。</u></p> <p>【参考文献】 Ramsay Burt, <i>Ungoverning Dance: Contemporary European Theatre Dance and the Commons</i>, Oxford University Press, 2016. ほか、<u>授業中に適宜指示する。</u></p> |
| <p>哲学思想論研究 I (心と科学) (4) 成績評価の方法 発表50%、期末レポート50%で評価します。 <u>得点率による評価基準 90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> | <p>哲学思想論研究 I (心と科学) (4) 成績評価の方法 発表 50%、期末レポート 50%で評価します。</p> |
| <p>哲学思想論研究 II (言語と形而上学) (4) 成績評価の方法 発表50%、期末レポート50%で評価します。 <u>得点率による評価基準 90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> | <p>哲学思想論研究 II (言語と形而上学) (4) 成績評価の方法 発表 50%、期末レポート 50%で評価します。</p> |
| <p>哲学思想論研究 III (西洋哲学) (4) 成績評価の方法 レポートとチュートリアルでの質疑の内容を、一ユニットあたり20%の割合で評価し、結果を合計した数字を最終的な評価とする。 <u>得点率による評価基準 90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>【参考文献】 <u>伊藤邦武『物語 哲学の歴史：自己と世界を考えるために』、中央公論新社、2012年</u></p> | <p>哲学思想論研究 III (西洋哲学) (4) 成績評価の方法 レポートとチュートリアルでの質疑の内容を、一ユニットあたり20%の割合で評価し、結果を合計した数字を最終的な評価とする。</p> <p>【参考文献】 <u>授業中に指示する。</u></p> |
| <p>哲学思想論研究 IV (現代哲学) (4) 成績評価の方法 理解度をチェックする中間報告 (6割) と最終レポート (4割) で評価する。</p> | <p>哲学思想論研究 IV (現代哲学) (4) 成績評価の方法 理解度をチェックする中間報告 (6割) と最終レポート (4割) で評価する。</p> |

| | |
|--|--|
| <p>得点率による評価基準 90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</p> <p>【参考文献】 鷲田清一『素手のふるまい アートがさぐる〈未知の社会性〉』、朝日新聞出版、2016年</p> | <p>【参考文献】 授業中に指示する。</p> |
| <p>哲学思想論研究V（比較思想の理論） （4）成績評価の方法 発表・討議の水準・参加姿勢（50%）、最終レポート（50%）の割合で評価します。 得点率による評価基準 90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</p> <p>【教科書】 W. Halbfass, <i>On Being and What There Is</i>. SUNY Press, 1992 など。</p> <p>【参考文献】 中村元『比較思想論』（岩波書店、1960）等。</p> | <p>哲学思想論研究V（比較思想の理論） （4）成績評価の方法 発表・討議の水準・参加姿勢（50%）、最終レポート（50%）の割合で評価します。</p> <p>【教科書】 W. Halbfass, <i>On Being and What There Is</i>. SUNY Press, 1992 など。<u>その他は適宜授業中に配布します。</u></p> <p>【参考文献】 中村元『比較思想論』（岩波書店、1960）等。<u>その他は適宜授業中に紹介します。</u></p> |
| <p>哲学思想論研究VI（比較思想の方法） （4）成績評価の方法 発表・討議の水準・参加姿勢（50%）、最終レポート（50%）の割合で評価します。 得点率による評価基準 90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</p> <p>【教科書】 J. L. Garfield (ed.), <i>Wilfrid Sellars and Buddhist Philosophy</i>, Routledge, 2019 など。</p> <p>【参考文献】 中村元『比較思想論』（岩波書店、1960）等。</p> | <p>哲学思想論研究VI（比較思想の方法） （4）成績評価の方法 発表・討議の水準・参加姿勢（50%）、最終レポート（50%）の割合で評価します。</p> <p>【教科書】 J. L. Garfield (ed.), <i>Wilfrid Sellars and Buddhist Philosophy</i>, Routledge, 2019 など。<u>その他は適宜授業中に配布します。</u></p> <p>【参考文献】 中村元『比較思想論』（岩波書店、1960）等。<u>その他は適宜授業中に紹介します。</u></p> |
| <p>哲学思想論研究VII（中国思想） （4）成績評価の方法 発表・討議の水準・参加姿勢（50%）、最終レポート（50%）の割合で評価します。 得点率による評価基準 90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</p> | <p>哲学思想論研究VII（中国思想） （4）成績評価の方法 発表・討議の水準・参加姿勢（50%）、最終レポート（50%）の割合で評価します。</p> |

| | |
|--|---|
| <p>【教科書】 加地 伸行『論語 増補版』（講談社学術文庫）等。</p> <p>【参考文献】 藤本 一司『「論語」と「西洋哲学」—「敬意」と「支配」の身体論』（北樹出版）等。</p> | <p>【教科書】 加地 伸行『論語 増補版』（講談社学術文庫）等。<u>その他は適宜授業中に配布します。</u></p> <p>【参考文献】 藤本 一司『「論語」と「西洋哲学」—「敬意」と「支配」の身体論』（北樹出版）等。<u>その他は適宜授業中に紹介します。</u></p> |
| <p>哲学思想論研究Ⅷ（東洋思想） （4）成績評価の方法 発表・討議の水準・参加姿勢（50%）、最終レポート（50%）の割合で評価します。 <u>得点率による評価基準 90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>【教科書】 吉田 公平（著）『王陽明「伝習録」を読む』（講談社学術文庫）等。</p> <p>【参考文献】 栗原 剛（著）『佐藤一斎——克己の思想』（講談社学術文庫）等。</p> | <p>哲学思想論研究Ⅷ（東洋思想） （4）成績評価の方法 発表・討議の水準・参加姿勢（50%）、最終レポート（50%）の割合で評価します。</p> <p>【教科書】 吉田 公平（著）『王陽明「伝習録」を読む』（講談社学術文庫）等。<u>その他は、適宜授業中に配布します。</u></p> <p>【参考文献】 栗原 剛（著）『佐藤一斎——克己の思想』（講談社学術文庫）等。<u>その他は、授業中に随時紹介します。</u></p> |
| <p>社会学研究Ⅰ（社会学理論構築法） （4）成績評価の方法 第7回のディスカッション後に中間レポート（40%）を課す。第15回終了後に最終レポート（60%）を課す。 <u>得点率による評価基準は次のとおりとする。</u> <u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> | <p>社会学研究Ⅰ（社会学理論構築法） （4）成績評価の方法 第7回のディスカッション後に中間レポート（40%）を課す。第15回終了後に最終レポート（60%）を課す。</p> |
| <p>社会学研究Ⅱ（環境・地域社会学） （4）成績評価の方法 第5回に中間レポートを課す（25%）。第6回から第14回にかけて、各回で批評小レポートを課す（45%）。第15回終了後に最終レポートを課す（30%）。 <u>得点率による評価基準は次のとおりとする。</u> <u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> | <p>社会学研究Ⅱ（環境・地域社会学） （4）成績評価の方法 第5回に中間レポートを課す（25%）。第6回から第14回にかけて、各回で批評小レポートを課す（45%）。第15回終了後に最終レポートを課す（30%）。</p> |
| <p>文化情報論研究Ⅰ（批判的思考） （4）成績評価の方法</p> | <p>文化情報論研究Ⅰ（批判的思考） （4）成績評価の方法</p> |

| | |
|---|---|
| <p>授業の中でのディスカッション参加 (50%)と、レポート課題(50%)で評価する。<u>評価基準は得点率 90%以上を秀、89-80%を優、79-70%を良、69-60%を可、59%以下を不可とする。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 批判的思考の知識と技術・態度が十分に習得され、現実の疑似科学をめぐる社会的課題に応用して新たな知見に結びつけることができれば『卓越している』と評価する。批判的思考の技術・態度・知識が現実の疑似科学における問題解決や意思決定を有効なものにするという観点から理解できれば『かなり上にある』、<u>批判的思考が疑似科学をはじめとした社会的課題と結びつけて理解することができれば『やや上にある』、批判的思考と疑似科学についての修得事項が大きな瑕疵なく理解され、ディスカッションに反映していれば『その水準にある』と評価する</u></p> | <p>授業の中でのディスカッション参加 (50%)と、レポート課題(50%)で評価する。</p> <p>(5) 成績評価の基準 批判的思考の知識と技術・態度が十分に習得され、現実の疑似科学をめぐる社会的課題に応用して新たな知見に結びつけることができれば『卓越している』と評価する。批判的思考の技術・態度・知識が現実の疑似科学における問題解決や意思決定を有効なものにするという観点から理解できれば『かなり上にある』、<u>批判的思考が疑似科学をはじめとした社会的課題と結びつけて理解することができれば『その水準にある』と評価する</u></p> |
| <p>文化情報論研究Ⅱ (科学的懐疑論) (4) 成績評価の方法 授業の中でのディスカッション参加 (50%)と、レポート課題(50%)で評価する。<u>評価基準は得点率90%以上を秀、89-80%を優、79-70%を良、69-60%を可、59%以下を不可とする。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 科学的懐疑主義の考え方が十全に理解でき、現実の社会的課題に応用して新たな知見に結びつけることができれば『卓越している』と評価する。科学的懐疑主義の考え方が現実の社会的課題の問題解決に結びつくという観点から理解できれば『かなり上にある』、科学的懐疑主義の考え方の基礎事項を習得し、それが現実の社会的課題と結びつけて考えることができれば『<u>やや上にある』、大きな瑕疵なく授業で取りあげた知見を習得し、それがディスカッションやレポートに反映されていれば『その水準にある』と評価する</u></p> | <p>文化情報論研究Ⅱ (科学的懐疑論) (4) 成績評価の方法 授業の中でのディスカッション参加 (50%)と、レポート課題(50%)で評価する。</p> <p>(5) 成績評価の基準 科学的懐疑主義の考え方が十全に理解でき、現実の社会的課題に応用して新たな知見に結びつけることができれば『卓越している』と評価する。科学的懐疑主義の考え方が現実の社会的課題の問題解決に結びつくという観点から理解できれば『かなり上にある』、科学的懐疑主義の考え方の基礎事項を習得し、それが現実の社会的課題と結びつけて考えることができれば『<u>その水準にある』と評価する</u></p> |
| <p>文化情報論研究Ⅲ (多変量解析) (4) 成績評価の方法 各分析のレポート (70%) , 最終分析結果発表 (30%)</p> | <p>文化情報論研究Ⅲ (多変量解析) (4) 成績評価の方法 各分析のレポート (70%) , 最終分析結果発表 (30%)</p> |

| | |
|---|---|
| <p>※評価割合は若干の調整を行うことがある。</p> <p>●得点率による評価基準は次のとおりとする。</p> <p>90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。</p> | |
| <p>文化情報論研究Ⅳ（消費行動） （4）成績評価の方法 文献サーベイの発表（70%），修士論文発表（30%）</p> <p>※評価割合は若干の調整を行うことがある。</p> <p>●得点率による評価基準は次のとおりとする。</p> <p>90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。</p> | <p>文化情報論研究Ⅳ（消費行動） （4）成績評価の方法 文献サーベイの発表（70%），修士論文発表（30%）</p> |
| <p>文化情報論研究Ⅴ（社会的行動） （4）成績評価の方法 授業への取り組み方（報告，ディスカッション）（100%）を基に，人間の社会的行動に関する心理学の基礎理念や研究手法の理解度を評価する。</p> <p>得点率による評価基準は次のとおりとする。</p> <p>90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。</p> <p>【教科書】 各回の内容に合わせて独自に作成したプリントをそのつど配布する。</p> <p>【参考文献】 Joinson(2007)The Oxford Handbook of Internet Psychology, Oxford University Press Dill(2012)The Oxford Handbook of Media Psychology, Oxford University Press. 他</p> | <p>文化情報論研究Ⅴ（社会的行動） （4）成績評価の方法 授業への参加度（報告，ディスカッション）（100%）を基に，人間の社会的行動に関する心理学の基礎理念や研究手法の理解度を評価する。</p> <p>【教科書】 指定しない。</p> <p>【参考文献】 Joinson(2007)The Oxford Handbook of Internet Psychology, Oxford University Press Dill(2012)The Oxford Handbook of Media Psychology, Oxford University Press その他，適宜紹介する。</p> |
| <p>文化情報論研究Ⅵ（メディアコミュニケーション） （4）成績評価の方法 授業への取り組み方（報告，ディスカッション）（100%）を基に，メディアコミュニケーションに関する心理学的研究の基礎理念や研究手法の理解度を評価する。</p> | <p>文化情報論研究Ⅵ（メディアコミュニケーション） （4）成績評価の方法 授業への取り組み方（報告，ディスカッション）（100%）を基に，メディアコミュニケーションに関する心理学的研究の基礎理念や研究手法の理解度を評価する。</p> |

| | |
|--|---|
| <p>得点率による評価基準は次のとおりとする。</p> <p>90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。</p> <p>【教科書】 各回の内容に合わせて独自に作成したプリントをそのつど配布する。</p> <p>【参考文献】 Joinson(2007)The Oxford Handbook of Internet Psychology, Oxford University Press Dill(2012)The Oxford Handbook of Media Psychology, Oxford University Press. 他</p> | <p>【教科書】 指定しない。</p> <p>【参考文献】 Joinson(2007)The Oxford Handbook of Internet Psychology, Oxford University Press Dill(2012)The Oxford Handbook of Media Psychology, Oxford University Press その他, 適宜紹介する。</p> |
| <p>日本史研究 I (日本近世史研究) (4) 成績評価の方法 e-Alps の課題 (50%), 学術著書・論文の読解 (10%), プレゼンテーション (20%), ディベート (20%) の総合評価の総合評価 得点率による評価基準は次のとおりとする。90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</p> <p>(5) 成績評価の基準 【卓越している＝秀】 日本史学研究法に関する基礎的な知識をもとに、論理的に思考し、批判的に分析し、自律的に考える力を総合して、極めて高い水準にある。 【かなり上にある＝優】 日本史学研究法に関する基礎的な知識をもとに、論理的に思考し、批判的に分析し、自律的に考える力を総合して、非常に高い水準にある。 【やや上にある＝良】 日本史学研究法に関する基礎的な知識をもとに、論理的に思考し、批判的に分析し、自律的に考える力を総合して、高い水準にある。 【その水準にある＝可】 日本史学研究法に関する基礎的な知識をもとに、論理的に思考し、批判的に分析し、自律的に考える力を総合して、一定水準にある。</p> | <p>日本史研究 I (日本近世史研究) (4) 成績評価の方法 テキストの読解 (50%), 平常点 (50%) の総合評価</p> <p>(5) 成績評価の基準 授業中の討論を通じて理解度を測り (30%), 自分の主張は客観的であるか (20%), 他の人の理解を得られる論理的な発言か (20%) をみる。また、プレゼンテーションの内容がどれだけ客観的か (10%), 論理的であるか (10%), わかりやすく構成されているか (10%) を総合的に判断する。</p> |

| | |
|---|--|
| <p>【教科書】 各回の内容に合わせて独自に作成したプリントをそのつど配布する。</p> | <p>【教科書】 授業中に指示・配布する。</p> |
| <p>日本史研究Ⅱ（日本近世史料論） （4）成績評価の方法 e-Alps の課題（50%）、学術著書・論文の読解（10%）、プレゼンテーション（20%）、ディベート（20%）の総合評価の総合評価 得点率による評価基準は次のとおりとする。90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</p> <p>（5）成績評価の基準 【卓越している＝秀】日本史学研究法に関する基礎的な知識をもとに、論理的に思考し、批判的に分析し、自律的に考える力を総合して、極めて高い水準にある。 【かなり上にある＝優】日本史学研究法に関する基礎的な知識をもとに、論理的に思考し、批判的に分析し、自律的に考える力を総合して、非常に高い水準にある。 【やや上にある＝良】日本史学研究法に関する基礎的な知識をもとに、論理的に思考し、批判的に分析し、自律的に考える力を総合して、高い水準にある。 【その水準にある＝可】日本史学研究法に関する基礎的な知識をもとに、論理的に思考し、批判的に分析し、自律的に考える力を総合して、一定水準にある。</p> <p>【参考文献】 村上直編『日本近世史研究事典』（東京堂出版、1989年）</p> | <p>日本史研究Ⅱ（日本近世史料論） （4）成績評価の方法 テキストの読解（50%）、平常点（50%）の総合評価</p> <p>（5）成績評価の基準 授業中の討論を通じて理解度を測り（30%）、自分の主張は客観的であるか（20%）、他の人の理解を得られる論理的な発言か（20%）をみる。また、プレゼンテーションの内容がどれだけ客観的か（10%）、論理的であるか（10%）、わかりやすく構成されているか（10%）を総合的に判断する。</p> <p>【参考文献】 授業中に指示・配布する。</p> |
| <p>日本史研究Ⅲ（日本近代社会史） （4）成績評価の方法 ●以下を総合して判定する 授業中の討論を通じて理解度を測り（20%）、自分の主張をどれだけ客観的に行っているか（20%）、他の人の理解を得られる論理的な発言か（20%）をみる。また、プレゼンテーションの内容がどれだけ客観的、論理的であるか（20%）、理解し組み上がっているか（20%）を総合的に判断する。 ●得点率による評価基準は以下の通りとする。 90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</p> | <p>日本史研究Ⅲ（日本近代社会史） （4）成績評価の方法 授業中の討論を通じて理解度を測り（20%）、自分の主張をどれだけ客観的に行っているか（20%）、他の人の理解を得られる論理的な発言か（20%）をみる。また、プレゼンテーションの内容がどれだけ客観的、論理的であるか（20%）、理解し組み上がっているか（20%）を総合的に判断する。</p> |

| | |
|--|--|
| <p>(5) 成績評価の基準</p> <p><u>【卓越している】近代史に関する歴史学研究の内容およびその方法論、史料の内容や特徴を理解し、的確に要約しつつ自らの主張を破綻なく議論として組み立てられていること。加えて研究史や他の時代史・地域史研究のなかに自らの主張を的確かつ自覚的に位置づけていること。さらに自らの主張に際して、三人称を用い、感覚的な表現を排して、一般化が可能な論理を用いることができていること。内容をふまえてさらに踏み込んだ発言があれば「卓越している」と評価する。</u></p> <p><u>【かなり上にある】近代史に関する歴史学研究の内容およびその方法論、史料の内容を的確に理解し、的確に要約しつつ自らの主張を破綻なく議論として組み立てられていること。加えて他の時代史研究のなかに自らの主張を的確かつ自覚的に位置づけていること。さらに自らの主張に際して、三人称を用い、感覚的な表現を排して、一般化が可能な論理を用いることができていること。内容をふまえてさらに踏み込んだ発言があれば「かなり上にある」と評価する。</u></p> <p><u>【やや上にある】近代史に関する歴史学研究の内容およびその方法論、史料の内容や特徴を理解し、的確に要約しつつ自らの主張を破綻なく議論として組み立てられていること。内容をふまえてさらに踏み込んだ発言があれば「やや上にある」と評価する。</u></p> <p><u>【その水準にある】近代史に関する歴史学研究や史料の内容を理解し、的確に要約しつつ自らの主張を破綻なく議論として組み立てられていること。内容をふまえてさらに踏み込んだ発言があれば「その水準にある」と評価する。</u></p> | <p>(5) 成績評価の基準</p> <p><u>理解度：テキスト内容・自らのプレゼン内容などを概ね把握できていれば「その水準にある」とし、内容をふまえてさらに踏み込んだ発言があれば「卓越している」と評価する。</u></p> <p><u>客観性：自らの主張に際して、三人称を用い、感覚的な表現を排して、一般化が可能な論理を用いることができていること。内容をふまえてさらに踏み込んだ発言があれば「その水準にある」と評価する。</u></p> <p><u>論理性：自らの主張に際して、破綻なく議論を組み立てられていること。内容をふまえてさらに踏み込んだ発言があれば「その水準にある」と評価する。</u></p> |
| <p>日本史研究Ⅳ（日本現代社会史）</p> <p>(4) 成績評価の方法</p> <p>●以下を総合して判定する</p> <p>授業中の討論を通じて理解度を測り（20%）、自分の主張をどれだけ客観的に行っているか（20%）、他の人の理解を得られる論理的な発言か（20%）をみる。また、プレゼンテーションの内容がどれだけ客観的、論理的であるか（20%）、理解し組み上がっているか（20%）を総合的に判断する。</p> <p>●得点率による評価基準は以下の通りとする。</p> <p><u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> | <p>日本史研究Ⅳ（日本現代社会史）</p> <p>(4) 成績評価の方法</p> <p>授業中の討論を通じて理解度を測り（20%）、自分の主張をどれだけ客観的に行っているか（20%）、他の人の理解を得られる論理的な発言か（20%）をみる。また、プレゼンテーションの内容がどれだけ客観的、論理的であるか（20%）、理解し組み上がっているか（20%）を総合的に判断する。</p> |

| | |
|--|--|
| <p>(5) 成績評価の基準</p> <p><u>【卓越している】現代史に関する歴史学研究の内容およびその方法論、史料の内容や特徴を理解し、的確に要約しつつ自らの主張を破綻なく議論として組み立てられていること。加えて研究史や他の時代史・地域史研究のなかに自らの主張を的確かつ自覚的に位置づけていること。さらに自らの主張に際して、三人称を用い、感覚的な表現を排して、一般化が可能な論理を用いることができていること。内容をふまえてさらに踏み込んだ発言があれば「卓越している」と評価する。</u></p> <p><u>【かなり上にある】現代史に関する歴史学研究の内容およびその方法論、史料の内容を的確に理解し、的確に要約しつつ自らの主張を破綻なく議論として組み立てられていること。加えて他の時代史研究のなかに自らの主張を的確かつ自覚的に位置づけていること。さらに自らの主張に際して、三人称を用い、感覚的な表現を排して、一般化が可能な論理を用いることができていること。内容をふまえてさらに踏み込んだ発言があれば「かなり上にある」と評価する。</u></p> <p><u>【やや上にある】現代史に関する歴史学研究の内容およびその方法論、史料の内容や特徴を理解し、的確に要約しつつ自らの主張を破綻なく議論として組み立てられていること。内容をふまえてさらに踏み込んだ発言があれば「やや上にある」と評価する。</u></p> <p><u>【その水準にある】現代史に関する歴史学研究や史料の内容を理解し、的確に要約しつつ自らの主張を破綻なく議論として組み立てられていること。内容をふまえてさらに踏み込んだ発言があれば「その水準にある」と評価する。</u></p> | <p>(5) 成績評価の基準</p> <p><u>理解度：テキスト内容・自らのプレゼン内容などを概ね把握できていれば「その水準にある」とし、内容をふまえてさらに踏み込んだ発言があれば「卓越している」と評価する。</u></p> <p><u>客観性：自らの主張に際して、三人称を用い、感覚的な表現を排して、一般化が可能な論理を用いることができていること。内容をふまえてさらに踏み込んだ発言があれば「その水準にある」と評価する。</u></p> <p><u>論理性：自らの主張に際して、破綻なく議論を組み立てられていること。内容をふまえてさらに踏み込んだ発言があれば「その水準にある」と評価する。</u></p> |
| <p>東洋史研究 I (アジア近世・近代史)</p> <p>(4) 成績評価の方法</p> <p>●以下を総合して判定する。</p> <p>授業への取り組み方 (70%)、レポート (30%)</p> <p>※評価割合は若干の調整を行うことがある。</p> <p>●得点率による評価基準は次のとおりとする。</p> <p>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</p> <p>(5) 成績評価の基準</p> <p><u>【卓越している】アジア経済史に関する基礎的な知識をもとに、情報を収集し、論理的に思考し、一般化可能な形で収集した情</u></p> | <p>東洋史研究 I (アジア近世・近代史)</p> <p>(4) 成績評価の方法</p> <p>授業中の討論を通じて理解度を測り (20%)、自分の主張をどれだけ客観的に行っているか (20%)、他の人の理解を得られる論理的な発言か (20%) をみる。また、プレゼンテーションの内容がどれだけ客観的、論理的であるか (20%)、理解し組み上がっているか (20%) を総合的に判断する。</p> <p>(5) 成績評価の基準</p> <p><u>理解度：テキスト内容・自らのプレゼン内容などを概ね把握できていれば「その水準にある」とし、内容をふまえてさらに踏み込んだ</u></p> |

| | |
|---|---|
| <p>報を提示できる力を総合して、極めて高い水準にある。</p> <p><u>【かなり上にある】アジア経済史に関する基礎的な知識をもとに、情報を収集し、論理的に思考し、一般化可能な形で収集した情報を提示できる力を総合して、非常に高い水準にある。</u></p> <p><u>【やや上にある】アジア経済史に関する基礎的な知識をもとに、情報を収集し、論理的に思考し、一般化可能な形で収集した情報を提示できる力を総合して、高い水準にある。</u></p> <p><u>【その水準にある】アジア経済史に関する基礎的な知識をもとに、情報を収集し、論理的に思考し、一般化可能な形で収集した情報を提示できる力を総合して、一定水準にある。</u></p> <p>【参考文献】 <u>濱下武志『近代中国の国際的契機』東京大学出版会、1990年</u> <u>岡本隆司『近代中国と海関』名古屋大学出版会、2000年</u></p> | <p>発言があれば「卓越している」と評価する。 <u>客観性：自らの主張に際して、三人称を用い、感覚的な表現を排して、一般化が可能な論理を用いることができているならば「その水準にある」と評価する。</u></p> <p><u>論理性：自らの主張に際して、破綻なく議論を組み立てられていけば「その水準にある」と評価する。</u></p> <p>【参考文献】 <u>授業中に指示する。</u></p> |
| <p>東洋史研究Ⅱ（中国近世・近代史） (4) 成績評価の方法 ●以下を総合して判定する。 <u>授業への取り組み方（70%）、レポート（30%）</u> ※評価割合は若干の調整を行うことがある。 ●得点率による評価基準は次のとおりとする。 <u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>【卓越している】中国経済史に関する基礎的な知識をもとに、情報を収集し、論理的に思考し、一般化可能な形で収集した情報を提示できる力を総合して、極めて高い水準にある。</u> <u>【かなり上にある】中国経済史に関する基礎的な知識をもとに、情報を収集し、論理的に思考し、一般化可能な形で収集した情報を提示できる力を総合して、非常に高い水準にある。</u> <u>【やや上にある】中国経済史に関する基礎的な知識をもとに、情報を収集し、論理的</u></p> | <p>東洋史研究Ⅱ（中国近世・近代史） (4) 成績評価の方法 <u>授業中の討論を通じて理解度を測り（20%）、自分の主張をどれだけ客観的に行っているか（20%）、他の人の理解を得られる論理的な発言か（20%）をみる。また、プレゼンテーションの内容がどれだけ客観的、論理的であるか（20%）、理解し組み上がっているか（20%）を総合的に判断する。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>理解度：テキスト内容・自らのプレゼン内容などを概ね把握できていけば「その水準にある」とし、内容をふまえてさらに踏み込んだ発言があれば「卓越している」と評価する。</u> <u>客観性：自らの主張に際して、三人称を用い、感覚的な表現を排して、一般化が可能な論理を用いることができているならば「その水準にある」と評価する。</u> <u>論理性：自らの主張に際して、破綻なく議論を組み立てられていけば「その水準にある」と評価する。</u></p> |

| | |
|--|--|
| <p>に思考し、一般化可能な形で収集した情報を提示できる力を総合して、高い水準にある。</p> <p><u>【その水準にある】中国経済史に関する基礎的な知識をもとに、情報を収集し、論理的に思考し、一般化可能な形で収集した情報を提示できる力を総合して、一定水準にある。</u></p> <p>【参考文献】 <u>岩井茂樹『中国近世財政史の研究』（京都大学学術出版会、2005年）</u> <u>岸本美緒『清代中国の物価と経済変動』（汲古書院、1996年）</u> <u>豊岡康史・大橋厚子編『銀の流通と中国・東南アジア』（山川出版社、2019年）</u></p> | <p>【参考文献】 <u>授業中に指示する。</u></p> |
| <p>西洋史研究 I（経済） (4) 成績評価の方法 ●以下を総合して判定する。 <u>授業への取り組み方（70%）、レポート（30%）</u> <u>※評価割合は若干の調整を行うことがある。</u> ●得点率による評価基準は次のとおりとする。 <u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>【卓越している】歴史学研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、極めて高い水準にある。</u> <u>【かなり上にある】歴史学研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、非常に高い水準にある。</u> <u>【やや上にある】歴史学研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、高い水準にある。</u> <u>【その水準にある】歴史学研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、</u></p> | <p>西洋史研究 I（経済） (4) 成績評価の方法 <u>授業中の討論を通じて理解度を測り（20%）、自分の主張をどれだけ客観的に行っているか（20%）、他の人の理解を得られる論理的な発言か（20%）をみる。また、プレゼンテーションの内容がどれだけ客観的、論理的であるか（20%）、理解し組み上がっているか（20%）を総合的に判断する。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>理解度：テキスト内容・自らのプレゼン内容などを概ね把握できていれば「その水準にある」とし、内容をふまえてさらに踏み込んだ発言があれば「卓越している」と評価する。</u> <u>客観性：自らの主張に際して、三人称を用い、感覚的な表現を排して、一般化が可能な論理を用いることができているならば「その水準にある」と評価する。</u> <u>論理性：自らの主張に際して、破綻なく議論を組み立てられていれば「その水準にある」と評価する。</u></p> |

| | |
|--|--|
| <p>自律的に考える力を総合して、一定水準にある。</p> <p>【参考文献】 秀村欣二『西洋史概説 第4版』東京大学出版会、1988年。</p> | <p>【参考文献】 授業時に指示する。</p> |
| <p>西洋史研究 II (社会) (4) 成績評価の方法 ●以下を総合して判定する。 授業への取り組み方 (70%)、レポート (30%) ※評価割合は若干の調整を行うことがある。 ●得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</p> <p>(5) 成績評価の基準 【卓越している】歴史学研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、極めて高い水準にある。 【かなり上にある】歴史学研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、非常に高い水準にある。 【やや上にある】歴史学研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、高い水準にある。 【その水準にある】歴史学研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、一定水準にある。</p> <p>【参考文献】 秀村欣二『西洋史概説 第4版』東京大学出版会、1988年。</p> | <p>西洋史研究 II (社会) (4) 成績評価の方法 授業中の討論を通じて理解度を測り (20%)、自分の主張をどれだけ客観的に行っているか (20%)、他の人の理解を得られる論理的な発言か (20%) をみる。また、プレゼンテーションの内容がどれだけ客観的、論理的であるか (20%)、理解し組み上がっているか (20%) を総合的に判断する。</p> <p>(5) 成績評価の基準 理解度：テキスト内容・自らのプレゼン内容などを概ね把握できていれば「その水準にある」とし、内容をふまえてさらに踏み込んだ発言があれば「卓越している」と評価する。 客観性：自らの主張に際して、三人称を用い、感覚的な表現を排して、一般化が可能な論理を用いることができているならば「その水準にある」と評価する。 論理性：自らの主張に際して、破綻なく議論を組み立てられていけば「その水準にある」と評価する。</p> <p>【参考文献】 授業時に指示する。</p> |
| <p>日本文学研究 I (古代-中世期文学) (5) 成績評価の基準 90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可と評価する。59点以下の場合は単位認定しない。</p> | <p>日本文学研究 I (古代-中世期文学) (5) 成績評価の基準 90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可と評価する。59点以下の場合は単位認定しない。</p> |

| | |
|--|--|
| <p><u>【秀：卓越している】文献学的・文学的研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な学的処理を行い、論理的思考をし、自立的に考える力を総合して、極めて高い水準にある。</u></p> <p><u>【優：かなり上にある】文献学的・文学的研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な学的処理を行い、論理的思考をし、自立的に考える力を総合して、非常に高い水準にある。</u></p> <p><u>【良：やや上にある】文献学的・文学的研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な学的処理を行い、論理的思考をし、自立的に考える力を総合して、高い水準にある。</u></p> <p><u>【良：やや上にある】文献学的・文学的研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な学的処理を行い、論理的思考をし、自立的に考える力を総合して、一定水準にある。</u></p> <p>【教科書】 各回の内容に合わせて独自に作成したプリントをそのつど配布する。</p> <p>【参考文献】 中世文学会『中世文学研究は日本文化を解明できるか』笠間書院、他。</p> | <p>【教科書】 テキスト（論文等）は授業中に配布する。</p> <p>【参考文献】 中世文学会『中世文学研究は日本文化を解明できるか』笠間書院、他。<u>随時授業内にて紹介する。</u></p> |
| <p>日本文学研究Ⅱ（散文） （5）成績評価の基準 90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可と評価する。59点以下の場合は単位認定しない。</p> <p><u>【秀：卓越している】文献学的・文学的研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な学的処理を行い、論理的思考をし、自立的に考える力を総合して、極めて高い水準にある。</u></p> <p><u>【優：かなり上にある】文献学的・文学的研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な学的処理を行い、論理的思考をし、自立的に考える力を総合して、非常に高い水準にある。</u></p> <p><u>【良：やや上にある】文献学的・文学的研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な学的処理を行い、論理的思考をし、自立</u></p> | <p>日本文学研究Ⅱ（散文） （5）成績評価の基準 90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可と評価する。59点以下の場合は単位認定しない。</p> |

| | |
|---|---|
| <p>的に考える力を総合して、高い水準にある。</p> <p><u>【良：やや上にある】</u> 文献学的・文学的研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な学的処理を行い、論理的思考をし、自立的に考える力を総合して、一定水準にある。</p> <p>【教科書】 各回の内容に合わせて独自に作成したプリントをそのつど配布する</p> <p>【参考文献】 佐々木孝浩『日本古典書誌学論』（笠間書院）、紅野謙介『書物の近代』（ちくま学芸文庫）、他。</p> | <p>【教科書】 テキスト（論文・新聞記事等）は授業中に配布する。</p> <p>【参考文献】 佐々木孝浩『日本古典書誌学論』（笠間書院）、紅野謙介『書物の近代』（ちくま学芸文庫）、他。<u>随時授業内にて紹介する。</u></p> |
| <p>日本文学研究Ⅲ（近世－明治期文学） （4）成績評価の方法 幕末から明治にかけての歴史的・社会的背景を踏まえ作品理解を行えているかを判断するため、講義形式の回にはコメントシート、ディスカッションの回にはミニレポートの提出を課す（80点）。これと定期試験（20点）の合計100点満点として成績評価する。 <u>合計 100 点満点のうち、90 点以上を秀、80 点以上を優、70 点以上を良、60 点以上を可と評価する。59 点以下の場合は単位認定しない。</u></p> <p>（5）成績評価の基準 <u>【卓越している（秀）】</u> 日本文学研究の理論的知識をもとに作品を理解し、それに基づく自己の見解を明確に表現する力が、極めて高い水準にある。 <u>【かなり上にある（優）】</u> 日本文学研究の理論的知識をもとに作品を理解し、それに基づく自己の見解を明確に表現する力が、非常に高い水準にある。 <u>【やや上にある（良）】</u> 日本文学研究の理論的知識をもとに作品を理解し、それに基づく自己の見解を明確に表現する力が、高い水準にある。 <u>【その水準にある（可）】</u> 日本文学研究の理論的知識をもとに作品を理解し、それに基づく自己の見解を明確に表現する力が、一定水準にある。</p> | <p>日本文学研究Ⅲ（近世－明治期文学） （4）成績評価の方法 幕末から明治にかけての歴史的・社会的背景を踏まえ作品理解を行えているかを判断するため、講義形式の回にはコメントシート、ディスカッションの回にはミニレポートの提出を課す（80点）。これと定期試験（20点）の合計 100 点満点として成績評価する。</p> <p>（5）成績評価の基準 <u>合計 100 点満点のうち、90 点以上を秀、80 点以上を優、70 点以上を良、60 点以上を可と評価する。59 点以下の場合は単位認定しない。</u></p> |

| | |
|---|---|
| <p>【教科書】 各回の内容に合わせて独自に作成したプリントをそのつど配布する。</p> | <p>【教科書】 毎回の授業において、担当教員による資料を配布する。</p> |
| <p>日本文学研究Ⅳ（韻文） （4）成績評価の方法 和歌・連歌を基盤とした俳文芸の展開と特色についての理解や問題解決能力の程度を判断するため、講義形式の回にはコメントシート、ディスカッションの回にはミニレポートの提出を課す（80点）。これと定期試験（20点）の合計100点満点によって成績評価する。 <u>合計100点満点のうち、90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可と評価する。59点以下の場合は単位認定しない。</u></p> <p>（5）成績評価の基準 <u>【卓越している（秀）】日本文学研究の理論的な知識をもとに適切に作品を理解し、導き出した自己の見解を明確に表現する力が極めて高い水準にある。</u> <u>【かなり上にある（優）】日本文学研究の理論的な知識をもとに適切に作品を理解し、導き出した自己の見解を明確に表現する力が非常に高い水準にある。</u> <u>【やや上にある（良）】日本文学研究の理論的な知識をもとに適切に作品を理解し、導き出した自己の見解を明確に表現する力が高い水準にある。</u> <u>【その水準にある（可）】日本文学研究の理論的な知識をもとに適切に作品を理解し、導き出した自己の見解を明確に表現する力が一定水準にある。</u></p> | <p>日本文学研究Ⅳ（韻文） （4）成績評価の方法 和歌・連歌を基盤とした俳文芸の展開と特色についての理解や問題解決能力の程度を判断するため、講義形式の回にはコメントシート、ディスカッションの回にはミニレポートの提出を課す（80点）。これと定期試験（20点）の合計100点満点によって成績評価する。</p> <p>（5）成績評価の基準 <u>合計100点満点のうち、90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可と評価する。59点以下の場合は単位認定しない。</u></p> |
| <p>【教科書】 各回の内容に合わせて独自に作成したプリントをそのつど配布する。</p> | <p>【教科書】 毎回の授業において、担当教員による資料を配布する。</p> |
| <p>日本語学研究Ⅰ（歴史言語学） （5）成績評価の基準 90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可と評価する。 59点以下の場合は単位認定しない。 <u>【秀：卓越している】文献学的・言語学的研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な学理的処理を行い、論理的思考し、自律的に考える力を総合して、極めて高い水準にある。</u> <u>【優：かなり上にある】文献学的・言語学的</u></p> | <p>日本語学研究Ⅰ（歴史言語学） （5）成績評価の基準 90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可と評価する。 59点以下の場合は単位認定しない。</p> |

| | |
|--|---|
| <p>研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な学的処理を行い、論理的思考し、自律的に考える力を総合して、非常に高い水準にある。</p> <p>【良：やや上にある】文献学的・言語学的研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な学的処理を行い、論理的思考し、自律的に考える力を総合して、高い水準にある。</p> <p>【可：その水準にある】文献学的・言語学的研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な学的処理を行い、論理的思考し、自律的に考える力を総合して、一定水準にある。</p> <p>【教科書】 各回の内容に合わせて独自に作成したプリントをそのつど配布する。</p> <p>【参考文献】 山田健三『日本語史』（私家版テキスト）他</p> | <p>【教科書】 E. コセリウ著（田中克彦訳）『言語変化という問題：共時態、通時態、歴史』岩波文庫</p> <p>【参考文献】 山田健三『日本語史』（私家版テキスト）、その他授業内にて紹介する。</p> |
| <p>日本語学研究Ⅱ（言語の社会性） （5）成績評価の基準 90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可と評価する。 59点以下の場合は単位認定しない。</p> <p>【秀：卓越している】社会言語学的研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な学的処理を行い、論理的思考し、自律的に考える力を総合して、極めて高い水準にある。</p> <p>【優：かなり上にある】社会言語学的研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な学的処理を行い、論理的思考し、自律的に考える力を総合して、非常に高い水準にある。</p> <p>【良：やや上にある】社会言語学的研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な学的処理を行い、論理的思考し、自律的に考える力を総合して、高い水準にある。</p> <p>【可：その水準にある】社会言語学的研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な学的処理を行い、論理的思考し、自律的に考える力を総合して、一定水準にある。</p> <p>【教科書】 各回の内容に合わせて独自に作成したプリントをそのつど配布する。</p> | <p>日本語学研究Ⅱ（言語の社会性） （5）成績評価の基準 90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可と評価する。 59点以下の場合は単位認定しない。</p> <p>【教科書】 水村早苗『日本語が亡びるとき：英語の世紀の中で』（増補版、ちくま文庫）。その他のテキスト（論文・新聞記事等）は授業中に配布する。</p> |

| | |
|---|---|
| <p>【参考文献】 エマニュエル・トッド『移民の運命：同化か隔離か』 <u>他</u></p> | <p>【参考文献】 エマニュエル・トッド『移民の運命：同化か隔離か』 <u>その他、授業内にて紹介する。</u></p> |
| <p>日本語教育学研究Ⅰ（第二言語指導の理論と技術） （4）成績評価の方法 以下の2点とその割合によって評価する。 授業への参加度（60％）・期末のレポート（40％） <u>得点率による評価基準は次のとおりとする。</u> <u>90％以上「秀」、89-80％「優」、79-70％「良」、69-60％「可」、59％以下「不可」</u></p> | <p>日本語教育学研究Ⅰ（第二言語指導の理論と技術） （4）成績評価の方法 以下の2点とその割合によって評価する。 授業への参加度（60％）・期末のレポート（40％）</p> |
| <p>【教科書】 『アプローチ&メソッド 世界の言語 教授・指導法』（ジャック・C・リチャーズ&シオドア・S・ロジャーズ、東京書籍、2007年） <u>他</u></p> | <p>【教科書】 『アプローチ&メソッド 世界の言語 教授・指導法』（ジャック・C・リチャーズ&シオドア・S・ロジャーズ、東京書籍、2007年）：<u>必要に応じてテキストを追加し、授業内で補足資料を配布する。</u></p> |
| <p>【参考文献】 『フォーカス・オン・フォームとCLILの英語授業』（和泉伸一、アルク、2016年）、<u>他</u></p> | <p>【参考文献】 <u>授業の中で適宜、紹介する。</u></p> |
| <p>日本語教育学研究Ⅱ（第二言語学習者の特性） （4）成績評価の方法 以下の2点とその割合によって評価する。 授業への参加度（60％）・期末のレポート（40％） <u>得点率による評価基準は次のとおりとする。</u> <u>90％以上「秀」、89-80％「優」、79-70％「良」、69-60％「可」、59％以下「不可」</u></p> | <p>日本語教育学研究Ⅱ（第二言語学習者の特性） （4）成績評価の方法 以下の2点とその割合によって評価する。 授業への参加度（60％）・期末のレポート（40％）</p> |
| <p>【教科書】 『外国語習得に成功する学習プロセス—留学することなく身につけるために』（吉田ひと美、大阪大学出版会、2017年） <u>他</u></p> | <p>【教科書】 『外国語習得に成功する学習プロセス—留学することなく身につけるために』（吉田ひと美、大阪大学出版会、2017年）：<u>必要に応じてテキストを追加し、授業内で補足資料を配布する。</u></p> |
| <p>【参考文献】 『成長する英語学習者—学習者要因と自律学習』（小嶋英夫ほか編、大修館書店、2010年）、<u>他</u></p> | <p>【参考文献】 <u>授業の中で適宜、紹介する。</u></p> |
| <p>中国文学研究Ⅰ（古典詩） （4）成績評価の方法</p> | <p>中国文学研究Ⅰ（古典詩） （4）成績評価の方法</p> |

| | |
|---|--|
| <p>受講生にはテキストに関する資料作成と討論への積極的な発言を求めて理解度を測り、提出資料（50%）と授業時の取り組み（50%）とを総合して判定する。得点率による評価基準は；</p> <p>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</p> <p>（5）成績評価の基準 上記の観点に即して、理解度が卓越していれば秀。 理解度がかなり上にあれば優。 理解度がやや上にあれば良。 理解度が一定の水準にあれば可。 最低限の理解度が認められなければ不可。</p> <p>【参考文献】 川合康三『白楽天』（岩波書店、2010年）他</p> | <p>平常点。受講生にはテキストに関する資料作成と授業中の積極的な発言を求めて理解度を測り、両者の結果を一对一の比で集計する。</p> <p>（5）成績評価の基準 作成資料や発言内容に総じて、卓越した理解度が認められれば秀。 優れた理解度が認められれば優。 一定の理解度が認められれば良。 最低限の理解度が認められれば可。 最低限の理解度が認められなければ不可。</p> <p>【参考文献】 授業中に紹介する。</p> |
| <p>中国文学研究Ⅱ（古典文）</p> <p>（4）成績評価の方法 受講生にはテキストに関する資料作成と討論への積極的な発言を求めて理解度を測り、提出資料（50%）と授業時の取り組み（50%）とを総合して判定する。得点率による評価基準は；</p> <p>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</p> <p>（5）成績評価の基準 上記の観点に即して、理解度が卓越していれば秀。 理解度がかなり上にあれば優。 理解度がやや上にあれば良。 理解度が一定の水準にあれば可。 最低限の理解度が認められなければ不可。</p> <p>【参考文献】 川合康三『白楽天』（岩波書店、2010年）他</p> | <p>中国文学研究Ⅱ（古典文）</p> <p>（4）成績評価の方法 平常点。受講生にはテキストに関する資料作成と授業中の積極的な発言を求めて理解度を測り、両者の結果を一对一の比で集計する。</p> <p>（5）成績評価の基準 作成資料や発言内容に総じて、卓越した理解度が認められれば秀。 優れた理解度が認められれば優。 一定の理解度が認められれば良。 最低限の理解度が認められれば可。 最低限の理解度が認められなければ不可。</p> <p>【参考文献】 授業中に紹介する。</p> |
| <p>中国語学研究Ⅰ（現代中国語文法）</p> <p>（4）成績評価の方法 学生の準備資料・授業での分析検討内容（5割）と、期末レポート（5割）で評価します。得点率による評価基準は次のとおりとする。</p> <p>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</p> <p>【教科書】 各回の内容に合わせて独自に作成したプリ</p> | <p>中国語学研究Ⅰ（現代中国語文法）</p> <p>（4）成績評価の方法 学生の準備資料・授業での分析検討内容（5割）と、期末レポート（5割）で評価します。</p> <p>【教科書】 必要な場合は教員から適宜紹介をします。</p> |

| | |
|---|--|
| <p>ントをそのつど配布する。</p> | |
| <p>中国語学研究Ⅱ（現代中国語意味論） (4) 成績評価の方法 学生の準備資料・授業での分析検討内容（5割）と、期末レポート（5割）で評価します。 <u>得点率による評価基準は次のとおりとする。</u> <u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>【教科書】 各回の内容に合わせて独自に作成したプリントをそのつど配布する。</p> | <p>中国語学研究Ⅱ（現代中国語意味論） (4) 成績評価の方法 学生の準備資料・授業での分析検討内容（5割）と、期末レポート（5割）で評価します。</p> <p>【教科書】 必要な場合は教員から適宜紹介をします。</p> |
| <p>比較文学研究Ⅰ（西洋古典韻文講読） (4) 成績評価の方法 授業への積極的な参加度（50%）とレポート（50%）によって総合的に評価する。 <u>得点率による評価基準は次のとおりとする。</u> <u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> | <p>比較文学研究Ⅰ（西洋古典韻文講読） (4) 成績評価の方法 授業への積極的な参加度（50%）とレポート（50%）によって総合的に評価する。</p> |
| <p>比較文学研究Ⅱ（西洋古典散文講読） (4) 成績評価の方法 ●以下を総合して判定する。 <u>授業への取り組み方(50%)、レポート(50%)</u> <u>※評価割合は若干の調整を行うことがある。</u> ●得点率による評価基準は次のとおりとする。 <u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 【卓越している】 (1)問題の設定が適切に行われており、(2)その問題に関する研究史と背景が説明できており、(3)その問題解決に向けてどのような課題があるのかを十分に指摘できており、(4)それらの課題に関する既存学説が提示する解決法を適切に批判し、その問題点を明確に把握できており、(5)その上で、自分自身の見解の発見と提示ができており、かつ、(1)～(5)の諸点に加え、授業で学んだ複数の分野に関わる問題解決の事例が適切に参照されていて、極めて高い水準にある。 【かなり上にある】 上記(1)から(5)までの5項目を満たしていいいて、非常に高い水準にある。 【やや上にある】 上記(1)から(4)までの4項目を満たしていいいて、高い水準にある。</p> | <p>比較文学研究Ⅱ（西洋古典散文講読） (4) 成績評価の方法 <u>授業への積極的な参加度（50%）とレポート（50%）によって総合的に評価する。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>授業への積極的な参加度（50%）とレポート（50%）によって総合的に評価する。</u></p> |

| | |
|---|--|
| <p><u>【その水準にある】上記(1)から(3)までの3項目を満たしていいいて、一定水準にある。</u></p> | |
| <p>比較文学研究Ⅲ（近代詩） (4) 成績評価の方法 口頭発表（質疑応答を含む）とレポートによって評価を行う。両者の比重は3対7とする。 <u>得点率による評価基準は次のとおりとする。</u> <u>90%以上 秀、89 - 80% 優、79 - 70%</u> <u>良、69 - 60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>【参考文献】 Pierre Brunel, Yves Chevrel, <i>Précis de littérature comparée</i>, P.U.F., 1989. 福井芳男他編『フランス文学講座3詩』大修館書店 1979年 日本比較文学会機関誌『比較文学』（1958年～）</p> | <p>比較文学研究Ⅲ（近代詩） (4) 成績評価の方法 口頭発表（質疑応答を含む）とレポートによって評価を行う。両者の比重は3対7とする。</p> <p>【参考文献】 Pierre Brunel, Yves Chevrel, <i>Précis de littérature comparée</i>, P.U.F., 1989. 福井芳男他編『フランス文学講座3詩』大修館書店 1979年 日本比較文学会機関誌『比較文学』（1958年～） <u>その他、授業中に指示する。</u></p> |
| <p>比較文学研究Ⅳ（近代小説） (4) 成績評価の方法 口頭発表（質疑応答を含む）とレポートによって評価を行う。両者の比重は3対7とする。 <u>得点率による評価基準は次のとおりとする。</u> <u>90%以上 秀、89 - 80% 優、79 - 70%</u> <u>良、69 - 60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>【参考書】 Pierre Brunel, Yves Chevrel, <i>Précis de littérature comparée</i>, P.U.F., 1989. 福井芳男他編『フランス文学講座1小説1』『フランス文学講座2小説2』大修館書店 1976年 1978年 日本比較文学会機関誌『比較文学』（1958年～） <u>他</u></p> | <p>比較文学研究Ⅳ（近代小説） (4) 成績評価の方法 口頭発表（質疑応答を含む）とレポートによって評価を行う。両者の比重は3対7とする。</p> <p>【参考書】 Pierre Brunel, Yves Chevrel, <i>Précis de littérature comparée</i>, P.U.F., 1989. 福井芳男他編『フランス文学講座1小説1』『フランス文学講座2小説2』大修館書店 1976年 1978年 日本比較文学会機関誌『比較文学』（1958年～） <u>その他、授業中に指示する。</u></p> |
| <p>フランス語学・フランス文学研究Ⅰ（文学と思想） (4) 成績評価の方法 <u>●以下を総合して判定する。</u> <u>授業への取り組み方（70%）、レポート（30%）</u> <u>※評価割合は若干の調整を行うことがある。</u> <u>●得点率による評価基準は次のとおりとする。</u> <u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70%</u> <u>良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> | <p>フランス語学・フランス文学研究Ⅰ（文学と思想） (4) 成績評価の方法 <u>「授業のねらい」で掲げた内容を問うレポートを期末に課し、それによって評価を行う。</u></p> |

| | |
|---|---|
| <p>(5) 成績評価の基準 (1)問題の設定が適切であり、(2)その問題の背景を説明できており、(3)その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(4)それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており、(5)その上で自分の見解を提示できており、 (1)～(5)に加えて、授業で学んだ文献が適切に参照されていれば「卓越している」。(1)から(5)の5項目を満たしていれば「かなり上にある」。4項目までできていれば「やや上にある」。3項目までできていれば「その水準にある」と評価される。</p> <p>【教科書】 Antoine Compagnon, <i>Les Antimodernes. De Joseph de Maistre à Roland Barthes</i>, Gallimard, 2005. アントワーヌ・コンパニオン『アンチモダン反近代の精神史』, 松澤和宏監訳, 鎌田隆行・宮川朗子・永田道弘・宮代康丈訳, 名古屋大学出版会, 2012. 他</p> <p>【参考書】 アントワーヌ・コンパニオン『文学をめぐる理論と常識』, 中地義和・吉川一義訳, 岩波書店, 2007. 他</p> | <p>(5) 成績評価の基準 (1)問題の設定が適切であり、(2)その問題の背景を説明できており、(3)その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(4)それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており、(5)その上で自分の見解を提示できており、 (1)～(5)に加えて、授業で学んだ文献が適切に参照されていれば「卓越している」。(1)から(5)の5項目を満たしていれば「かなり上にある」。4項目までできていれば「やや上にある」。3項目までできていれば「合格水準にある」と評価される。</p> <p>【教科書】 Antoine Compagnon, <i>Les Antimodernes. De Joseph de Maistre à Roland Barthes</i>, Gallimard, 2005. アントワーヌ・コンパニオン『アンチモダン反近代の精神史』, 松澤和宏監訳, 鎌田隆行・宮川朗子・永田道弘・宮代康丈訳, 名古屋大学出版会, 2012. その他、必要な紀要論文等をプリントにより配布する。</p> <p>【参考書】 アントワーヌ・コンパニオン『文学をめぐる理論と常識』, 中地義和・吉川一義訳, 岩波書店, 2007. その他、授業中に随時紹介する。</p> |
| <p>フランス語学・フランス文学研究Ⅱ（文学とメディア） (4) 成績評価の方法 ●以下を総合して判定する。 <u>授業への取り組み方 (70%)、レポート (30%)</u> <u>※評価割合は若干の調整を行うことがある。</u> ●得点率による評価基準は次のとおりとする。 <u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 (1)問題の設定が適切であり、(2)その問題の背景を説明できており、(3)その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(4)それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており、(5)その上で自分の見解を提示できており、</p> | <p>フランス語学・フランス文学研究Ⅱ（文学とメディア） (4) 成績評価の方法 「授業のねらい」で掲げた内容を問うレポートを期末に課し、それによって評価を行う。</p> <p>(5) 成績評価の基準 (1)問題の設定が適切であり、(2)その問題の背景を説明できており、(3)その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(4)それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており、(5)その上で自分の見解を提示できており、</p> |

| | |
|---|--|
| <p>(1) ~ (5)に加えて、授業で学んだ文献が適切に参照されていれば「卓越している」。(1)から(5)の5項目を満たしていれば「かなり上にある」。4項目までできていれば「やや上にある」。3項目までできていれば「<u>その水準にある</u>」と評価される。</p> <p>【教科書】 Eugène Sue, <i>Les Mystères de Paris</i>. Edition publiée sous la direction de Judith Lyon-Caen, Gallimard, coll. « Quarto », 2009. <u>他</u></p> <p>【参考書】 小倉孝誠『「パリの秘密」の社会史』, 新曜社, 2004. <u>他</u></p> | <p>(1) ~ (5)に加えて、授業で学んだ文献が適切に参照されていれば「卓越している」。(1)から(5)の5項目を満たしていれば「かなり上にある」。4項目までできていれば「やや上にある」。3項目までできていれば「<u>合格水準にある</u>」と評価される。</p> <p>【教科書】 Eugène Sue, <i>Les Mystères de Paris</i>. Edition publiée sous la direction de Judith Lyon-Caen, Gallimard, coll. « Quarto », 2009. <u>その他必要な紀要論文をプリントにより配布する。</u></p> <p>【参考書】 小倉孝誠『「パリの秘密」の社会史』, 新曜社, 2004. <u>その他、授業中に随時紹介する。</u></p> |
| <p>フランス語学・フランス文学研究Ⅲ (詩法)</p> <p>(4) 成績評価の方法 ●以下を総合して判定する。 <u>授業への取り組み方, 予習・復習の状況 (50%), レポート (50%)</u> <u>*評価割合は若干調整を行う場合もある。</u> ●得点率による評価基準は次のとおりとする。 <u>90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>【卓越している】問題設定が的確で, 背景説明が適切になされ, 課題に対する既存の学説が把握されており, それらを踏まえた自説の提示に説得力があり, それらの力が総合して, 極めて高い水準にある。秀</u> <u>【かなり上にある】上記の力が, 非常に高い水準にある。優</u> <u>【やや上にある】上記の力が, 高い水準にある。良</u> <u>【その水準にある】上記の力が, 一定の水準にある。可</u></p> <p>【教科書】 各回の内容に合わせて独自に作成したプリントをそのつど配布する。</p> | <p>フランス語学・フランス文学研究Ⅲ (詩法)</p> <p>(4) 成績評価の方法 <u>予習・復習の状況を見るとともに (50%), 「授業のねらい」で示した内容を問うレポートを期末に課し (50%), それらを総合的に判断して評価する。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>①問題の設定が適切かどうか, ②問題の背景説明の有無, ③問題に関する課題の指摘の確性, ④それらの課題に対する既存の学説の把握, ⑤それらを踏まえた自説の提示の有無, ⑥授業中紹介された文献の参照の有無, 以上すべて満たしていれば「卓越している」, 5項目を満たしていれば「かなり上にある」, 4項目満たしていれば「やや上にある」, 3項目満たしていれば「合格水準にある」と評価される。</u></p> <p>【教科書】 <u>随時プリントを配布して進めていく。</u></p> |

| | |
|---|--|
| <p>【参考書】 杉山正樹『やさしいフランス詩法』白水社, 1981 他</p> <p>フランス語学・フランス文学研究Ⅳ (19世紀フランス詩研究) (4) 成績評価の方法 ●以下を総合して判定する。 授業への取り組み方, 予習・復習の状況 (50%), レポート (50%) *評価割合は若干調整を行う場合もある。 ●得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可</p> <p>(5) 成績評価の基準 【卓越している】問題設定が的確で, 背景説明が適切になされ, 課題に対する既存の学説が把握されており, それらを踏まえた自説の提示に説得力があり, それらの力が総合して, 極めて高い水準にある。秀 【かなり上にある】上記の力が, 非常に高い水準にある。優 【やや上にある】上記の力が, 高い水準にある。良 【その水準にある】上記の力が, 一定の水準にある。可</p> <p>【教科書】 各回の内容に合わせて独自に作成したプリントをそのつど配布する。</p> <p>【参考書】 ドミニック・ランセ『十九世紀フランス詩』“文庫クセジュ”, 白水社, 1979 他</p> | <p>【参考書】 その他は, 授業中随時紹介する。</p> <p>フランス語学・フランス文学研究Ⅳ (19世紀フランス詩研究) (4) 成績評価の方法 予習・復習の状況を見るとともに (50%), 「授業のねらい」で示した内容を問うレポートを期末に課し (50%), それらを総合的に判断して評価する。</p> <p>(5) 成績評価の基準 ①問題の設定が適切かどうか, ②問題の背景説明の有無, ③問題に関する課題の指摘の確性, ④それらの課題に対する既存の学説の把握, ⑤それらを踏まえた自説の提示の有無, ⑥授業中紹介された文献の参照の有無, 以上すべて満たしていれば「卓越している」, 5項目を満たしていれば「かなり上にある」, 4項目満たしていれば「やや上にある」, 3項目満たしていれば「合格水準にある」と評価される。</p> <p>【教科書】 随時プリントを配布して進めていく。</p> <p>【参考書】 その他は, 授業中随時紹介する。</p> |
| <p>ドイツ語学・ドイツ文学研究Ⅰ (ドイツ語造語論) (4) 成績評価の方法 ●以下を総合して判定する。 授業への取り組み方 (60%), レポート (40%) *評価割合は若干の調整を行うことがある。 ●得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。</p> <p>(5) 成績評価の基準 【卓越している】授業で扱われる項目を正確</p> | <p>ドイツ語学・ドイツ文学研究Ⅰ (ドイツ語造語論) (4) 成績評価の方法 発表により, 講義内容の理解の正確さを測り, そこでの議論への貢献度を評価する (40点満点)。期末レポートでは, 授業で扱われた方法論をいかに実際の分析に応用できているかを評価する (60点満点)。</p> <p>(5) 成績評価の基準</p> |

| | |
|---|---|
| <p>に理解し、それを自らの言葉で解説をおこなう理解力と表現力、それを基に問題を設定し、適切な方法論を用いて結論に導く問題分析・解決能力を総合して、極めて高い水準にある。</p> <p>【かなり上にある】 授業で扱われる項目を正確に理解し、それを自らの言葉で解説をおこなう理解力と表現力、それを基に問題を設定し、適切な方法論を用いて結論に導く問題分析・解決能力を総合して、非常に高い水準にある。</p> <p>【やや上にある】 授業で扱われる項目を正確に理解し、それを自らの言葉で解説をおこなう理解力と表現力、それを基に問題を設定し、適切な方法論を用いて結論に導く問題分析・解決能力を総合して、高い水準にある。</p> <p>【その水準にある】 授業で扱われる項目を正確に理解し、それを自らの言葉で解説をおこなう理解力と表現力、それを基に問題を設定し、適切な方法論を用いて結論に導く問題分析・解決能力を総合して、一定水準にある。</p> <p>【参考書】 <u>Linke, Angelika u. a. (2004): „Studienbuch Linguistik“, 5., Aufl. Tübingen.</u></p> | <p>授業内で扱われる項目が正確に理解できれば「合格の水準にある」、さらにそれを他者にわかりやすく自らの言葉で解説ができれば「やや上にある」。議論に積極的に貢献し、期末レポートにおいて、適切な問題の設定ができれば「かなり上にある」、問題の背景を説明し、適切な方法論を用いて、解決できていれば「卓越している」。</p> <p>【参考書】 <u>教場にて適時、指示する。</u></p> |
| <p>ドイツ語学・ドイツ文学研究 II (ドイツ語テキスト分析)</p> <p>(4) 成績評価の方法</p> <p>●以下を総合して判定する。 <u>授業への取り組み方 (70%)、レポート (30%)</u> <u>※評価割合は若干の調整を行うことがある。</u> <u>●得点率による評価基準は次のとおりとする。</u> <u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準</p> <p>【卓越している】 授業で扱われる項目を正確に理解し、それを自らの言葉で解説ができる理解力と表現力、それを基に新たに問題を設定し、適切な方法論を用いて結論を導き出す問題分析・解決能力を総合して、極めて高い水準にある。</p> <p>【かなり上にある】 授業で扱われる項目を正確に理解し、それを自らの言葉で解説ができる理解力と表現力、それを基に新たに問題を設定し、適切な方法論を用いて結論を導き出</p> | <p>ドイツ語学・ドイツ文学研究 II (ドイツ語テキスト分析)</p> <p>(4) 成績評価の方法</p> <p><u>発表により、講義内容の理解の正確さを測り、そこでの議論への貢献度を評価する (40点満点)。</u> 期末レポートでは、<u>授業で扱われた方法論をいかに実際の分析に応用できているかを評価する (60点満点)。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準</p> <p>授業内で扱われる項目が正確に理解できれば「合格の水準にある」、さらにそれを他者にわかりやすく自らの言葉で解説ができれば「やや上にある」。議論に積極的に貢献し、期末レポートにおいて、適切な問題の設定ができれば「かなり上にある」、問題の背景を説明し、適切な方法論を用いて、解決できていれば「卓越している」。</p> |

| | |
|---|---|
| <p>す問題分析・解決能力を総合して、非常に高い水準にある。</p> <p><u>【やや上にある】授業で扱われる項目を正確に理解し、それを自らの言葉で解説ができる理解力と表現力、それを基に新たに問題を設定し、適切な方法論を用いて結論を導き出す問題分析・解決能力を総合して、高い水準にある。</u></p> <p><u>【その水準にある】授業で扱われる項目を正確に理解し、それを自らの言葉で解説ができる理解力と表現力、それを基に新たに問題を設定し、適切な方法論を用いて結論を導き出す問題分析・解決能力を総合して、一定水準にある。</u></p> <p>【参考書】 Linke, Angelika u. a. (2004): „Studienbuch Linguistik“, 5., Aufl. Tübingen.</p> | <p>【参考書】 <u>教場にて適時、指示する。</u></p> |
| <p>ドイツ語学・ドイツ文学研究Ⅲ (20世紀ドイツ文学)</p> <p>(4) 成績評価の方法 授業内での読解の正確さ、議論への貢献度、そして授業で扱われた方法論を作品分析に応用したレポートにより評価する。 <u>得点率による評価基準は次のとおりとする。</u> <u>90%以上 秀、89 - 80% 優、79 - 70% 良、69 - 60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>【教科書】 Robert Walser: Saemtliche Werke in Einzelausgaben. Hrsg. von Jochen Greven. Bd. 20. Frankfurt am Main 1986. <u>他</u></p> | <p>ドイツ語学・ドイツ文学研究Ⅲ (20世紀ドイツ文学)</p> <p>(4) 成績評価の方法 授業内での読解の正確さ、議論への貢献度、そして授業で扱われた方法論を作品分析に応用したレポートにより評価する。</p> <p>【教科書】 Robert Walser: Saemtliche Werke in Einzelausgaben. Hrsg. von Jochen Greven. Bd. 20. Frankfurt am Main 1986. <u>その他適宜プリントを配布する。</u></p> |
| <p>ドイツ語学・ドイツ文学研究Ⅳ (ドイツ文学と記憶)</p> <p>(4) 成績評価の方法 授業内での読解の正確さ、議論への貢献度、そして授業で扱われた方法論を作品分析に応用したレポートにより評価する。 <u>得点率による評価基準は次のとおりとする。</u> <u>90%以上 秀、89 - 80% 優、79 - 70% 良、69 - 60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>【教科書】 Aleida Assmann: Erinnerungsraeume. Formen und Wandlungen des kulturellen Gedaechnisses. 5. Aufl., Muenchen 1999.</p> | <p>ドイツ語学・ドイツ文学研究Ⅳ (ドイツ文学と記憶)</p> <p>(4) 成績評価の方法 授業内での読解の正確さ、議論への貢献度、そして授業で扱われた方法論を作品分析に応用したレポートにより評価する。</p> <p>【教科書】 Aleida Assmann: Erinnerungsraeume. Formen und Wandlungen des kulturellen Gedaechnisses. 5. Aufl., Muenchen 1999.</p> |

| | |
|---|--|
| <p>他</p> <p>英語学研究 I (通時的研究) (4) 成績評価の方法 授業内発表を 50%, 期末レポートを 50%に換算し, 総合的に評価します ●得点率による評価基準は次のとおりとする。 <u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 【卓越している (秀)】(1)テキストの内容を批判的に理解した上で、言語学的問題を正しく理解している、(2)問題点に即して、適切な言語データを論理的に分析して問題の解決に繋げることができる、(3)既存の知識を利用しながら、他の知識と組み合わせることで様々な分野への応用ができる、(4)英語を歴史的に理解することで、現代英語の言語文化理解への橋渡しを行うことができる、という点を総合して、極めて高い水準にある。 【かなり上にある (優)】上記(1)～(4)の点を総合して、非常に高い水準にある。 【やや上にある (良)】上記(1)～(4)の点を総合して、高い水準にある。 【その水準にある (可)】上記(1)～(4)の点を総合して、一定水準にある。</p> | <p>その他、適宜プリントを配布する。</p> <p>英語学研究 I (通時的研究) (4) 成績評価の方法 授業内発表を 50%, 期末レポートを 50%に換算し, 総合的に評価します</p> <p>(5) 成績評価の基準 評価点は以下の 4 点： 1)テキストの内容を批判的に理解した上で、言語学的問題を正しく理解する 2)問題点に即して、適切な言語データを論理的に分析して問題の解決に繋げることができる 3)既存の知識を利用しながら、他の知識と組み合わせることで様々な分野への応用ができる 4)英語を歴史的に理解することで、現代英語の言語文化理解への橋渡しを行うことができる これらの基礎能力をそれぞれ 25 点で評価し、合計 100 点のうち、90 点以上を秀、80 点以上を優、70 点以上を良、60 点以上を可と評価し、60 点未満の場合は単位を与えない。</p> |
| <p>英語学研究 II (共時的研究) (4) 成績評価の方法 14 回までのテーマから一つを選んで、指導教案を作って発表し、それを評価する。 ●得点率による評価基準は次のとおりとする。 <u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>卓越している (秀)：</u> 英語教員として必要な共時的知識と英語力と指導力を十分以上に得ている。 <u>かなり上にある (優)：</u> 英語教員として必要な共時的知識と英語力と指導力を十分得ている。 <u>やや上にある (良)：</u> 英語教員として必要な共時的知識と英語力と指導力を理解を得て</p> | <p>英語学研究 II (共時的研究) (4) 成績評価の方法 14 回までのテーマから一つを選んで、指導教案を作って発表し、それを評価する。</p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>秀：</u> 英語教員として必要な共時的知識と英語力と指導力を十分以上に得ている。 <u>優：</u> 英語教員として必要な共時的知識と英語力と指導力を十分得ている。 <u>良：</u> 英語教員として必要な共時的知識と英語力と指導力を理解を得ている。 <u>可：</u> 英語教員として必要な共時的知識と英語力と指導力を一応は得ている。</p> |

| | |
|---|--|
| <p>いる。 <u>その水準にある(可)</u>： 英語教員として必要な共時的知識と英語力と指導力を一応は得ている。</p> <p>【参考書】 高見健一 (2001) 日英語の機能的構文分析 鳳書房</p> | <p>【参考書】 <u>授業中に指示する</u></p> |
| <p>英語学研究Ⅲ (英語構造論) (4) 成績評価の方法 14回までのテーマから一つを選んで、指導教案を作って発表し、それを評価する。 ●<u>得点率による評価基準は次のとおりとする。</u> <u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>卓越している(秀)</u>： 英語教員として必要な構造面の知識と英語力と指導力を十分以上に得ている。 <u>かなり上にある(優)</u>： 英語教員として必要な構造面の知識と英語力と指導力を十分得ている。 <u>やや上にある(良)</u>： 英語教員として必要な構造面の知識と英語力と指導力を理解を得ている。 <u>その水準にある(可)</u>： 英語教員として必要な構造面の知識と英語力と指導力を一応は得ている。</p> <p>【参考書】 高見健一 (1997) 機能的統語論 くろしお出版</p> | <p>英語学研究Ⅲ (英語構造論) (4) 成績評価の方法 14回までのテーマから一つを選んで、指導教案を作って発表し、それを評価する。</p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>秀</u>： 英語教員として必要な構造面の知識と英語力と指導力を十分以上に得ている。 <u>優</u>： 英語教員として必要な構造面の知識と英語力と指導力を十分得ている。 <u>良</u>： 英語教員として必要な構造面の知識と英語力と指導力を理解を得ている。 <u>可</u>： 英語教員として必要な構造面の知識と英語力と指導力を一応は得ている。</p> <p>【参考書】 <u>授業中に指示する</u></p> |
| <p>英語学研究Ⅳ (英語テキスト分析) (4) 成績評価の方法 授業内発表を50%、期末レポートを50%に換算し、総合的に評価します ●<u>得点率による評価基準は次のとおりとする。</u> <u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 【<u>卓越している(秀)</u>】(1)グロスアリーや註を読み、言語学的な問題点に気づく、(2)グロサ</p> | <p>英語学研究Ⅳ (英語テキスト分析) (4) 成績評価の方法 授業内発表を50%、期末レポートを50%に換算し、総合的に評価します</p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>評価点は次の4点：</u> 1)グロスアリーや註を読み、言語学的な問題点</p> |

| | |
|---|--|
| <p>リーや註に見つけた問題点について先行研究を見つけ、内容を理解できる、(3)目の前の文章の意味について、文脈に応じて様々な解釈を行うことができる、(4)自分の発見した内容を論理的かつ具体的事例を持って、説得力をもって発表できる、という点を総合して、極めて高い水準にある。</p> <p><u>【かなり上にある(優)】上記(1)～(4)の点を総合して、非常に高い水準にある。</u></p> <p><u>【やや上にある(良)】上記(1)～(4)の点を総合して、高い水準にある。</u></p> <p><u>【その水準にある(可)】上記(1)～(4)の点を総合して、一定水準にある。</u></p> <p>【教科書】 各回の内容に合わせて独自に作成したプリントをそのつど配布する。</p> <p>【参考書】 Benson, Larry, ed. <i>The Riverside Chaucer</i>. Oxford UP, 1988. Benson, Larry, et al, ed. <i>A Chaucer Glossary</i>. Oxford UP, 1979. Fulk, R. D. Robert E. Bjork and John D. Niles, eds. <i>Klaeber's Beowulf</i>. U of Toronto P, 2008. Jack, George, ed. <i>Beowulf: A Student Edition</i>. Oxford UP, 1995. Tolkien, J. R. R. and E. V. Gordon, eds. Revised by Norman Davis. <i>Sir Gawain and the Green Knight</i>. 2nd ed. Oxford UP, 1967. Neill, Michael, ed. <i>The Oxford Shakespeare, Othello</i>. Oxford UP, 2006. 他</p> | <p>に気づく</p> <p>2) <u>グロスリーや註に見つけた問題点について先行研究を見つけ、内容を理解できる</u></p> <p>3) <u>目の前の文章の意味について、文脈に応じて様々な解釈を行うことができる</u></p> <p>4) <u>自分の発見した内容を論理的かつ具体的事例を持って、説得力をもって発表できる</u></p> <p><u>これら基礎能力をそれぞれ 25 点で評価し、合計 100 点のうち、90 点以上を秀、80 点以上を優、70 点以上を良、60 点以上を可と評価し、60 点未満の場合は単位を与えない。</u></p> <p>【教科書】 プリントを配布します。</p> <p>【参考書】 Benson, Larry, ed. <i>The Riverside Chaucer</i>. Oxford UP, 1988. Benson, Larry, et al, ed. <i>A Chaucer Glossary</i>. Oxford UP, 1979. Fulk, R. D. Robert E. Bjork and John D. Niles, eds. <i>Klaeber's Beowulf</i>. U of Toronto P, 2008. Jack, George, ed. <i>Beowulf: A Student Edition</i>. Oxford UP, 1995. Tolkien, J. R. R. and E. V. Gordon, eds. Revised by Norman Davis. <i>Sir Gawain and the Green Knight</i>. 2nd ed. Oxford UP, 1967. Neill, Michael, ed. <i>The Oxford Shakespeare, Othello</i>. Oxford UP, 2006. <u>その他、授業中に紹介する。</u></p> |
| <p>英語文学研研究 I (イギリス文学文化)</p> <p>(4) 成績評価の方法</p> <p>授業内でのアクティビティ 50%とレポート 50%による。</p> <p><u>得点率による評価基準は次のとおりとする。</u></p> <p><u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準</p> <p><u>【卓越している(秀)】ジェイムズ・ジョイスの短編小説を理解し修得したか及び具体的テキストを研究しそれをうまくレポートにまとめることができたかという点において、</u></p> | <p>英語文学研研究 I (イギリス文学文化)</p> <p>(4) 成績評価の方法</p> <p>授業内でのアクティビティ 50%とレポート 50%による。</p> <p>(5) 成績評価の基準</p> <p><u>評価点は、ジェイムズ・ジョイスの短編小説を理解し修得したか、具体的テキストを研究しそれをうまくレポートにまとめることができたかである。その度合いに応じて</u></p> |

| | |
|--|---|
| <p>極めて高い水準にある。</p> <p><u>【かなり上にある (優)】</u> ジェイムズ・ジョイスの短編小説を理解し修得したか及び具体的テキストを研究しそれをうまくレポートにまとめることができたかという点において、非常に高い水準にある。</p> <p><u>【やや上にある (良)】</u> ジェイムズ・ジョイスの短編小説を理解し修得したか及び具体的テキストを研究しそれをうまくレポートにまとめることができたかという点において、高い水準にある。</p> <p><u>【その水準にある (可)】</u> ジェイムズ・ジョイスの短編小説を理解し修得したか及び具体的テキストを研究しそれをうまくレポートにまとめることができたかという点において、一定水準にある。</p> | <p>て、合計 100 点で評価し、90 点以上を秀、80 点以上を優、70 点以上を良、60 点以上を可と評価し、60 点未満の場合は単位を与えない</p> |
| <p>英語文学研究 II (英語圏文化と映画)</p> <p>(4) 成績評価の方法</p> <p><u>授業内でのアクティビティ 50%とレポート 50%による。</u></p> <p><u>得点率による評価基準は次のとおりとする。</u></p> <p><u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準</p> <p>評価の要素は、「英語論文の読解力」「作品の理解力・鑑賞力」「作品の分析・考察力」「問題発見力・独創力」「論理的表現力」の 5 点とし、そのうち、基盤となる「英語論文の読解力」「作品の理解力・鑑賞力」の 2 点を満たせば「<u>その水準にある (可)</u>」、さらに 1 点満たすごとに、「<u>やや上にある (良)</u>」「<u>かなり上にある (優)</u>」「<u>卓越している (秀)</u>」(5 点すべてを満たせば「<u>卓越している (秀)</u>」)とします。なお、基盤となる「英語論文の読解力」「作品の理解力・鑑賞力」については、主に授業内での論文要約・レビューの発表により測り、「作品の分析・考察力」「問題発見力・独創力」「論理的表現力」については、主に期末に課す作品研究の口頭発表およびレポートにより測るものとします。</p> <p>【参考書】</p> <p>トマス・E・ポーター『神話と現代アメリカ演劇』国書刊行会、1997 年。</p> <p>佐和田敬司ほか編『演劇学のキーワード』ペリかん社、2007 年。</p> | <p>英語文学研究 II (英語圏文化と映画)</p> <p>(4) 成績評価の方法</p> <p><u>授業内の発表およびディスカッションへの参与状況 50%、期末レポート 50%で総合的に評価します。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準</p> <p>評価の要素は、「英語論文の読解力」「作品の理解力・鑑賞力」「作品の分析・考察力」「問題発見力・独創力」「論理的表現力」の 5 点とし、そのうち、基盤となる「英語論文の読解力」「作品の理解力・鑑賞力」の 2 点を満たせば「可」、さらに 1 点満たすごとに、「良」「優」「秀」(5 点すべてを満たせば「秀」とします。なお、基盤となる「英語論文の読解力」「作品の理解力・鑑賞力」については、主に授業内での論文要約・レビューの発表により測り、「作品の分析・考察力」「問題発見力・独創力」「論理的表現力」については、主に期末に課す作品研究の口頭発表およびレポートにより測るものとします。</p> <p>【参考書】</p> <p>トマス・E・ポーター『神話と現代アメリカ演劇』国書刊行会、1997 年。</p> <p>佐和田敬司ほか編『演劇学のキーワード』ペリかん社、2007 年。</p> |

| | |
|--|--|
| <p>各回の内容に合わせて独自に作成したプリントをそのつど配布する。</p> | <p>その他、適宜授業内で紹介します。</p> |
| <p>英語文学研究Ⅲ（アメリカ文学文化） (4) 成績評価の方法 授業内でのアクティビティ 50%とレポート 50%による。 得点率による評価基準は次のとおりとする。 <u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 【卓越している(秀)】Fitzgerald, F. Scott. <i>The Great Gatsby</i> のアダプテーション作品を理解したか、それを通してアダプテーションを理解できたか及びアダプテーション作品に関する考えをまとめレポートで表現できたか、という点において、極めて高い水準にある。 【かなり上にある(優)】Fitzgerald, F. Scott. <i>The Great Gatsby</i> のアダプテーション作品を理解したか、それを通してアダプテーションを理解できたか及びアダプテーション作品に関する考えをまとめレポートで表現できたか、という点において、非常に高い水準にある。 【やや上にある(良)】Fitzgerald, F. Scott. <i>The Great Gatsby</i> のアダプテーション作品を理解したか、それを通してアダプテーションを理解できたか及びアダプテーション作品に関する考えをまとめレポートで表現できたか、という点において、高い水準にある。 【その水準にある(可)】Fitzgerald, F. Scott. <i>The Great Gatsby</i> のアダプテーション作品を理解したか、それを通してアダプテーションを理解できたか及びアダプテーション作品に関する考えをまとめレポートで表現できたか、という点において、一定水準にある。</p> | <p>英語文学研究Ⅲ（アメリカ文学文化） (4) 成績評価の方法 授業内でのアクティビティ 50%とレポート 50%による。</p> <p>(5) 成績評価の基準 評価点は、Fitzgerald, F. Scott. <i>The Great Gatsby</i> のアダプテーション作品を理解したか、それを通してアダプテーションを理解できたか、またアダプテーション作品に関する考えをまとめレポートで表現できたかである。その度合いに応じて、合計100点で評価し、90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可と評価し、60点未満の場合は単位を与えない</p> |
| <p>英語文学研究Ⅳ（英語圏文化批評と映画） (4) 成績評価の方法 授業内の発表およびディスカッションへの参与状況 50%、期末レポート 50%で総合的に評価します。 得点率による評価基準は次のとおりとする。 <u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準</p> | <p>英語文学研究Ⅳ（英語圏文化批評と映画） (4) 成績評価の方法 授業内の発表およびディスカッションへの参与状況 50%、期末レポート 50%で総合的に評価します。</p> <p>(5) 成績評価の基準</p> |

| | |
|---|---|
| <p>評価の要素は、「英語批評文の精読力」「英語批評文の批判的読解力」「批評対象作品の理解力・鑑賞力」「問題発見力・発想力」「英語での表現力」の5点とし、そのうち、基盤となる「英語批評文の精読力」「英語批評文の批判的読解力」の2点を満たせば「<u>その水準にある(可)</u>」、さらに1点満たすごとに、「<u>やや上にある(良)</u>」「<u>かなり上にある(優)</u>」「<u>卓越している(秀)</u>」(5点すべてを満たせば「<u>卓越している(秀)</u>」)とします。なお、基盤となる「英語批評文の精読力」「英語批評文の批判的読解力」については、主に授業内での批評の要約および英語表現の分析と批判的考察の発表により測り、「批評対象作品の理解力・鑑賞力」「問題発見力・発想力」「英語での表現力」については、主に期末に課す英語による作品批評の口頭発表および英語によるレビューにより測るものとします。</p> <p>【参考書】 各回の内容に合わせて独自に作成したプリントをそのつど配布する。</p> | <p>評価の要素は、「英語批評文の精読力」「英語批評文の批判的読解力」「批評対象作品の理解力・鑑賞力」「問題発見力・発想力」「英語での表現力」の5点とし、そのうち、基盤となる「英語批評文の精読力」「英語批評文の批判的読解力」の2点を満たせば「可」、さらに1点満たすごとに、「良」「優」「秀」(5点すべてを満たせば「秀」)とします。なお、基盤となる「英語批評文の精読力」「英語批評文の批判的読解力」については、主に授業内での批評の要約および英語表現の分析と批判的考察の発表により測り、「批評対象作品の理解力・鑑賞力」「問題発見力・発想力」「英語での表現力」については、主に期末に課す英語による作品批評の口頭発表および英語によるレビューにより測るものとします。</p> <p>【参考書】 適宜授業内で紹介します。</p> |
| <p>芸術コミュニケーション研究Ⅰ（現代舞踊論）</p> <p>(4) 成績評価の方法 <u>以下を総合して判定する。</u> <u>授業への取り組み方(70%)、レポート(30%)</u> <u>※評価割合は若干の調整を行うことがある。</u> <u>得点率による評価基準は次のとおりとする。</u> <u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>【卓越している】芸術コミュニケーション研究および、身体論、舞台芸術研究の基礎的な知識をもとに、資料読解とディスカッション、関連テキストを多角的に分析し論考する力において、極めて高い水準にある。</u> <u>【かなり上にある】芸術コミュニケーション研究および身体論、舞台芸術研究の基礎的な知識をもとに、資料読解とディスカッション、関連テキストを多角的に分析し論考する力において、非常に高い水準にある。</u> <u>【やや上にある】芸術コミュニケーション研究および、身体論、舞台芸術研究の基礎的な知識をもとに、資料読解とディスカッション、関連テキストを多角的に分析し論考する</u></p> | <p>芸術コミュニケーション研究Ⅰ（現代舞踊論）</p> <p>(4) 成績評価の方法 <u>受講・レポート提出状況、発表などの平常点</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>1) 課題への取り組みが適切であり、2) その課題への考察を説明できており、3) その課題にどのような具体性があるのかを指摘できており、4) それらの具体的考察に対して研究発表方法を適切に考察できており、5) その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」。</u> <u>1) から5) の5項目を満たしていれば「かなり上にある」。4項目までできていれば「やや上にある」。3項目までできていれば「水準にある」。</u></p> |

| | |
|---|--|
| <p>力において、高い水準にある。</p> <p><u>【その水準にある】芸術コミュニケーション研究および、身体論、舞台芸術研究の基礎的な知識をもとに、資料読解とディスカッション、関連テキストを多角的に分析し論考する力において、一定の水準にある。</u></p> | |
| <p>芸術コミュニケーション研究Ⅱ（身体論）</p> <p>(4) 成績評価の方法 以下を総合して判定する。 各回の授業時の発表 30%、ディスカッション 30%、レポート 40% ※評価割合は若干の調整を行うことがある。 得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>【卓越している】芸術コミュニケーション研究および身体表現、パフォーマンス論の基礎的な知識をもとに、資料読解とディスカッション、関連テキストを多角的に分析し論考する力において、極めて高い水準にある。</u> <u>【かなり上にある】芸術コミュニケーション研究および身体表現、パフォーマンス論の基礎的な知識をもとに、資料読解とディスカッション、関連テキストを多角的に分析し論考する力において、非常に高い水準にある。</u> <u>【やや上にある】芸術コミュニケーション研究および身体表現、パフォーマンス論の基礎的な知識をもとに、資料読解とディスカッション、関連テキストを多角的に分析し論考する力において、高い水準にある。</u> <u>【その水準にある】芸術コミュニケーション研究および身体表現、パフォーマンス論の基礎的な知識をもとに、資料読解とディスカッション、関連テキストを多角的に分析し論考する力において、一定の水準にある。</u></p> | <p>芸術コミュニケーション研究Ⅱ（身体論）</p> <p>(4) 成績評価の方法 受講・レポート提出状況、発表などの平常点</p> <p>(5) 成績評価の基準 1) 課題への取り組みが適切であり、2) その課題への考察を説明できており、3) その課題にどのような具体性があるのかを指摘できており、4) それらの具体的考察に対して研究発表方法を適切に考察できており、5) その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」。 1) から5) の5項目を満たしていれば「かなり上にある」。4項目までできていれば「やや上にある」。3項目までできていれば「水準にある」。</p> |
| <p>芸術コミュニケーション研究Ⅲ（現代美術論）</p> <p>(4) 成績評価の方法 以下を総合して判定する。 授業への取り組み方 (70%)、レポート (30%) ※評価割合は若干の調整を行うことがある。 得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</p> <p>(5) 成績評価の基準</p> | <p>芸術コミュニケーション研究Ⅲ（現代美術論）</p> <p>(4) 成績評価の方法 関連資料の精読 30%と授業時のディスカッション 30%、最終レポート 40%</p> <p>(5) 成績評価の基準</p> |

| | |
|---|---|
| <p><u>【卓越している】芸術コミュニケーション研究に関する基礎的な知識をもとに、資料読解と受講者間のディスカッション、実地調査を組み合わせながら、作品と関連テキストを多角的に照合・分析する力において、極めて高い水準にある。</u></p> <p><u>【かなり上にある】芸術コミュニケーション研究に関する基礎的な知識をもとに、資料読解と受講者間のディスカッション、実地調査を組み合わせながら、作品と関連テキストを多角的に照合・分析する力において、非常に高い水準にある。</u></p> <p><u>【やや上にある】芸術コミュニケーション研究に関する基礎的な知識をもとに、資料読解と受講者間のディスカッション、実地調査を組み合わせながら、作品と関連テキストを多角的に照合・分析する力において、高い水準にある。</u></p> <p><u>【その水準にある】芸術コミュニケーション研究に関する基礎的な知識をもとに、資料読解と受講者間のディスカッション、実地調査を組み合わせながら、作品と関連テキストを多角的に照合・分析する力において、一定水準にある。</u></p> <p>【教科書】 なし。</p> <p>【参考文献】 Hal Foster, Rosalind Krauss, Yve-Alain Bois, Benjamin H. D. Buchloh, David Joselit, <i>Art Since 1900: Modernism Antimodernism Postmodernism</i>, Thames & Hudson, 2016. <u>他。</u></p> | <p>レポートについて、 <u>授業で示した基本用語・事例を理解していれば「水準にある」。重要語句・重要事例に対する理解が進んでいれば「やや上にある」。授業内容をしっかり理解し、自身の見解も示せば「かなり上にある」。授業内容を完全に把握し、さらに主体的な学習と思考が加えられていれば「卓越している」。</u></p> <p>【教科書】 なし。<u>必要な資料は配布、もしくは入手方法を指示する。</u></p> <p>【参考文献】 Hal Foster, Rosalind Krauss, Yve-Alain Bois, Benjamin H. D. Buchloh, David Joselit, <i>Art Since 1900: Modernism Antimodernism Postmodernism</i>, Thames & Hudson, 2016. <u>他、授業中に適宜紹介する。</u></p> |
| <p>芸術コミュニケーション研究Ⅳ（彫刻論） （4）成績評価の方法 <u>以下を総合して判定する。</u> <u>授業への取り組み方（70%）、レポート（30%）</u> <u>※評価割合は若干の調整を行うことがある。</u> <u>得点率による評価基準は次のとおりとする。</u> <u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>（5）成績評価の基準 レポートについて、 【卓越している】芸術コミュニケーション研</p> | <p>芸術コミュニケーション研究Ⅳ（彫刻論） （4）成績評価の方法 <u>関連資料の精読30%と授業時のディスカッション30%、最終レポート40%</u></p> <p>（5）成績評価の基準 レポートについて、</p> |

| | |
|--|--|
| <p>究に関する基礎的な知識をもとに、資料読解と受講者間のディスカッション、実地調査を組み合わせながら、作品と関連テキストを多角的に照合・分析する力において、極めて高い水準にある。</p> <p><u>【かなり上にある】芸術コミュニケーション研究に関する基礎的な知識をもとに、資料読解と受講者間のディスカッション、実地調査を組み合わせながら、作品と関連テキストを多角的に照合・分析する力において、非常に高い水準にある。</u></p> <p><u>【やや上にある】芸術コミュニケーション研究に関する基礎的な知識をもとに、資料読解と受講者間のディスカッション、実地調査を組み合わせながら、作品と関連テキストを多角的に照合・分析する力において、高い水準にある。</u></p> <p><u>【その水準にある】芸術コミュニケーション研究に関する基礎的な知識をもとに、資料読解と受講者間のディスカッション、実地調査を組み合わせながら、作品と関連テキストを多角的に照合・分析する力において、一定水準にある。</u></p> <p>【教科書】 なし。</p> <p>【参考書】 Alex Potts, <i>The Sculptural Imagination: Figurative, Modernist, Minimalist</i>, Yale University Press, 2001. 他。</p> | <p>授業で示した基本用語・事例を理解していれば「水準にある」。重要語句・重要事例に対する理解が進んでいけば「やや上にある」。授業内容をしっかり理解し、自身の見解も示せば「かなり上にある」。授業内容を完全に把握し、さらに主体的な学習と思考が加えられていけば「卓越している」。</p> <p>【教科書】 なし。必要な資料は配布、もしくは入手方法を指示する。</p> <p>【参考書】 Alex Potts, <i>The Sculptural Imagination: Figurative, Modernist, Minimalist</i>, Yale University Press, 2001. 他、<u>授業中に適宜紹介する。</u></p> |
| <p>芸術コミュニケーション研究Ⅴ（音楽学研究）</p> <p>（4）成績評価の方法 以下を総合して判定する。 各回の授業時の発表 30%、ディスカッション 30%、レポート 40% <u>※評価割合は若干の調整を行うことがある。得点率による評価基準は次のとおりとする。</u> <u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>（5）成績評価の基準 <u>【卓越している】芸術コミュニケーション研究および音楽学の基礎的な知識をもとに、資料読解とディスカッション、関連テキストを</u></p> | <p>芸術コミュニケーション研究Ⅴ（音楽学研究）</p> <p>（4）成績評価の方法 各回の授業時の発表 30%、ディスカッション 30%、レポート 40%</p> <p>（5）成績評価の基準 <u>（i）各授業の課題に対してその問題意識が的確に把握され、（ii）発表（レジュメ作成も含む）が適切かつ建設的に行われ、（iii）発表</u></p> |

| | |
|---|--|
| <p>多角的に分析し論考する力において、極めて高い水準にある。</p> <p>【かなり上にある】芸術コミュニケーション研究および音楽学の基礎的な知識をもとに、資料読解とディスカッション、関連テキストを多角的に分析し論考する力において、非常に高い水準にある。</p> <p>【やや上にある】芸術コミュニケーション研究および音楽学の基礎的な知識をもとに、資料読解とディスカッション、関連テキストを多角的に分析し論考する力において、高い水準にある。</p> <p>【その水準にある】芸術コミュニケーション研究および音楽学の基礎的な知識をもとに、資料読解とディスカッション、関連テキストを多角的に分析し論考する力において、一定の水準にある。</p> <p>【教科書】 なし。</p> <p>【参考文献】 柘植元一『世界音楽への招待』音楽之友社、1991年。 徳丸吉彦『音楽とはなにか—理論と現場の間から』岩波書店、2008年。 山田陽一『響きあう身体——音楽・グループ・憑依』春秋社、2017年。</p> | <p>内容とともに提出されたレポートの内容が正確かつ意欲的なものであれば「卓越している」と評価する。以上の項目すべてに関して妥当性が認められる場合は「やや上にある」、総合的に見て妥当性が認められる場合は「その水準にある」と評価する。</p> <p>【教科書】 とくに指定しない。必要な資料は配布、あるいは入手方法を指示する。</p> <p>【参考文献】 徳丸吉彦『音楽とはなにか—理論と現場の間から』岩波書店、2008年。</p> |
| <p>芸術コミュニケーション研究VI（音楽と社会）</p> <p>(4) 成績評価の方法 以下を総合して判定する。 各回の授業時の発表 30%、ディスカッション 30%、レポート 40% ※評価割合は若干の調整を行うことがある。 得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</p> <p>(5) 成績評価の基準 【卓越している】芸術コミュニケーション研究およびトルコ音楽史の基礎的な知識をもとに、資料読解とディスカッション、関連テキストを多角的に分析し論考する力において、極めて高い水準にある。 【かなり上にある】芸術コミュニケーション研究およびトルコ音楽史の基礎的な知識を</p> | <p>芸術コミュニケーション研究VI（音楽と社会）</p> <p>(4) 成績評価の方法 各回の授業時の発表 30%、ディスカッション 30%、レポート 40%</p> <p>(5) 成績評価の基準 (i) テキストの内容が的確に把握され、 (ii) 発表（レジュメ作成も含む）が適切かつ建設的に行われ、(iii) 発表内容とともに提出されたレポートの内容が正確かつ意欲的なものであれば「卓越している」と評価する。 以上の項目すべてに関して妥当性が認められる場合は「やや上にある」、総合的に見て妥</p> |

| | |
|--|--|
| <p>もとに、資料読解とディスカッション、関連テキストを多角的に分析し論考する力において、非常に高い水準にある。</p> <p>【やや上にある】芸術コミュニケーション研究およびトルコ音楽史の基礎的な知識をもとに、資料読解とディスカッション、関連テキストを多角的に分析し論考する力において、高い水準にある。</p> <p>【その水準にある】芸術コミュニケーション研究およびトルコ音楽史の基礎的な知識をもとに、資料読解とディスカッション、関連テキストを多角的に分析し論考する力において、一定の水準にある。</p> <p>【参考書】 <u>M. Greve, <i>Makamsiz: Individualization of Traditional Music on the Eve of Kemalist Turkey</i>, Orient-Institut Istanbul, 2017.</u></p> | <p>当性が認められる場合は「その水準にある」と評価する。</p> <p>【参考書】 <u>講義中、適宜紹介する。</u></p> |
| <p>心理学研究指導 I</p> <p>【参考文献】 <u>日本心理学会編 2015 執筆・投稿の手びき (2015 年版) 日本心理学会</u> <u>アメリカ心理学会 2011 APA 論文作成マニュアル 第 2 版 医学書院</u></p> | <p>心理学研究指導 I</p> <p>【参考文献】 <u>内容に応じて随時紹介する。</u></p> |
| <p>心理学研究指導 II</p> <p>【参考文献】 <u>日本心理学会編 2015 執筆・投稿の手びき (2015 年版) 日本心理学会</u> <u>アメリカ心理学会 2011 APA 論文作成マニュアル 第 2 版 医学書院</u></p> | <p>心理学研究指導 II</p> <p>【参考文献】 <u>内容に応じて随時紹介する。</u></p> |
| <p>心理学総合演習 I</p> <p>【参考文献】 <u>都築学 2010 改訂新版 心理学論文の書き方---卒業論文や修士論文を書くために 河出書房新社</u> <u>浦上 昌則, 脇田 貴文 2008 心理学・社会科学研究のための 調査系論文の読み方 東京図書</u></p> | <p>心理学総合演習 I</p> <p>【参考文献】 <u>内容に応じて随時紹介する。</u></p> |
| <p>心理学総合演習 II</p> <p>【参考文献】 <u>都築学 2010 改訂新版 心理学論文の書き方---卒業論文や修士論文を書くために 河出書房新社</u> <u>浦上 昌則, 脇田 貴文 2008 心理学・社会科学研究のための 調査系論文の読み方 東京図書</u></p> | <p>心理学総合演習 II</p> <p>【参考文献】 <u>内容に応じて随時紹介する。</u></p> |

| | |
|--|--|
| <p>臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習）</p> <p>【教科書】 アレン・E・アイビー（1985）<u>マイクロカウンセリング</u> 川島書店</p> <p>【参考文献】 <u>福原真知子（2007）マイクロカウンセリング技法―事例場面から学ぶ―</u> 風間書房 <u>鮑田典子（1999）遊戯法 子どもの心理臨床入門</u> 新曜社 <u>E. O. リヒテンバーガー他（2008）エッセンシャルズ 心理アセスメントレポートの書き方</u> 日本文化科学社 <u>八木亜希子（2012）相談援助職の記録の書き方</u> 中央法規 <u>仙波純一（2008）精神科症例報告の上手な書き方</u></p> | <p>臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習）</p> <p>【教科書】 <u>特に指定はしない</u></p> <p>【参考文献】 <u>随時指定する</u></p> |
| <p>発達・教育心理学実習</p> <p>【参考文献】 <u>村井潤一郎・藤川麗（2018）. 心理学研究法</u> <u>遠見書房 他</u></p> | <p>発達・教育心理学実習</p> <p>【参考文献】 <u>内容に応じて随時紹介する。</u></p> |
| <p>臨床心理学基礎実習 （5）成績評価の基準 エクセサイズやディスカッションへの参加 <u>態度・貢献度、要約・感想の内容、プレゼンテーション・レポートの内容</u>に関し、それぞれの評価割合が6割以上であれば水準にある、7割以上であればやや上にある、8割以上であればかなり上にある、9割以上であれば卓越している、と判断する。</p> <p>【教科書】 アレン・E・アイビー（1985）<u>マイクロカウンセリング</u> 川島書店</p> <p>【参考文献】 <u>福原真知子（2007）マイクロカウンセリング技法―事例場面から学ぶ―</u> 風間書房 <u>鮑田典子（1999）遊戯法 子どもの心理臨床入門</u> 新曜社 <u>E. O. リヒテンバーガー他（2008）エッセンシャルズ 心理アセスメントレポートの書き方</u> 日本文化科学社 <u>八木亜希子（2012）相談援助職の記録の書き方</u> 中央法規 <u>仙波純一（2008）精神科症例報告の上手な書き方</u></p> | <p>臨床心理学基礎実習 （5）成績評価の基準 エクセサイズやディスカッションへの参加・貢献度、要約・感想、プレゼン・レポートに関し、それぞれの評価割合が6割以上であれば水準にある、7割以上であればやや上にある、8割以上であればかなり上にある、9割以上であれば卓越している、と判断する。</p> <p>【教科書】 <u>授業の中で適宜紹介する</u></p> <p>【参考文献】 <u>授業の中で適宜紹介する</u></p> |
| <p>臨床心理実習Ⅱ</p> | <p>臨床心理実習Ⅱ</p> |

| | |
|---|---|
| <p>(4) 成績評価の方法 ③教育委員会心の支援課 SNS 相談実習（取り組みとレポートを総合的に評価）45% ④心理教育実践実習（取り組みとレポートを総合的に評価）45%</p> <p>【教科書】 <u>アレン・E・アイビー（1985）マイクロカウンセリング 川島書店</u></p> <p>【参考文献】 <u>福原眞知子（2007）マイクロカウンセリング技法—事例場面から学ぶ— 風間書房</u> <u>鮑田典子（1999）遊戯法 子どもの心理臨床入門 新曜社</u> <u>E.O.リヒテンバーガー他（2008）エッセンシャルズ 心理アセスメントレポートの書き方 日本文化科学社</u> <u>八木亜希子（2012）相談援助職の記録の書き方 中央法規</u> <u>仙波純一（2008）精神科症例報告の上手な書き方</u></p> | <p>(4) 成績評価の方法 ③教育委員会心の支援課 SNS 相談実習（取り組みとレポートを総合的に評価）40% ④心理教育実践実習（取り組みとレポートを総合的に評価）40%</p> <p>【教科書】 <u>特に指定はしない</u></p> <p>【参考文献】 <u>授業の中で適宜紹介する</u></p> |
| <p>人間の精神と社会環境特論 【参考文献】 <u>松本卓也他編『<つながり>の現代思想』明石書店</u> <u>東浩紀『情報環境論集』講談社</u> <u>ジグムント・バウマン『退行の時代を生きる』青土社 ほか</u></p> | <p>人間の精神と社会環境特論 【参考文献】 <u>授業時に適宜紹介する。</u></p> |
| <p>人間の精神と社会環境演習 【参考文献】 <u>松本卓也他編『<つながり>の現代思想』明石書店</u> <u>東浩紀『情報環境論集』講談社</u> <u>ジグムント・バウマン『退行の時代を生きる』青土社 ほか</u></p> | <p>人間の精神と社会環境演習 【参考文献】 <u>授業時に適宜紹介する。</u></p> |
| <p>人間形成論特論 【教科書】 <u>矢野智司（2019）自己変容という物語 生成・贈与・教育，金子書房．他</u></p> <p>【参考文献】 <u>教育思想史学会（編）（2017）教育思想史事典 増補改訂版，勁草書房．他</u></p> | <p>人間形成論特論 【教科書】 <u>授業時に適宜紹介する。</u></p> <p>【参考文献】 <u>授業時に適宜紹介する。</u></p> |
| <p>人間形成論演習 【教科書】 <u>田中智志（2005）人格形成概念の誕生—近代アメリカの教育概念史，東信堂．他</u></p> | <p>人間形成論演習 【教科書】 <u>授業時に適宜紹介する。</u></p> |

| | |
|---|---|
| <p>【参考文献】 眞壁宏幹（編）（2016）西洋教育思想史，慶應義塾大学出版会．他</p> | <p>【参考文献】 授業時に適宜紹介する。</p> |
| <p>音楽心理学特論 （4）成績評価の方法 授業での発表と討論 5 割，期末レポート 5 割の比率で総合的に音楽心理学研究の理解度を評価する。 ※評価割合は若干の調整を行うことがある。 得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</p> <p>（5）成績評価の基準 1. 音楽理論・音響学の基礎事項を理解できている 2. 音楽心理学の研究方法を理解できている 3. 音楽心理学研究の事例を正確にわかりやすく発表できる 4. 楽理研究について理解できている 5. 楽理研究の事例を正確にわかりやすく発表できる 1 から 5 の 5 項目を全て満たしていれば【卓越している】。4 項目までできていれば【かなり上にある】。3 項目までできていれば【やや上にある】と評価する。2 項目で【その水準にある】とする。</p> <p>（7）履修上の注意 楽典及び和声学等の音楽理論の基礎を習得済であることを前提に授業を進める。</p> <p>【参考文献】 柴田南雄（2014）．音楽史と音楽論 岩波書店 谷口高士（2000）．音は心の中で音楽になる：音楽心理学への招待 北大路書房</p> | <p>音楽心理学特論 （4）成績評価の方法 授業での発表と討論 5 割，期末レポート 5 割の比率で総合的に音楽心理学研究の理解度を評価する。</p> <p>（5）成績評価の基準 1. 音楽理論・音響学の基礎事項を理解できている 2. 音楽心理学の研究方法を理解できている 3. 音楽心理学研究の事例を正確にわかりやすく発表できる 4. 楽理研究について理解できている 5. 楽理研究の事例を正確にわかりやすく発表できる 1 から 5 の 5 項目を満たしていれば「かなり上にある」。4 項目までできていれば「やや上にある」。3 項目までできていれば「水準にある」と評価する。</p> <p>（7）履修上の注意 学部における「音楽基礎」または「音楽理論基礎」程度の講義を受講済みであることを前提に授業を進める。</p> <p>【参考文献】 その都度紹介する。</p> |
| <p>音楽心理学演習 （4）成績評価の方法 授業での発表と討論 5 割，期末レポート 5 割の比率で総合的に音楽心理学研究の理解度を評価する。 ※評価割合は若干の調整を行うことがある。</p> | <p>音楽心理学演習 （4）成績評価の方法 授業での発表と討論 5 割，期末レポート 5 割の比率で総合的に音楽心理学研究の理解度を評価する。</p> |

| | |
|--|---|
| <p>得点率による評価基準は次のとおりとする。</p> <p>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</p> <p>(5) 成績評価の基準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 音楽理論・音響学の基礎的分析手法を理解できている 2. 音楽心理学の研究方法を理解できている 3. 音楽心理学研究の事例を正確にわかりやすく発表できる 4. 楽理研究について理解できている 5. 楽理研究の事例を正確にわかりやすく発表できる <p>1 から 5 の 5 項目全てを満たしていれば【卓越している】。4 項目までできていれば【かなり上にある】。3 項目までできていれば【やや上にある】と評価する。2 項目で【その水準にある】とする。</p> <p>(7) 履修上の注意</p> <p>楽典及び和声学等の音楽理論の基礎を習得済であることを前提に授業を進める。に授業を進める。</p> <p>【参考文献】</p> <p>フィリップ・ボール (2018). 音楽の科学 河出書房新社</p> <p>P. N. ジュスリン、J. A. スロボダ 編集 (2008). 音楽と感情の心理学 誠信書房</p> | <p>(5) 成績評価の基準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 音楽理論・音響学 1. 音楽理論・音響学の基礎的分析手法を理解できている 2. 音楽心理学の研究方法を理解できている 3. 音楽心理学研究の事例を正確にわかりやすく発表できる 4. 楽理研究について理解できている 5. 楽理研究の事例を正確にわかりやすく発表できる <p>1 から 5 の 5 項目を満たしていれば「かなり上にある」。4 項目までできていれば「やや上にある」。3 項目までできていれば「水準にある」と評価する。</p> <p>(7) 履修上の注意</p> <p>学部における「音楽基礎」または「音楽理論基礎」程度の講義を受講済みであることを前提に授業を進める。</p> <p>【参考文献】</p> <p>その都度紹介する。</p> |
| <p>野外教育グループカウンセリング演習</p> <p>【参考文献】</p> <p>木下康仁著, グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践, 弘文堂, 2003. 2,000 円 + 税</p> <p>大久保街亜・岡田謙介著, 伝えるための心理統計, 勁草書房, 2012. 2,800 円 + 税</p> <p>竹内理・水本篤編著, 外国語教育研究ハンドブック【改訂版】, 2014. 3,500 円 + 税</p> | <p>野外教育グループカウンセリング演習</p> <p>【参考文献】</p> <p>適宜紹介する。</p> |
| <p>比較教育学特論</p> <p>(4) 成績評価の基準</p> <p>成績評価は授業内課題(100%)とする。課題は比較教育学の理論あるいは方法論的な課題を考察したレポートを提出してください。</p> <p>得点率による評価基準は次のとおりとする。</p> | <p>比較教育学特論</p> <p>(4) 成績評価の基準</p> <p>成績評価は授業内課題(100%)とする。課題は比較教育学の理論あるいは方法論的な課題を考察したレポートを提出してください。</p> |

| | |
|--|--|
| <p>90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。</p> <p>(5) 成績評価の基準</p> <p>・比較教育学の理論あるいは方法論的な到達点と課題が適切に整理できていて、異なる学校教育制度とカリキュラムが子どもの心理面と身体面の発達及び学習の過程に与える影響について、正確な事実やデータに基づいて比較分析できる場合には「卓越している」と評価する。</p> <p>・比較教育学の理論あるいは方法論的な到達点と課題が適切に整理できていて、異なる学校教育制度とカリキュラムが子どもの心理面と身体面の発達及び学習の過程に与える影響について、正確な事実やデータに基づいて比較分析する視点を有している場合には「かなり上にある」と評価する</p> <p>・比較教育学の理論あるいは方法論的な到達点と課題がおおむね整理できていて、異なる学校教育制度とカリキュラムが子どもの心理面と身体面の発達及び学習の過程に与える影響について、正確な事実やデータに基づいて比較分析する視点を有している場合には「やや上にある」と評価する</p> <p>・比較教育学の理論あるいは方法論的な到達点と課題がおおむね整理できている場合には「その水準にある」と評価する</p> | <p>(5) 成績評価の基準</p> <p>・得点率による評価基準は次のとおりとする。90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。</p> <p>・成績評価の基準は次のとおりである。比較教育学の歴史的展開を正確に理解できるか、比較教育学が射程とする学術研究の蓄積を活用できているか、比較教育学の理論あるいは方法論的な到達点と課題が適切に整理できているかについて、すべての項目を満たしている場合には「卓越している」あるいは「かなり上にある」と評価する。</p> |
| <p>比較教育学演習</p> <p>(4) 成績評価の基準</p> <p>成績評価はレポート課題(100%)とする。課題は①地域研究②二国間比較③多国間比較から一つ選択し、特定のトピックについて学校制度やカリキュラムの特徴を述べたうえで比較教育学の視点から分析したレポートを提出してください。</p> <p>得点率による評価基準は次のとおりとする。</p> <p>90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。</p> <p>(5) 成績評価の基準</p> <p>・各国の教育制度の情報を正確かつ適切に収集でき、ISCED等の統一形式の意義を理解し、目的に応じて比較対象のレイヤーを揃えて的確に分析できる場合には「卓越している」と評価する。</p> | <p>比較教育学演習</p> <p>(4) 成績評価の基準</p> <p>成績評価はレポート課題(100%)とする。課題は①地域研究②二国間比較③多国間比較から一つ選択し、特定のトピックについて学校制度やカリキュラムの特徴を述べたうえで比較教育学の視点から分析したレポートを提出してください。</p> <p>(5) 成績評価の基準</p> <p>・得点率による評価基準は次のとおりとする。</p> <p>90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。</p> <p>・成績評価の基準は次のとおりである。各国の教育制度の情報を正確かつ適切に収集でき</p> |

| | |
|--|--|
| <p>・各国の教育制度の情報を収集でき、ISCED等の統一形式の意義を理解し、目的に応じて比較対象のレイヤーを揃えて的確に分析できる場合には「かなり上にある」と評価する。</p> <p>・ISCED等の統一形式の意義をおおむね理解し、目的に応じて比較対象のレイヤーを揃えて分析できる場合には「やや上にある」と評価する。</p> <p>・ISCED等の統一形式の意義をおおむね理解し、比較対象のレイヤーを揃えて分析できる場合には「その水準にある」と評価する。</p> | <p>るか、ISCED等の統一形式の意義を理解し、適切に活用できるか、比較対象のレイヤーを揃えて的確に分析できるかについて、すべての項目を満たしている場合には「卓越している」あるいは「かなり上にある」と評価する。</p> |
| <p>国際精神保健学特論 【教科書】 独自に作成したプリントを配布する。</p> <p>【参考文献】 国際保健医療学会（2013）国際保健医療学、杏林書院 他</p> | <p>国際精神保健学特論 【教科書】 特になし。</p> <p>【参考文献】 適宜指示する。</p> |
| <p>国際精神保健学特論 【教科書】 独自に作成したプリントを配布する。</p> <p>【参考文献】 国際保健医療学会（2013）国際保健医療学、杏林書院</p> | <p>国際精神保健学演習 【教科書】 特になし。</p> <p>【参考文献】 適宜指示する。</p> |
| <p>認知工学特論 【参考文献】 大島純・益川弘如（編著），学びのデザイン：学習科学，ミネルヴァ書房，2016年，2,700円＋税</p> | <p>認知工学特論 【参考文献】 授業中に適宜紹介する</p> |
| <p>認知工学演習 【参考文献】 大島純・益川弘如（編著），学びのデザイン：学習科学，ミネルヴァ書房，2016年，2,700円＋税</p> | <p>認知工学演習 【参考文献】 授業中に適宜紹介する</p> |
| <p>学校臨床心理学演習（教育分野に関する理論と支援の展開） 【参考文献】 かしまえりこ・神田橋條治（2006）スクールカウンセリングモデル100例 創元社 小林 宏（2012）学校におけるこころの危機対応ワークブック 金子書房 上地安昭（2003）教師のための学校危機対応実践マニュアル 金子書房 滝川一廣（2017）子どものための精神医学 医学書院</p> | <p>学校臨床心理学演習（教育分野に関する理論と支援の展開） 【参考文献】 授業の中で適宜紹介する</p> |

| | |
|--|---|
| <p>教育心理学特論 【参考文献】 <u>熊谷龍一・荘島宏二郎 (2018). 教育心理学のための統計学 誠信書房 他</u></p> | <p>教育心理学特論 【参考文献】 <u>内容に応じて随時紹介する。</u></p> |
| <p>教育心理学演習 【参考文献】 <u>熊谷龍一・荘島宏二郎 (2018). 教育心理学のための統計学 誠信書房 他</u></p> | <p>教育心理学演習 【参考文献】 <u>内容に応じて随時紹介する。</u></p> |
| <p>司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開 (4) 成績評価の方法 1) <u>100点を満点とする期末試験により評価を行う。</u> 2) <u>得点率による評価基準は次のとおりとする。</u> 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可</p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>期末テストにおいて、授業で解説した内容と同レベルの内容が書かれていれば「水準にある」、より高いレベルの内容が書かれていれば「かなり上にある」、やや高度なレベルの内容が書かれていれば「やや上にある」、非常に高度なレベルの内容が書かれていれば「卓越している」。</u></p> <p>(6) 事前事後学習の内容 <u>犯罪心理学関係の概説書を事前に読んでおくこと。</u></p> <p>(7) 履修上の注意 <u>積極的な参加を期待する。</u></p> <p>【教科書】 <u>越智啓太 (2012) Progress & Applicatio 犯罪心理学 サイエンス社</u></p> <p>【参考文献】 <u>越智啓太 (2013) ケースで学ぶ犯罪心理学 北大路書房</u></p> | <p>司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開 (4) 成績評価の方法 1) <u>最終時限に行う試験により評価を行う。</u> 2) <u>得点率による評価基準は次のとおりとする。</u> 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可</p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>授業において学んだことを理解しているか、重要な点を身に付けているかを中心に試験により評価を行う。</u></p> <p>(6) 事前事後学習の内容 <u>犯罪心理学関係の概説書を事前に読んでおくことが望ましい。</u></p> <p>(7) 履修上の注意 <u>特になし</u></p> <p>【教科書】 <u>プリント、パワーポイント上の資料をもとに授業を行う。教科書は用いない。</u></p> <p>【参考文献】 <u>犯罪心理学 越智啓太著 サイエンス社</u> <u>ケースで学ぶ犯罪心理学 越智啓太著 北大路書房</u></p> |
| <p>社会心理学特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開) 【参考文献】 <u>池田謙一・唐沢穰・工藤恵理子・村本由紀子 (2019). 社会心理学：補訂版 有斐閣 3,456 円</u></p> | <p>社会心理学特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開) 【参考文献】 <u>授業時に指示する。</u></p> |

| | |
|--|---|
| <p>心の健康教育に関する理論と実践</p> <p>【教科書】 <u>小泉令三（2011）社会性と情動の学習の導入と実践 ミネルヴァ書房</u></p> <p>【参考文献】 <u>小泉令三・山田洋平（2011）社会性と情動の学習の進め方 小学校編 ミネルヴァ書房</u> <u>小泉令三・山田洋平（2011）社会性と情動の学習の進め方 中学校編 ミネルヴァ書房</u> <u>窪田由紀他（2016）学校における自殺予防教育のすすめ方 遠見書房</u> <u>窪田由紀他（2016）災害に備える心理教育 今日からはじめる心の減災 ミネルヴァ書房</u> <u>山崎勝之・戸田有一・渡辺弥生（2013）世界の学校予防教育 金子書房</u> <u>文部科学省（2017）小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編 東洋館出版社</u> <u>文部科学省（2017）中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編 東洋館出版社</u> <u>文部科学省（2010）生徒指導提要 教育図書</u></p> | <p>心の健康教育に関する理論と実践</p> <p>【教科書】 <u>指定しない</u></p> <p>【参考文献】 <u>授業で適宜紹介する</u></p> |
| <p>精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開） （7）履修上の注意</p> <p><u>・授業は、受講者が行った課題の発表とそれに基づくディスカッションで展開する。授業にあたっては、出された課題を行うと共に、発表用資料を準備しておくこと。</u></p> <p><u>・ディスカッションへの積極的な参加を期待する。</u></p> <p>【教科書】 <u>加藤伸勝（2013）精神医学 第12版 金芳堂</u></p> <p>【参考文献】 <u>下山晴彦・中嶋義文（2016）公認心理師必携 精神医療・臨床心理の知識と技法 医学書院</u></p> | <p>精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開） （7）履修上の注意</p> <p>【教科書】 <u>後日指定する。</u></p> <p>【参考文献】 <u>内容に応じて随時紹介する。</u></p> |
| <p>認知心理学特論</p> <p>【参考文献】</p> | <p>認知心理学特論</p> <p>【参考文献】</p> |

| | |
|---|--|
| 石川幹人 2006 心と認知の情報学 勁草書房 | 適宜紹介する |
| 認知心理学演習 【参考文献】 渡辺 茂・小島祥三 2007 脳科学と心の進化 岩波書房 | 認知心理学演習 【参考文献】 適宜紹介する |
| 発達心理学特論 【参考文献】 ゴスワミ, U. 1998/2003 子どもの認知発達 新曜社 | 発達心理学特論 【参考文献】 適宜紹介する |
| 発達心理学演習 【参考文献】 トマセロ, M. 2008/2013 コミュニケーションの起源を探る 勁草書房 | 発達心理学演習 【参考文献】 適宜紹介する |
| 臨床心理学特論 I 【参考文献】 ジェラルド・コウリー他 (2004). 援助専門家のための倫理問題ワークブック 創元社 マリアン・コーリィ, ジェラルド・コーリィ (2004). 心理援助の専門家として働くために—臨床心理士・カウンセラー・PSW の実践テキスト— 金剛出版 日本臨床心理士資格認定協会 (2017). 新・臨床心理士になるために平成 29 年度版 誠信書房 金沢吉展 (1998). カウンセラー専門家としての条件 誠信書房 金子和夫他 (2016) 新版 心の専門家が会う法律 臨床実践のために 誠信書房 | 臨床心理学特論 I 【参考文献】 ジェラルド・コウリー他 (2004). 援助専門家のための倫理問題ワークブック 創元社 日本臨床心理士資格認定協会 (2017). 新・臨床心理士になるために平成 29 年度版 誠信書房 |
| 臨床心理学特論 II 【参考文献】 三田村仰 (2017). はじめてまなぶ行動療法 金剛出版 3,456 円 Mazur, J. E. (2008). メイザーの学習と行動 二瓶社 4,320 円 島宗理 (2014). 使える行動分析学: じぶん実験のすすめ 筑摩書房 864 円 | 臨床心理学特論 II 【参考文献】 メイザーの学習と行動 (磯博行・坂上貴之・川合伸幸 訳) 二瓶社 (4200 円) 行動分析学入門 (杉山尚子ほか 著) 産業図書 (3600 円) 学習の心理学 (今田寛 著) 培風館 (1995 円) |
| 臨床心理査定演習 II 【教科書】 『ロールシャッハ・テスト ワークブック (第 5 版)』 ジョン・E・エクスナー著 中村紀子・西尾博行・津川律子監訳 金剛出版 【参考文献】 『ロールシャッハの解釈』 | 臨床心理査定演習 II 【教科書】 なし 【参考文献】 |

| | |
|---|---|
| <p>ジョン・E・エクスマー著 中村紀子・野田昌道監訳 金剛出版 定価：8600 円（税込 9288 円）⇒割引後 7430 円 『ロールシャッハ形態水準ポケットガイド 第3版』（構造一覧表集計 CD 付） ジョン・E・エクスマー著 中村紀子ほか監訳 エクスマージャパンアソシエイツ 定価：4000 円⇒割引なし</p> | <p>PF スタディ 絵画欲求不満テスト解説書 三京房 精研式文章完成法テスト解説 ー成人用ー 金子書房</p> |
| <p>臨床心理面接特論 I（心理支援に関する理論と実践）</p> <p>【参考文献】 斎藤清二（2018）. 総合臨床心理学原論：サイエンスとアートの融合のために 北大路書房 2,376 円</p> | <p>臨床心理面接特論 I（心理支援に関する理論と実践）</p> <p>【参考文献】 指定しない</p> |
| <p>臨床心理面接特論 II</p> <p>【参考文献】 飽田典子 1999 遊戯法 子どもの心理臨床入門 新曜社 熊倉伸宏 2003 面接法 新興医学出版社 熊倉伸宏 2012 面接法 方法論的意識をめぐって 新興医学出版社 熊倉伸宏 2005 精神疾患の面接法 新興医学出版社 土居健郎 1992 新訂 方法としての面接 臨床家のために 医学書院</p> | <p>臨床心理面接特論 II</p> <p>【参考文献】 飽田典子 1999 遊戯法 子どもの心理臨床入門 新曜社 3200 円</p> |
| <p>心理学理論研究 (4) 成績評価の方法 毎回の授業におけるディスカッションへの参加(50%)と期末レポート(50%)によって評価する。 得点率による評価基準は次のとおりとする。90%以上：秀，89-80%：優，79-70%：良，69-60%：可，59%以下：不可。</p> <p>(5) 成績評価の基準 【卓越している】授業での討論に毎回、的確に参加し、心理学に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考え、期末レポートの内容が極めて優れている場合は、極めて高い水準にある。 【かなり上にある】授業での討論に毎回、的確に参加し、心理学に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考</p> | <p>心理学理論研究 (4) 成績評価の方法 毎回の授業におけるディスカッションへの参加と期末レポートによって評価する。</p> <p>(5) 成績評価の基準 授業での討論に毎回、的確に参加し、期末レポートの内容が極めて優れている場合は『卓越している』、討論に3/4程度、的確に参加し、期末レポートの内容がかなり優れている場合は『かなり上にある』、討論に2/4程度、的確に参加し、期末レポートの内容がやや優れている場合は『やや上にある』、討論に1/4程度、的確に参加し、期末レポートの内容がその水準にある場合は『その水準にある』と評価する。</p> |

| | |
|--|---|
| <p>え、期末レポートの内容がかなり優れている場合は、非常に高い水準にある。</p> <p><u>【やや上にある】</u> 授業での討論に毎回、的確に参加し、心理学に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考え、期末レポートの内容が優れている場合は、高い水準にある。</p> <p><u>【その水準にある】</u> 授業での討論に毎回、的確に参加し、心理学に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考え、期末レポートの内容が相当な水準にある場合は、一定水準にある。</p> | |
| <p>心理学総合演習</p> <p>(4) 成績評価の方法 毎回の授業におけるコメントとその発表(70%)、およびディスカッションへの参加(30%)によって評価する。 得点率による評価基準は次のとおりとする。90%以上：秀，89-80%：優，79-70%：良，69-60%：可，59%以下：不可。</p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>【卓越している】</u> 授業での発表と討論に毎回、的確に参加し、心理学に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考え、心理学における実験研究を遂行する力を総合して、極めて高い水準にある。 <u>【かなり上にある】</u> 授業での発表と討論に毎回、的確に参加し、心理学に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考え、心理学における実験研究を遂行する力を総合して、非常に高い水準にある。 <u>【やや上にある】</u> 授業での発表と討論に毎回、的確に参加し、心理学に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考え、心理学における実験研究を遂行する力を総合して、高い水準にある。 <u>【その水準にある】</u> 授業での発表と討論に毎回、的確に参加し、心理学に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自</p> | <p>心理学総合演習</p> <p>(4) 成績評価の方法 毎回の授業におけるコメントとその発表、およびディスカッションへの参加によって評価する。</p> <p>(5) 成績評価の基準 授業での討論に毎回、的確に参加し、コメントの内容が極めて優れている場合は『卓越している』、討論に3/4程度、的確に参加し、コメントの内容がかなり優れている場合は『かなり上にある』、討論に2/4程度、的確に参加し、コメントの内容がやや優れている場合は『やや上にある』、討論に1/4程度、的確に参加し、コメントの内容がその水準にある場合は『その水準にある』と評価する。</p> |

| | |
|---|--|
| <p>律的に考え、心理学における実験研究を遂行する力を総合して、一定水準にある。</p> | |
| <p>実験心理学実習 (4) 成績評価の方法 ●以下を総合して判定する。 <u>授業への取り組み方 (50%)</u>、<u>レポート (50%)</u> ※評価割合は若干の調整を行うことがある。 ●得点率による評価基準は次のとおりとする。 <u>90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 【卓越している】<u>実験心理学に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考え、心理学実験研究を遂行する力を総合して、極めて高い水準にある。</u> 【かなり上にある】<u>実験心理学に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考え、心理学実験研究を遂行する力を総合して、非常に高い水準にある。</u> 【やや上にある】<u>実験心理学に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考え、心理学実験研究を遂行する力を総合して、高い水準にある。</u> 【その水準にある】<u>実験心理学に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考え、心理学実験研究を遂行する力を総合して、一定水準にある。</u></p> | <p>実験心理学実習 (4) 成績評価の方法 <u>毎回の授業におけるディスカッションへの参加と、成果としてのレポート論文によって評価する。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>授業での討論に毎回、的確に参加し、レポート論文の内容が極めて優れている場合は『卓越している』、討論に3/4程度、的確に参加し、レポート論文の内容がかなり優れている場合は『かなり上にある』、討論に2/4程度、的確に参加し、レポート論文の内容がやや優れている場合は『やや上にある』、討論に1/4程度、的確に参加し、レポート論文の内容がその水準にある場合は『その水準にある』と評価する。</u></p> |
| <p>社会心理学実習 (3) 授業計画 1. ガイダンス：社会心理学における研究とは 2. 問題の発見(1)：自らの問題意識を整理し発表する 3. 問題の発見(2)：グループ・ディスカッションによって問題を深める 4. 先行研究の探索と研究テーマの選定(1)：先行研究の探索の仕方を学ぶ 5. 先行研究の探索と研究テーマの選定(2)：先行研究を探索し、問題を相対化する</p> | <p>社会心理学実習 (3) 授業計画 1. ガイダンス：社会心理学における研究とは 2. 問題の発見(1)：自らの問題意識を整理し発表する 3. 問題の発見(2)：グループ・ディスカッションによって問題を深める 4. 先行研究の探索と研究テーマの選定(1)：先行研究の探索の仕方を学ぶ 5. 先行研究の探索と研究テーマの選定(2)：先行研究を探索し、問題を相対化する</p> |

| | |
|---|--|
| <p>6. 仮説の設定(1)：問題をリサーチ・クエスチョンとして表現する</p> <p>7. 仮説の設定(2)：リサーチ・クエスチョンに基づき、仮説を立てる</p> <p>8. 仮説の設定(3)：グループ・ディスカッションによって、仮説を確定する</p> <p>9. データ収集方法と具体的な実施手続きの決定(1)：データ収集の方法を学ぶ（実験法）</p> <p>10. データ収集方法と具体的な実施手続きの決定(2)：データ収集の方法を学ぶ（調査法）</p> <p>11. データ収集と解析の方法と具体的な実施手続きの決定(4)：グループ・ディスカッションによって、データ収集と解析の方法を確定する</p> <p>12. 実験・調査の準備(1)：仮説検討に適した実験シナリオ・質問紙を構成する</p> <p>13. 実験・調査の準備(2)：グループ・ディスカッションによって、実験シナリオ・質問紙を確定する</p> <p>14. 実験・調査の準備(3)：予備実験・調査の実施とデータの統計解析をする</p> <p>15. 実験・調査の準備(4)：予備実験・調査結果を基に、実験シナリオ・質問紙を改善する</p> <p>授業終了後に課される、1～15 までを通して練られた「研究計画書」にて評価を実施する。</p> <p><u>※受講者の人数、関心、時事的な背景に応じて内容を変更することがある。</u></p> <p>(4) 成績評価の方法</p> <p>授業のねらいで示したような社会心理学に関する研究のノウハウが身についたかどうかについて、発表および討論への積極的参加（50%）と研究計画書の内容（50%）により評価する。</p> <p><u>得点率による評価基準は次のとおりとする。</u></p> <p><u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準</p> <p>最終レポートについては、「問題」「目的」「方法」「結果」「考察」「引用文献」のそれぞれが明確に項目立てされており、各項目</p> | <p>6. 仮説の設定(1)：問題をリサーチ・クエスチョンとして表現する</p> <p>7. 仮説の設定(2)：リサーチ・クエスチョンに基づき、仮説を立てる</p> <p>8. 仮説の設定(3)：グループ・ディスカッションによって、仮説を確定する</p> <p>9. データ収集方法と具体的な実施手続きの決定(1)：データ収集の方法を学ぶ（実験法）</p> <p>10. データ収集方法と具体的な実施手続きの決定(2)：データ収集の方法を学ぶ（調査法）</p> <p>11. データ収集と解析の方法と具体的な実施手続きの決定(4)：グループ・ディスカッションによって、データ収集と解析の方法を確定する</p> <p>12. 実験・調査の準備(1)：仮説検討に適した実験シナリオ・質問紙を構成する</p> <p>13. 実験・調査の準備(2)：グループ・ディスカッションによって、実験シナリオ・質問紙を確定する</p> <p>14. 実験・調査の準備(3)：予備実験・調査の実施とデータの統計解析をする</p> <p>15. 実験・調査の準備(4)：予備実験・調査結果を基に、実験シナリオ・質問紙を改善する</p> <p>授業終了後に課される、1～15 までを通して練られた「研究計画書」にて評価を実施する。</p> <p>(4) 成績評価の方法</p> <p>授業のねらいで示したような社会心理学に関する研究のノウハウが身についたかどうかについて、発表および討論への積極的参加（50%）と研究計画書の内容（50%）により評価する。</p> <p>(5) 成績評価の基準</p> <p>最終レポートについては、「問題」「目的」「方法」「結果」「考察」「引用文献」のそれぞれが明確に項目立てされており、各項目</p> |
|---|--|

| | |
|---|---|
| <p>について以下のような内容が記述されていることが必要である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 問題・目的で、当該レポートで何を問題・目的とするのかが明確に記述されている 2. 方法で、実験・調査の対象、材料、手続き等の要点がもれなく記述されている 3. 結果が、実験・調査の結果について事実即して忠実に記述されている 4. 考察で、得られた結果が論理的に解釈され、結論に至るまでの過程が記述されている 5. 引用文献が、所定の表記法（手引き参照）で記述されている 6. レポート全体が、自分の発見などを人に伝えるための適切な形式になっている <p><u>1～6 までの 5 項目を満たしていれば「卓越している」、4 項目を満たしていれば「かなり上にある」、3 項目であれば「やや上にある」、2 項目であれば「その水準にある」と評価する。</u></p> <p>【教科書】 <u>三浦麻子，なるほど！心理学研究法（心理学ベーシック 第 1 巻），978-4762829666，北大路書房，2017</u></p> | <p>について以下のような内容が記述されていることが必要である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 問題・目的で、当該レポートで何を問題・目的とするのかが明確に記述されている 2. 方法で、実験・調査の対象、材料、手続き等の要点がもれなく記述されている 3. 結果が、実験・調査の結果について事実即して忠実に記述されている 4. 考察で、得られた結果が論理的に解釈され、結論に至るまでの過程が記述されている 5. 引用文献が、所定の表記法（手引き参照）で記述されている 6. レポート全体が、自分の発見などを人に伝えるための適切な形式になっている <p><u>1～6 までの 5 項目を満たしていれば「かなり上にある」、4 項目であれば「やや上にある」、3 項目であれば「その水準にある」と評価する。</u></p> <p>【教科書】 <u>特に指定しない</u></p> |
| <p>実験心理学研究</p> <p>(4) 成績評価の方法 毎回の授業におけるディスカッションへの参加(50%)と、期末のレポート(50%)によって評価する。 <u>得点率による評価基準は次のとおりとする。90%以上：秀，89-80%：優，79-70%：良，69-60%：可，59%以下：不可。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 【卓越している】 授業での討論に毎回、的確に参加し、実験心理学に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考え、期末レポートの内容が極めて優れている場合は、極めて高い水準にある。 【かなり上にある】 授業での討論に毎回、的確に参加し、実験心理学に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に</p> | <p>実験心理学研究</p> <p>(4) 成績評価の方法 毎回の授業におけるディスカッションへの参加と、期末のレポートによって評価する。</p> <p>(5) 成績評価の基準 授業での討論に毎回、的確に参加し、期末レポートの内容が極めて優れている場合は『卓越している』、討論に3/4程度、的確に参加し、期末レポートの内容がかなり優れている場合は『かなり上にある』、討論に2/4程度、的確に参加し、期末レポートの内容がやや優れている場合は『やや上にある』、討論に1/4程度、的確に参加し、期末レポートの内容がその水準にある場合は『その水準にある』と評価する。</p> |

| | |
|--|---|
| <p>に考え、期末レポートの内容がかなり優れている場合は、非常に高い水準にある。</p> <p><u>【やや上にある】</u> 授業での討論に毎回、的確に参加し、実験心理学に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考え、期末レポートの内容が優れている場合は、高い水準にある。</p> <p><u>【その水準にある】</u> 授業での討論に毎回、的確に参加し、実験心理学に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考え、期末レポートの内容が相当な水準にある場合は、一定水準にある。</p> | |
| <p>基礎心理学研究 (4) 成績評価の方法 毎回の授業におけるディスカッションへの参加(50%)と、期末のレポート(50%)によって評価する。 得点率による評価基準は次のとおりとする。90%以上：秀，89-80%：優，79-70%：良，69-60%：可，59%以下：不可。</p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>【卓越している】</u> 授業での討論に毎回、的確に参加し、基礎心理学に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考え、期末レポートの内容が極めて優れている場合は、極めて高い水準にある。 <u>【かなり上にある】</u> 授業での討論に毎回、的確に参加し、基礎心理学に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考え、期末レポートの内容がかなり優れている場合は、非常に高い水準にある。 <u>【やや上にある】</u> 授業での討論に毎回、的確に参加し、基礎心理学に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考え、期末レポートの内容が優れている場合は、高い水準にある。 <u>【その水準にある】</u> 授業での討論に毎回、的確に参加し、基礎心理学に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考え、期末レポートの内容が相当な水準にある場合は、一定水準にある。</p> | <p>基礎心理学研究 (4) 成績評価の方法 毎回の授業におけるディスカッションへの参加と、期末のレポートによって評価する。</p> <p>(5) 成績評価の基準 授業での討論に毎回、的確に参加し、期末レポートの内容が極めて優れている場合は『卓越している』、討論に3/4程度、的確に参加し、期末レポートの内容がかなり優れている場合は『かなり上にある』、討論に2/4程度、的確に参加し、期末レポートの内容がやや優れている場合は『やや上にある』、討論に1/4程度、的確に参加し、期末レポートの内容がその水準にある場合は『その水準にある』と評価する。</p> |

| | |
|---|---|
| <p>認知心理学研究 (4) 成績評価の方法 ●以下を総合して判定する。 授業への取り組み方 (50%), レポート (50%) ※評価割合は若干の調整を行うことがある。 ●得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。</p> <p>(5) 成績評価の基準 【卓越している】認知心理学研究に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、極めて高い水準にある。 【かなり上にある】認知心理学研究に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、非常に高い水準にある。 【やや上にある】認知心理学研究に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、高い水準にある。 【その水準にある】認知心理学研究に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、一定水準にある。</p> <p>【教科書】 使用しない。</p> | <p>認知心理学研究 (4) 成績評価の方法 授業での発表と討論5割, 期末レポート5割の比率で総合的に認知心理学研究の理解度を評価する。</p> <p>(5) 成績評価の基準 1. 認知心理学研究の方法を理解できている 2. 認知心理学研究 (眼球運動) について理解できている 3. 認知心理学研究 (眼球運動) の事例を正確にわかりやすく発表できる 4. 認知心理学研究 (3次元動作解析) について理解できている 5. 認知心理学研究 (3次元動作解析) の事例を正確にわかりやすく発表できる</p> <p>1から5の5項目を満たしていれば「かなり上にある」。4項目までできていれば「やや上にある」。3項目までできていれば「水準にある」と評価する。</p> <p>【教科書】 授業時に適宜紹介する。</p> |
| <p>生理心理学研究 (4) 成績評価の方法 ●以下を総合して判定する。 授業への取り組み方 (50%), レポート (50%) ※評価割合は若干の調整を行うことがある。 ●得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。</p> | <p>生理心理学研究 (4) 成績評価の方法 授業での発表と討論5割, 期末レポート5割の比率で総合的に生理心理学研究の理解度を評価する。</p> |

| | |
|---|--|
| <p>(5) 成績評価の基準</p> <p><u>【卓越している】生理心理学研究に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、極めて高い水準にある。</u></p> <p><u>【かなり上にある】生理心理学研究に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、非常に高い水準にある。</u></p> <p><u>【やや上にある】生理心理学研究に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、高い水準にある。</u></p> <p><u>【その水準にある】生理心理学研究に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、一定水準にある。</u></p> <p>【教科書】 使用しない。</p> | <p>(5) 成績評価の基準</p> <p><u>1. 生理心理学の研究方法を理解できている</u></p> <p><u>2. 生理心理学研究（心臓循環器系）について理解できている</u></p> <p><u>3. 生理心理学研究（心臓循環器系）の事例を正確にわかりやすく発表できる</u></p> <p><u>4. 生理心理学研究（呼吸器系）について理解できている</u></p> <p><u>5. 生理心理学研究（呼吸器系）の事例を正確にわかりやすく発表できる</u></p> <p><u>1から5の5項目を満たしていれば「かなり上にある」。4項目までできていれば「やや上にある」。3項目までできていれば「水準にある」と評価する。</u></p> <p>【教科書】 授業時に適宜紹介する。</p> |
| <p>社会心理学研究</p> <p>(3) 授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：社会科学における社会心理学の位置づけ</p> <p>第3回：社会心理学の研究法に関する理論的基盤（概説）</p> <p>第4回：社会心理学の研究法に関する理論的基盤（発表と討論）</p> <p>第5回：社会心理学の研究法に関する理論的基盤（まとめ）</p> <p>第6回：社会的影響過程に関する理論的基盤（概説）</p> <p>第7回：社会的影響過程に関する理論的基盤（発表と討論）</p> <p>第8回：社会的影響過程に関する理論的基盤（まとめ）</p> <p>第9回：対人相互作用に関する理論的基盤（概説）</p> <p>第10回：対人相互作用に関する理論的基盤（発表と討論）</p> <p>第11回：対人相互作用に関する理論的基盤（まとめ）</p> | <p>社会心理学研究</p> <p>(3) 授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：社会科学における社会心理学の位置づけ</p> <p>第3回：社会心理学の研究法に関する理論的基盤（概説）</p> <p>第4回：社会心理学の研究法に関する理論的基盤（発表と討論）</p> <p>第5回：社会心理学の研究法に関する理論的基盤（まとめ）</p> <p>第6回：社会的影響過程に関する理論的基盤（概説）</p> <p>第7回：社会的影響過程に関する理論的基盤（発表と討論）</p> <p>第8回：社会的影響過程に関する理論的基盤（まとめ）</p> <p>第9回：対人相互作用に関する理論的基盤（概説）</p> <p>第10回：対人相互作用に関する理論的基盤（発表と討論）</p> <p>第11回：対人相互作用に関する理論的基盤（まとめ）</p> |

| | |
|---|---|
| <p>第12回：対人相互作用に関する理論的基盤（概説）</p> <p>第13回：集団過程に関する理論的基盤（発表と討論）</p> <p>第14回：集団過程に関する理論的基盤（まとめ）</p> <p>第15回：集団過程に関する社会心理学研究の統合的な議論</p> <p>授業終了後に課される、最終レポートおよび授業での討論の内容によって評価を実施する。</p> <p><u>※受講者の人数、関心、時事的な背景に応じて内容を変更することがある。</u></p> <p>（4）成績評価の方法</p> <p>授業のねらいで示したような社会心理学に関する理論や知見について、授業での発表および討論（50%）、最終レポート（50%）により評価する。</p> <p><u>得点率による評価基準は次のとおりとする。</u></p> <p><u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>（5）成績評価の基準</p> <ol style="list-style-type: none"> <u>1. 社会心理学の研究法を理解出来ている</u> <u>2. 社会的影響過程に関する理論を理解出来ている</u> <u>3. 対人相互作用に関する理論を理解出来ている</u> <u>4. 集団内の個人行動に関する理論を理解出来ている</u> <u>5. 社会の中の人間行動について総合的に理解出来ている。</u> <p><u>1～5までの5項目を満たしていれば「卓越している」、4項目を満たしていれば「かなり上にある」、3項目であれば「やや上にある」、2項目であれば「その水準にある」と評価する。</u></p> <p>【参考文献】</p> <p><u>Van Lange, P. A., Kruglanski, A. W., & Higgins, E. T. (2011). Handbook of theories of social psychology: (Vol. 1, 2). SAGE publications.</u></p> | <p>第12回：対人相互作用に関する理論的基盤（概説）</p> <p>第13回：集団過程に関する理論的基盤（発表と討論）</p> <p>第14回：集団過程に関する理論的基盤（まとめ）</p> <p>第15回：集団過程に関する社会心理学研究の統合的な議論</p> <p>授業終了後に課される、最終レポートおよび授業での討論の内容によって評価を実施する。</p> <p>（4）成績評価の方法</p> <p>授業のねらいで示したような社会心理学に関する理論や知見について、授業での発表および討論（50%）、最終レポート（50%）により評価する。</p> <p>（5）成績評価の基準</p> <ol style="list-style-type: none"> <u>1. 集団の特徴に関する理論を理解出来ている</u> <u>2. 集団と個人に関する理論を理解出来ている</u> <u>3. 集団内の個人行動に関する理論を理解出来ている</u> <u>4. 集団間の関係性に関する理論を理解出来ている</u> <u>5. 集団と人の関係について総合的に理解出来ている。</u> <p><u>1から5までの5項目を満たしていれば「かなり上にある」。4項目なら「やや上にある」。3項目なら「その水準にある」とする。</u></p> <p>【参考文献】</p> <p><u>特には定めない</u></p> |
| <p>グループダイナミクス</p> <p>(3) 授業計画</p> | <p>グループダイナミクス</p> <p>(3) 授業計画</p> |

| | |
|---|--|
| <p>第1回：ガイダンス 第2回：社会科学におけるグループダイナミックスの位置づけと研究法 第3回：個人と集団の関係に関する理論的基盤（概説） 第4回：個人と集団の関係に関する理論的基盤（発表と討論） 第5回：個人と集団の関係に関する理論的基盤（まとめ） 第6回：集団と集団の関係に関する理論的基盤（概説） 第7回：集団と集団の関係に関する理論的基盤（発表と討論） 第8回：集団と集団の関係に関する理論的基盤（まとめ） 第9回：コミュニティの特徴に関する理論的基盤（概説） 第10回：コミュニティの特徴に関する理論的基盤（発表と討論） 第11回：コミュニティの特徴に関する理論的基盤（まとめ） 第12回：コミュニティ活動に関する理論的基盤（概説） 第13回：コミュニティ活動に関する理論的基盤（発表と討論） 第14回：コミュニティ活動に関する理論的基盤（まとめ） 第15回：集団と個人に関するグループダイナミックスの統合的な議論 授業終了後に課される、最終レポートおよび授業での討論の内容によって評価を実施する。 <u>※受講者の人数、関心、時事的な背景に応じて内容を変更することがある。</u></p> <p>(4) 成績評価の方法 授業のねらいで示したようなグループダイナミックスに関する理論や知見について、授業での発表および討論（50%）、最終レポート（50%）により評価する。 <u>得点率による評価基準は次のとおりとする。</u> <u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>1. 個人と集団に関する理論を理解出来ている</u></p> | <p>第1回：ガイダンス 第2回：社会科学におけるグループダイナミックスの位置づけと研究法 第3回：個人と集団の関係に関する理論的基盤（概説） 第4回：個人と集団の関係に関する理論的基盤（発表と討論） 第5回：個人と集団の関係に関する理論的基盤（まとめ） 第6回：集団と集団の関係に関する理論的基盤（概説） 第7回：集団と集団の関係に関する理論的基盤（発表と討論） 第8回：集団と集団の関係に関する理論的基盤（まとめ） 第9回：コミュニティの特徴に関する理論的基盤（概説） 第10回：コミュニティの特徴に関する理論的基盤（発表と討論） 第11回：コミュニティの特徴に関する理論的基盤（まとめ） 第12回：コミュニティ活動に関する理論的基盤（概説） 第13回：コミュニティ活動に関する理論的基盤（発表と討論） 第14回：コミュニティ活動に関する理論的基盤（まとめ） 第15回：集団と個人に関するグループダイナミックスの統合的な議論 授業終了後に課される、最終レポートおよび授業での討論の内容によって評価を実施する。</p> <p>(4) 成績評価の方法 授業のねらいで示したようなグループダイナミックスに関する理論や知見について、授業での発表および討論（50%）、最終レポート（50%）により評価する。</p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>1. コミュニティ活動の特徴に関する理論を理解出来ている</u></p> |
|---|--|

| | |
|---|--|
| <p>2. <u>コミュニティ活動と個人の関係に関する理論を理解出来ている</u></p> <p>3. <u>コミュニティ活動内の個人行動に関する理論を理解出来ている</u></p> <p>4. <u>コミュニティ活動に関する理論を理解出来ている</u></p> <p>5. <u>コミュニティと人の関係について総合的に理解出来ている。</u></p> <p>1から5までの5項目を満たしていれば「卓越している」、4項目なら「かなり上にある」。3項目なら「やや上にある」。2項目なら「その水準にある」とする。</p> <p>【参考文献】 Taylor, M. & Moghaddam, F. (1994). <u>Theories of Intergroup Relations: International Social Psychological Perspectives. Praeger Pub.</u></p> | <p>2. <u>コミュニティ活動と個人の関係に関する理論を理解出来ている</u></p> <p>3. <u>コミュニティ活動内の個人行動に関する理論を理解出来ている</u></p> <p>4. <u>コミュニティ活動に関する理論を理解出来ている</u></p> <p>5. <u>コミュニティと人の関係について総合的に理解出来ている。</u></p> <p>1から5までの5項目を満たしていれば「かなり上にある」。4項目なら「やや上にある」。3項目なら「その水準にある」とする。</p> <p>【参考文献】 特には定めない</p> |
| <p>上級ミクロ経済学 (4) 成績評価の方法 ●以下を総合して判定する。 授業への取り組み方 (70%)、期末テスト (30%) ※評価割合は若干の調整を行うことがある。 ●得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</p> <p>(5) 成績評価の基準 【卓越している】<u>上級ミクロ経済学に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、極めて高い水準にある。</u> 【かなり上にある】<u>上級ミクロ経済学に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、非常に高い水準にある。</u> 【やや上にある】<u>上級ミクロ経済学に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、高い水準にある。</u></p> | <p>上級ミクロ経済学 (4) 成績評価の方法 課題と期末テストで評価する。</p> <p>(5) 成績評価の基準 授業で説明した内容の復習レベルの宿題ができれば「水準にある (可)」, さらに応用レベルの宿題に対できれば「やや上にある (良)」, 応用レベルの宿題が完全にできれば「かなり上にある (優)」, 応用レベルの宿題に優れた水準で対応できれば「卓越している (秀)」。</p> |

| | |
|--|---|
| <p><u>【その水準にある】上級ミクロ経済学に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、一定水準にある。</u></p> <p>【教科書】 <u>Mas-Collel, A., M.D. Whinston, and J.R. Green, Microeconomic Theory, Oxford University Press, 1995.</u> <u>他</u></p> | <p>【教科書】 <u>こちらで講義資料を配布する。</u></p> |
| <p>上級マクロ経済学 (4) 成績評価の方法 宿題を割り当て、授業の中で報告してもらう。その内容により成績を評価する。 ●<u>得点率による評価基準は次のとおりとする。</u> <u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 授業で説明する内容の<u>主要な点を理解し、内容確認レベルの問題を60%程度解くことができれば「水準にある」。</u>授業で説明する内容に関し大部分を理解し、<u>内容確認レベルの問題の大部分を解くことができれば「やや上にある」。</u>さらに、授業の知識を元に、<u>応用レベルの問題をある程度解ければ「かなり上にある」。</u>応用レベルの問題を大部分解ければ「卓越している」。</p> <p>【参考文献】 <u>齊藤 誠『新しいマクロ経済学 新版』(有斐閣・2006年)</u> <u>デビッド・ローマー『上級マクロ経済学 第3版』(日本評論社・2010年) ほか</u></p> | <p>上級マクロ経済学 (4) 成績評価の方法 宿題を割り当て、授業の中で報告してもらう。その内容により成績を評価する。</p> <p>(5) 成績評価の基準 授業で説明する内容に関し<u>大まかな理解ができていれば「水準にある(可)」。</u>授業で説明する内容に関し大部分を理解できていれば「<u>やや上にある(良)</u>」。さらに、<u>授業の知識を元に、応用レベルの問題をある程度解ければ「かなり上にある(優)」。</u>応用レベルの問題を大部分解ければ「<u>卓越している(秀)</u>」。</p> <p>【参考文献】 <u>授業中に適宜指定する。</u></p> |
| <p>上級計量経済学</p> <p>(4) 成績評価の方法 小テスト(40点)と期末試験(60点)により評価する。 <u>※評価割合は若干の調整を行うことがある。</u> ●<u>得点率による評価基準は次のとおりとする。</u> <u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> | <p>上級計量経済学</p> <p>(4) 成績評価の方法 小テスト(40点)と期末試験(60点)により評価する。</p> |

| | |
|--|--|
| <p>財務会計特論</p> <p>(4) 成績評価の方法 レポート（10回）を基に評価する。 ●得点率による評価基準は次のとおりとする。 <u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>【卓越している】財務会計の基礎的な知識をもとにして、実社会での事例に対しての総合的な思考が、極めて高い水準にある。</u> <u>【かなり上にある】財務会計の基礎的な知識をもとにして、実社会での事例に対しての総合的な思考が、非常に高い水準にある。</u> <u>【やや上にある】財務会計の基礎的な知識をもとにして、実社会での事例に対しての総合的な思考が、高い水準にある。</u> <u>【その水準にある】財務会計の基礎的な知識をもとにして、実社会での事例に対しての総合的な思考が、一定水準にある。</u></p> <p>【参考文献】 <u>伊藤邦雄『新・現代会計入門 第3版』日本経済新聞社、2018年。</u></p> | <p>財務会計特論</p> <p>(4) 成績評価の方法 レポート（10回）を基に評価する。</p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>講義内容レベルのレポートができれば「水準にある（可）」、さらに応用レベルのレポートができれば「やや上にある（良）」、応用レベルのレポートができれば「かなり上にある（優）」、応用レベルのレポートに優れた考察が加えられれば「卓越している（秀）」。</u></p> <p>【参考文献】 <u>講義中に適宜指示します。</u></p> |
| <p>法制度の経済分析特論</p> <p>(4) 成績評価の方法 トピックス毎に具体的な課題を5～6回提示し、講義で紹介した検討材料を用いて検討した内容を、レポートとして提出する。その内容によって、成績評価を行う。得点率による評価基準は次のとおりとする。 <u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> | <p>法制度の経済分析特論</p> <p>(4) 成績評価の方法 トピックス毎に具体的な課題を5～6回提示し、講義で紹介した検討材料を用いて検討した内容を、レポートとして提出する。その内容によって、成績評価を行う。</p> |
| <p>環境経済学特講</p> <p>(4) 成績評価の方法 <u>レポートまたは期末試験（100%）を総合して判定する。</u> <u>※評価割合は若干の調整を行うことがある。</u> <u>得点率による評価基準は次のとおりとする。</u> <u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> | <p>環境経済学特講</p> <p>(4) 成績評価の方法 <u>レポート（2回程度；第8回と第15回など）、期末試験（もしくはレポートで代替）を基に評価する。</u></p> |

| | |
|---|--|
| <p>(5) 成績評価の基準</p> <p><u>【卓越している(秀)】環境評価手法に関する基礎的な知識をもとに、理論を理解し、実際に環境評価の設計を行い、実証分析で適切な評価や考察を行う一連の力を総合して、極めて高い水準にある。</u></p> <p><u>【かなり上にある(優)】環境評価手法に関する基礎的な知識をもとに、理論を理解し、実際に環境評価の設計を行い、実証分析で適切な評価や考察を行う一連の力を総合して、非常に高い水準にある。</u></p> <p><u>【やや上にある(良)】環境評価手法に関する基礎的な知識をもとに、理論を理解し、実際に環境評価の設計を行い、実証分析で適切な評価や考察を行う一連の力を総合して、高い水準にある。</u></p> <p><u>【その水準にある(可)】環境評価手法に関する基礎的な知識をもとに、理論を理解し、実際に環境評価の設計を行い、実証分析で適切な評価や考察を行う一連の力を総合して、一定水準にある。</u></p> <p>【参考文献】 Haab, T. C. and McConnell, K. E. (2003) Valuing Environmental and Natural Resources: The Econometrics of Non-Market Valuation (New Horizons in Environmental Economics), Edward Elgar. <u>他</u></p> | <p>(5) 成績評価の基準</p> <p><u>授業で説明した内容の復習レベルの宿題ができれば「水準にある(可)」, さらに応用レベルの宿題に対応できれば「やや上にある(良)」, 応用レベルの宿題が完全にできれば「かなり上にある(優)」, 応用レベルの宿題に優れた水準で対応できれば「卓越している(秀)」。</u></p> <p>【参考文献】 ・Haab, T. C. and McConnell, K. E. (2003) Valuing Environmental and Natural Resources: The Econometrics of Non-Market Valuation (New Horizons in Environmental Economics), Edward Elgar. <u>・適宜紹介します。</u></p> |
| <p>経済政策演習</p> <p>(4) 成績評価の方法</p> <p><u>① 実習の取組み・報告内容(70%)、最終レポート(30%)の評価割合で総合的に評価する</u></p> <p><u>※ただし、評価割合は若干の調整を行うことがある。</u></p> <p><u>② 得点率による評価基準は次の通りとする</u></p> <p><u>90%以上=秀、80~89%=優、70~79%=良、60~69%=可、59%以下=不可</u></p> <p>【教科書】 <u>テーマに合わせ、プリントを配付する。</u></p> <p>【参考文献】 <u>宇波弘貴編著「図説 日本の財政 <平成30年版>」財経詳報社</u></p> | <p>経済政策演習</p> <p>(4) 成績評価の方法</p> <p><u>実習の取組み、報告、最終レポートの内容を踏まえて総合的に評価する。</u></p> <p>【教科書】 <u>授業において指示する。</u></p> <p>【参考文献】 <u>なし</u></p> |

| | |
|---|---|
| <p>山沖義和・茶野努編著「日本版ビッグバン 以後の金融機関経営：金融システム改革法 の影響と課題」勁草書房</p> | |
| <p>社会政策演習 (4) 成績評価の基準 ▼成績評価の方法 授業への貢献 (40%)、社会調査の取り組み (30%)、課題および報告書の内容 (30%) をふまえて、総合的に評価します。 ▼得点率による評価基準は次の通りとしま す。 90%以上=秀、89-80%=優、79-70%= 良、69-60%=可、59%以下=不可</p> | <p>社会政策演習 (4) 成績評価の基準 授業への貢献、社会調査の取り組み、課題 および報告書の内容をふまえて、総合的に 評価します。</p> |
| <p>公共経済学特講 (4) 成績評価の基準 期末試験を基に評価し、得点率による評価 基準は次のとおりとする。 90%以上：秀、89-80%：優、79-70%： 良、69-60%：可、59%以下：不可</p> | <p>公共経済学特講 (4) 成績評価の基準 授業への貢献、社会調査の取り組み、課題 および報告書の内容をふまえて、総合的に 評価します。</p> |
| <p>都市政策特講 (4) 成績評価の基準 毎回の講義におけるディスカッション (30%)と提出課題 (70%)を勘案して成 績評価を行ないます。 得点率による評価基準は次のとおりとす る。 90%以上は秀、89-80%は優、79-70%は 良、69-60%は可、59%以下は不可。</p> | <p>都市政策特講 (4) 成績評価の基準 毎回の講義におけるディスカッションと提 出課題を勘案して成績評価を行ないます。</p> |
| <p>行動経済学特講 (4) 成績評価の方法 ●以下を総合して判定する。 中間テスト (40%)、自ら実験デザインを構 築するレポート (60%) ※評価割合は若干の調整を行うことがあ る。 ●得点率による評価基準は次のとおりとす る。 90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可</p> <p>(5) 成績評価の基準 【卓越している】行動経済学の基礎的な知 識をもとに、適切な実験データの処理を行 い、論理的・数量的に思考し、新しい視点 からの実験デザインを構築できる極めて高 い水準にある。 【かなり上にある】行動経済学の基礎的な 知識をもとに、適切な実験データの処理を</p> | <p>行動経済学特講 (4) 成績評価の方法 内容の基本的理解と応用力をつけるための 中間テストを実施し、自ら実験デザインを 構築するレポートを期末に提出要求し、そ れぞれ 40%, 60%の割合で総合的に評価しま す。</p> <p>(5) 成績評価の基準 基礎的な専門用語や専門概念を正しく説明 でき応用問題に解答できれば「水準にあ る」。基本的仮説に対応する実験デザインを 適切に構築できれば「やや上にある」。応用 的仮説に対応する実験デザインを適切に構 築できれば「かなり上にある」。新しい視点</p> |

| | |
|---|--|
| <p>行い、論理的・数量的に思考し、応用的仮説に対応する実験デザインを適切に構築できる高い応用力の水準にある。</p> <p>【やや上にある】行動経済学の基礎的な知識をもとに、適切な実験データの処理を行い、論理的・数量的に思考し、基本的仮説に対応する実験デザインを適切に構築できる高い水準にある。</p> <p>【その水準にある】行動経済学の基礎的な知識をもとに、適切な実験データの処理を行い、論理的・数量的に思考し、応用問題に解答でき、既存の実験デザインを評価できれば、一定の水準にある。</p> <p>【教科書】 『行動経済学』大垣昌夫・田中沙織著、有斐閣 2018。また、関連する論文として『Handbook of Experimental Economics, volume2』, J. Kagel・A. Roth 著, Princeton Univ. Press 2016 の収録論文を参照する。</p> | <p>からの実験デザインを構築できれば「卓越している」とします。</p> <p>【教科書】 講義において、トピックに関連する基本的な先行研究論文を適宜選別して指示します。</p> |
| <p>ファイナンス論特講 (4) 成績評価の方法</p> <p>●以下を総合して判定する。 レポート (80%)、プログラミング実習の課題 (20%) レポートは1回の授業に付き1問程度出題する。 ※評価割合は若干の調整を行うことがある。 ●得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</p> <p>(5) 成績評価の基準 【卓越している】講義の内容を理解しレポートや課題が概ね9割程度でき、独自の問題を見つけて取り組み、その問題の解を導くことができれば、極めて高い水準にある。 【かなり上にある】講義の内容を理解しレポートや課題が概ね8割程度でき、独自の問題を見つけて取り組み、非常に高い水準にある。 【やや上にある】講義の内容を理解しレポートや課題が概ね7割程度できれば、高い水準にある。</p> | <p>ファイナンス論特講 (4) 成績評価の方法 レポート (3回) を基に評価する。</p> <p>(5) 成績評価の基準 授業で説明した内容の復習レベルの宿題ができれば「水準にある (可)」, さらに応用レベルの宿題に対応できれば「やや上にある (良)」, 応用レベルの宿題が完全にできれば「かなり上にある (優)」, 応用レベルの宿題に優れた水準で対応できれば「卓越している (秀)」。</p> |

| | |
|---|---|
| <p><u>【その水準にある】講義の内容を理解しレポートや課題が概ね6割程度できれば、一定水準にある。</u></p> | |
| <p>恐慌論 (4) 成績評価の方法 レポート3回(70%)、講義における報告と討論(30%)にもとづいて評価する。 得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>【卓越している】恐慌論に関する基礎的な知識をもとに、事象を論理的かつ歴史的に考察し、課題を総合的にとらえる力が、極めて高い水準にある。</u> <u>【かなり上にある】恐慌論に関する基礎的な知識をもとに、事象を論理的かつ歴史的に考察し、課題を総合的にとらえる力が、非常に高い水準にある。</u> <u>【やや上にある】恐慌論に関する基礎的な知識をもとに、事象を論理的かつ歴史的に考察し、課題を総合的にとらえる力が、高い水準にある。</u> <u>【その水準にある】恐慌論に関する基礎的な知識をもとに、事象を論理的かつ歴史的に考察し、課題を総合的にとらえる力が、一定水準にある。</u></p> <p>【教科書】 宇野弘蔵『恐慌論』(岩波文庫) 宇野弘蔵『経済原論』(岩波文庫) 宇野弘蔵『経済政策論』(弘文堂) 他</p> <p>【参考文献】 守健二編『恐慌論の論点と分析』(創風社) 他</p> | <p>恐慌論 (4) 成績評価の方法 <u>宿題(レポート3回)</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「水準にある」、応用問題が解ければ「やや上にある」 やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、例題からは難しい応用問題が解ければ「卓越している」。</p> <p>【教科書】 宇野弘蔵『恐慌論』(岩波文庫) 宇野弘蔵『経済原論』(岩波文庫) 宇野弘蔵『経済政策論』(弘文堂) その他授業中に指示する。</p> <p>【参考文献】 森健二編『恐慌論の論点と分析』(創風社) その他授業中に指示する。</p> |
| <p>日本経済特講 (4) 成績評価の方法 授業の内容に沿って、4回の宿題レポートを課す。成績評価は、これに基づき行う。 <u>各回のレポートの配点は25%ずつ。</u></p> | <p>日本経済特講 (4) 成績評価の方法 授業の内容に沿って、4回の宿題レポートを課す。成績評価は、これに基づき行う。</p> |

| | |
|--|---|
| <p>得点率による評価基準は次のとおりとする。</p> <p>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</p> <p>(5) 成績評価の基準</p> <p>秀【卓越している】日本経済の生産性分析についての応用レベルの宿題に優れた水準で対応できた。</p> <p>優【かなり上にある】日本経済の生産性分析についての応用レベルの宿題が完全にできている。</p> <p>良【やや上にある】復習レベルに加えて、日本経済の生産性分析についての応用レベルの宿題にも部分的に対応できた。</p> <p>可【その水準にある】日本経済の生産性分析についての授業で説明した内容の復習レベルの宿題ができた。</p> | <p>(5) 成績評価の基準</p> <p>授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「水準にある」、応用問題が解ければ「やや上にある」</p> <p>やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、例題からは難しい応用問題が解ければ「卓越している」。</p> |
| <p>医療経済学特講</p> <p>(4) 成績評価の方法</p> <p>●以下を総合して判定する。</p> <p>授業で修得した分析方法による宿題（3回、各20%）、期末レポート（40%）</p> <p>※評価割合は若干の調整を行うことがある。</p> <p>●得点率による評価基準は次のとおりとする。</p> <p>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</p> <p>(5) 成績評価の基準</p> <p>授業で説明した医療経済学の内容の復習レベルの宿題とレポートができれば「水準にある（可）」、応用的な分析が宿題でできれば「やや上にある（良）」、医療経済学の応用的な分析を宿題と期末レポートでできれば「かなり上にある（優）」、応用レベルの宿題とレポートが自律的に考える力を用いて優れた水準で対応できれば「卓越している（秀）」。</p> <p>【教科書】</p> <p>Cameron, A.C. and P.K. Trivedi (2010), <i>Microeconometrics Using Stata</i>, Revised Edition, Stata Press, Texas.</p> <p>【参考文献】</p> | <p>医療経済学特講</p> <p>(4) 成績評価の方法</p> <p>授業で修得した分析方法による宿題（3回、各20%）と期末レポート（40%）により評価する。</p> <p>(5) 成績評価の基準</p> <p>授業で説明した内容の復習レベルの宿題とレポートができれば「水準にある（可）」、応用的な分析が宿題でできれば「やや上にある（良）」、応用的な分析を宿題と期末レポートでできれば「かなり上にある（優）」、応用レベルの宿題とレポートが優れた水準で対応できれば「卓越している（秀）」。</p> <p>【教科書】</p> <p>特に使用しない。</p> <p>【参考文献】</p> |

| | |
|--|---|
| <p>Cameron, A.C. and P.K. Trivedi (2005), <i>Microeconometrics: Methods and Applications</i>, Cambridge University Press, Cambridge.</p> <p>Jones, A.M., N. Rice, T. Bago d' Uva, and S. Balia (2007), <i>Applied Health Economics</i>, Routledge, London.</p> | <p>Cameron, A.C. and P.K. Trivedi (2005), <i>Microeconometrics: Methods and Applications</i>, Cambridge University Press, Cambridge.</p> <p>Cameron, A.C. and P.K. Trivedi (2010), <i>Microeconometrics Using Stata</i>, Revised Edition, Stata Press, Texas.</p> <p>Jones, A.M., N. Rice, T. Bago d' Uva, and S. Balia (2007), <i>Applied Health Economics</i>, Routledge, London.</p> |
| <p>ミクロ計量経済学 (4) 成績評価の方法 <u>●5回ほど予定している課題レポートにもとづき判断する。</u> <u>●得点率による評価基準は次のとおりとする。</u> <u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>【卓越している】ミクロ計量分析の基本的な方法を超えた新たな手法を提案し、その有用性を理論的・実証的に証明できる。</u> <u>【かなり上にある】ミクロ計量分析の基本的な方法を、実際のデータにあわせて改良することができる。</u> <u>【やや上にある】ミクロ計量分析の基本的な方法を踏まえて、実際のデータに応じた合理的な手法の選択を行える。</u> <u>【その水準にある】ミクロ計量分析の基本的な方法を理解している。</u></p> | <p>ミクロ計量経済学 (4) 成績評価の方法 <u>課題（4・5回を予定）で評価します。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>授業で説明した内容の復習レベルの課題ができれば「水準にある（可）」、さらに応用レベルの課題に対応できれば「やや上にある（良）」、応用レベルの課題が完全にできれば「かなり上にある（優）」、応用レベルの課題よりさらに優れた水準で対応できれば「卓越している（秀）」。</u></p> |
| <p>労務管理特講 (4) 成績評価の方法 講義は受講者の報告ならびにそれともなう議論で行います（2回～15回）。したがって、発表者は発表内容の理解ならびにその報告が必要であり、発表者以外の受講者は議論に参加できるかどうか問われます。 <u>得点率による評価基準は、次のとおりとする。</u> <u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>「卓越している（秀）」：報告内容以外の議論の前提となる内容等も調査した上で、論</u></p> | <p>労務管理特講 (4) 成績評価の方法 講義は受講者の報告ならびにそれともなう議論で行います（2回～15回）。したがって、発表者は発表内容の理解ならびにその報告が必要であり、発表者以外の受講者は議論に参加できるかどうか問われます。</p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>最低限の報告ができれば「水準にある（可）」、報告に工夫が見られるあるいは質</u></p> |

| | |
|---|--|
| <p>理的ー貫性も十分である。これに基づいた報告ならびに質問等を行うことができる。</p> <p><u>「かなり上にある（優）」：報告内容についての調査が行き届いており、論理的ー貫性もある。これに基づいた報告ならびに質問等を行うことができる。</u></p> <p><u>「やや上にある（良）」：報告内容についての調査が行き届いている、あるいは、論理的なー貫性がある、のどちらかを有している。これに基づいた報告ならびに質問等を行うことができる。</u></p> <p><u>「水準にある（可）」：報告内容についての調査と論理的なー貫性について、ともに不十分ではあるものの、ある程度の内容を有している。これに基づいた報告ならびに質問等を行うことができる。</u></p> <p>【教科書】 <u>古川久敬・池田浩・柳澤さおり（2010）『人的資源マネジメントー「意識化」による組織能力の向上』白桃書房（基本項目の理解）</u></p> <p><u>日本における労務管理論の最新研究（『日本労務学会誌』『産業・組織心理学会誌』等）（最新研究を交えた議論）</u></p> <p>【参考文献】 <u>奥林康司・上林憲雄・平野光俊編著（2010）『入門 人的資源管理 第2版』中央経済社。</u> <u>古川久敬・池田浩・柳澤さおり（2010）『人的資源マネジメントー「意識化」による組織能力の向上』白桃書房</u></p> | <p>問ができる場合は「やや上にある（良）」、報告・質問ともに議論に値する場合は「かなり上にある（優）」、議論の前提等も踏まえて、より建設的な報告・質問ができれば「卓越している（秀）」。</p> <p>【教科書】 <u>奥林康司・上林憲雄・平野光俊編著（2010）『入門 人的資源管理 第2版』中央経済社。</u></p> <p>【参考文献】 <u>最新の文献については、講義時に指示します。</u></p> |
| <p>理論経済学演習 I (4) 成績評価の方法 ●以下を総合して判定する。 事前学習としての課題（20%）、報告（20%）、質疑応答（30%）、最終レポート（30%） ※評価割合は若干の調整を行うことがある。 ●得点率による評価基準は次のとおりとする。 <u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> | <p>理論経済学演習 I (4) 成績評価の方法 事前学習としての課題（20%）、報告（20%）、質疑応答（30%）、最終レポート（30%）<u>をもとに評価する。</u></p> |

| | |
|---|--|
| <p>【教科書】 特に使用しない。</p> <p>【参考文献】 <u>Mas-Colell, A., M.D. Whinston, and J.R. Green (1995), Microeconomic Theory. Oxford University Press.</u> <u>Romer, D. (2001), Advanced Macroeconomics, 2nd ed., McGraw-Hill.</u> <u>Gatheral, J. (2006), The Volatility Surface: A Practitioner's Guide, Wiley.</u></p> | <p>【教科書】 <u>担当教員の指示に従うこと。</u></p> <p>【参考文献】 <u>担当教員の指示に従うこと。</u></p> |
| <p>応用経済学演習 I (4) 成績評価の方法 ●以下を総合して判定する。 事前学習としての課題 (20%), 報告 (20%), 質疑応答 (30%), 最終レポート (30%) ※評価割合は若干の調整を行うことがある。 ●得点率による評価基準は次のとおりとする。 <u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>【教科書】 特に使用しない。</p> <p>【参考文献】 <u>Myles, G.D. (1995), Public Economics, Cambridge University Press.</u></p> | <p>応用経済学演習 I (4) 成績評価の方法 事前学習としての課題 (20%), 報告 (20%), 質疑応答 (30%), 最終レポート (30%) をもとに評価する。</p> <p>【教科書】 <u>担当教員の指示に従うこと。</u></p> <p>【参考文献】 <u>担当教員の指示に従うこと。</u></p> |
| <p>理論経済学演習 II (4) 成績評価の方法 ●以下を総合して判定する。 事前学習 (30%), 報告 (30%), 質疑応答 (40%) ※評価割合は若干の調整を行うことがある。 ●得点率による評価基準は次のとおりとする。 <u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>【参考文献】 <u>担当教員の指示に従うこと。</u></p> <p>【教科書】 特に使用しない。</p> <p>【参考文献】</p> | <p>理論経済学演習 II (4) 成績評価の方法 事前学習 (30%), 報告 (30%), 質疑応答 (40%) をもとに評価する。</p> <p>【教科書】 <u>担当教員の指示に従うこと。</u></p> <p>【参考文献】 <u>担当教員の指示に従うこと。</u></p> |

| | |
|---|--|
| <p>Wooldridge, J.M. (2002), <u>Econometric Analysis of Cross Section and Panel Data</u>, MIT Press.</p> <p>Hayashi, F. (2000), <u>Econometrics</u>, Princeton University Press.</p> <p>Oksendal, B. (2014), <u>Stochastic Differential Equations: An Introduction with Applications</u>, Springer.</p> | |
| <p>応用経済学演習Ⅱ (4) 成績評価の方法 ●以下を総合して判定する。 事前学習 (30%), 報告 (30%), 質疑応答 (40%) ※評価割合は若干の調整を行うことがある。 ●得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</p> <p>【教科書】 特に使用しない。</p> <p>【参考文献】 Cameron, A.C. and P.K. Trivedi (2005), <u>Microeconometrics: Methods and Applications</u>, Cambridge University Press. Cameron, A.C. and P.K. Trivedi (2010), <u>Microeconometrics Using Stata, Revised Edition</u>, Stata Press.</p> | <p>応用経済学演習Ⅱ (4) 成績評価の方法 事前学習 (30%), 報告 (30%), 質疑応答 (40%) をもとに評価する。</p> <p>【教科書】 担当教員の指示に従うこと。</p> <p>【参考文献】 担当教員の指示に従うこと。</p> |
| <p>憲法学 (4) 成績評価の方法 ●以下を総合して判定する。 授業への取り組み方 (30%)、レポート (70%) ※評価割合は若干の調整を行うことがある。 ●得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</p> <p>(5) 成績評価の基準 【卓越している】日本国憲法が実際にどのような理念および構造を有しているかに対する正確な理解をもとに、裁判例などに現実にあられた、あるいは、将来あられ</p> | <p>憲法学 (4) 成績評価の方法 期末レポート (70%) および各回の授業への積極的参加 (30%) により評価します。</p> <p>(5) 成績評価の基準 日本国憲法が実際にどのような理念および構造を有しているかに対して、一定程度の理解が示されていれば「水準にある」、正確な理解が示されていれば「やや上にある」、</p> |

| | |
|---|---|
| <p>る可能性のある憲法問題に対して、法学的観点から論理的に思考し、自律的に考える力を総合して、極めて高い水準にある。</p> <p>【かなり上にある】日本国憲法が実際にどのような理念および構造を有しているかに対する正確な理解をもとに、裁判例などに現実であらわれた、あるいは、将来あらわれる可能性のある憲法問題に対して、法学的観点から論理的に思考し、自律的に考える力を総合して、非常に高い水準にある。</p> <p>【やや上にある】日本国憲法が実際にどのような理念および構造を有しているかに対する正確な理解をもとに、裁判例などに現実であらわれた、あるいは、将来あらわれる可能性のある憲法問題に対して、法学的観点から論理的に思考し、自律的に考える力を総合して、高い水準にある。</p> <p>【その水準にある】日本国憲法が実際にどのような理念および構造を有しているかに対する正確な理解をもとに、裁判例などに現実であらわれた、あるいは、将来あらわれる可能性のある憲法問題に対して、法学的観点から論理的に思考し、自律的に考える力を総合して、一定水準にある。</p> <p>【参考文献】 高橋和之『体系 憲法訴訟』（岩波書店）2017年長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿編『憲法判例百選Ⅰ』第6版（有斐閣）2013年長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿編『憲法判例百選Ⅱ』第6版（有斐閣）2013年（改版があった場合は、最新版を参考文献とします。）</p> | <p>日本国憲法の理念および構造についての正確な理解を踏まえて、裁判例などに現実であらわれた、あるいは、将来あらわれる可能性のある憲法問題に対して、法学的観点から考察する力を示していれば「かなり上にある」、さらにそのような憲法問題の解決策まで明確に指摘できれば「卓越している」。</p> <p>【参考文献】 高橋和之『体系 憲法訴訟』（岩波書店）2017年長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿編『憲法判例百選Ⅰ』第6版（有斐閣）2013年長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿編『憲法判例百選Ⅱ』第6版（有斐閣）2013年（改版があった場合は、最新版を使用します。）</p> |
| <p>租税法</p> <p>(4) 成績評価の方法 以下を総合して判定する。 複数回のレポート（80%）および各回の授業への積極的参加（20%） ※評価割合は若干の調整を行うことがある。 得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</p> <p>(5) 成績評価の基準 【卓越している】個人に関わる所得課税の構造と問題点に対して、正確な理解を示</p> | <p>租税法</p> <p>(4) 成績評価の方法 複数回のレポート（80%）および各回の授業への積極的参加（20%）により評価する。</p> <p>(5) 成績評価の基準 個人に関わる所得課税の構造と問題点に対して一定程度の理解が示されていれば「水</p> |

| | |
|---|---|
| <p>し、関連する規範の趣旨や背景も含めて考察を加え、さらに解決策まで明確に指摘できれば、極めて高い水準にある。</p> <p><u>【かなり上にある】個人に関わる所得課税の構造と問題点に対して、正確な理解を示し、関連する規範の趣旨や背景も含めて考察がなされていれば、非常に高い水準にある。</u></p> <p><u>【やや上にある】個人に関わる所得課税の構造と問題点に対して、正確な理解が示されていれば、高い水準にある。</u></p> <p><u>【その水準にある】個人に関わる所得課税の構造と問題点に対して、一定程度の理解が示されていれば、一定水準にある。</u></p> <p><u>【参考文献】</u> 金子宏『租税法〔第22版〕』（弘文堂、2017年） 中里実ほか『租税判例百選〔第6版〕』（有斐閣、2016年） 佐藤英明『スタンダード所得税法』（弘文堂、2016年）ほか。</p> | <p>準にある」、正確な理解が示されていれば「やや上にある」、関連する規範の趣旨や背景も含めて考察がなされていれば「かなり上にある」、さらに解決策まで明確に指摘できれば「卓越している」。</p> <p><u>【参考文献】</u> 金子宏『租税法〔第22版〕』（弘文堂、2017年） 中里実ほか『租税判例百選〔第6版〕』（有斐閣、2016年） 佐藤英明『スタンダード所得税法』（弘文堂、2016年） その他、適宜指定する。</p> |
| <p>特別刑法概論 (4) 成績評価の方法 ●以下を総合して判定する。 授業への取り組み方 (70%)、レポート (30%) ※評価割合は若干の調整を行うことがある。 ●得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>【卓越している】判例・通説の立場を詳細に論述した上、現在の刑事実務の課題を解決する際の自説の論拠が教員を感心させるレベルにある。</u> <u>【かなり上にある】判例・通説の立場を詳細に論述した上、現在の刑事実務の課題を示すことができている。</u> <u>【やや上にある】判例・通説の立場を詳細に論述できている。</u> <u>【その水準にある】授業で示した基本的説明を理解できている。</u></p> | <p>特別刑法概論 (4) 成績評価の方法 各テーマ終了後におけるレポート (80%) および、授業への積極的参加(20%)により評価する。</p> <p>(5) 成績評価の基準 授業で示した基本的説明を理解できていれば、「水準にある」。判例・通説の立場を詳細に論述できていれば「やや上にある」。現在の刑事実務の課題も含めて示すことができているならば「かなり上にある」。さらに現在の課題を解決する際の自説の論拠が教員を感心させるレベルにあれば、「卓越している」。</p> |

| | |
|---|---|
| <p>【参考文献】 犯罪白書(各年度)、警察白書(各年度)他。</p> | <p>【参考文献】 犯罪白書(各年度)、警察白書(各年度)。その他、適宜指定する。</p> |
| <p>民法学Ⅰ (4) 成績評価の方法 ●以下を総合して判定する。 授業への取り組み方(70%)、レポート(30%) ※評価割合は若干の調整を行うことがある。 ●得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</p> <p>(5) 成績評価の基準 【卓越している】民法財産法に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、自律的に考える力を総合して、極めて高い水準にある。 【かなり上にある】民法財産法に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、自律的に考える力を総合して、非常に高い水準にある。 【やや上にある】民法財産法に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、自律的に考える力を総合して、高い水準にある。 【その水準にある】民法財産法に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、一定水準にある。</p> <p>【参考文献】 佐久間毅『民法の基礎 1 総則』(有斐閣、2018年、第4版) 安永正昭『講義 物権・担保物権法』(有斐閣、2019年、第3版) 潮見佳男『新債権総論Ⅰ』(信山社、2017年) 潮見佳男『新債権総論Ⅱ』(信山社、2017年) 中田裕康『契約法』(有斐閣、2017年)</p> | <p>民法学Ⅰ (4) 成績評価の方法 各回の議論への参加状況(70%)とレポート(30%)に基づいて成績評価を行う。</p> <p>(5) 成績評価の基準 講義の中で検討した法解釈上の諸問題について理解することができていれば、理解の正確さに応じて「水準にある」又は「やや上にある」。合理的な思考を通じて自身の考え方を形成することができれば「かなり上にある」。各回の議論やレポートの内容に学術的に新しい視点の提示を含んでいれば「卓越している」。</p> <p>【参考文献】 各回ごとに資料を指定する。その他、相談があれば、受講生ごとの目的にあわせて参考書を示す。</p> |
| <p>民法学Ⅱ (4) 成績評価の方法 ●以下を総合して判定する。</p> | <p>民法学Ⅱ (4) 成績評価の方法</p> |

| | |
|---|---|
| <p>授業への取り組み方 (70%)、レポート (30%) ※評価割合は若干の調整を行うことがある。 ●得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</p> <p>(5) 成績評価の基準 【卓越している】民法学に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、極めて高い水準にある。 【かなり上にある】民法学に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、非常に高い水準にある。 【やや上にある】民法学に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、高い水準にある。 【その水準にある】民法学に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、一定水準にある。</p> | <p>複数回のレポート (80%) および各回の授業への積極的参加 (20%) により評価する。</p> <p>(5) 成績評価の基準 授業で取り上げた家族法の問題点に対して一定程度の理解が示されていれば「水準にある」、正確な理解が示されていれば「やや上にある」、関連する規範の趣旨や背景も含めて考察がなされていれば「かなり上にある」、さらに解決策まで明確に指摘できれば「卓越している」。</p> |
| <p>商法学 (4) 成績評価の方法 授業への取り組み方 (20%) とレポート (80% : 中間と期末の2回を予定) による。 得点率による評価基準は、次のとおりとする。 90%以上=秀、89-80%=優、79-70%=良、69-60%=可、59%以下=不可 【教科書】 江頭憲治郎『株式会社法〔第7版〕』(有斐閣、2017年) ほか 【参考文献】 山下友信=神田秀樹編『商法判例集〔第7版〕』(有斐閣、2017年) ほか</p> | <p>商法学 (4) 成績評価の方法 平常点 (20%) とレポート (80% : 中間と期末の2回を予定) による。 【教科書】 開講後にあらためて指示する。 【参考文献】 開講後にあらためて指示する。</p> |
| <p>地域法律実務演習 (4) 成績評価の方法 毎回、レポートを提出してもらい、それによって判断する。</p> | <p>地域法律実務演習 (4) 成績評価の方法 毎回、レポートを提出してもらい、それによって判断する</p> |

| | |
|---|---|
| <p>レポートの平均が、90 点以上 秀、80 点～89 点 優、70 点～79 点 良、60 点～69 点 可、59 点以下 不可。</p> <p>【参考文献】 森際康友編『法曹の倫理 第二版』(2015)</p> | <p>【参考文献】 特に指定しない。</p> |
| <p>地域プロジェクト演習 (4) 成績評価の方法 ●以下を総合して判定する。 授業への取り組み方 (70%)、レポート (30%) ※評価割合は若干の調整を行うことがある。 ●得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</p> <p>(5) 成績評価の基準 【卓越している】まちづくりに関する法に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、自律的に考える力を総合して、極めて高い水準にある。 【かなり上にある】まちづくりに関する法に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、自律的に考える力を総合して、非常に高い水準にある。 【やや上にある】まちづくりに関する法に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、自律的に考える力を総合して、高い水準にある。 【その水準にある】まちづくりに関する法に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、自律的に考える力を総合して、一定水準にある。</p> | <p>地域プロジェクト演習 (4) 成績評価の方法 レポート (80%) および各回の授業への積極的参加 (20%) により評価する。</p> <p>(5) 成績評価の基準 地域課題解決に関する法的方法論について一定程度の理解が示されていれば「水準にある」、正確な理解が示されていれば「やや上にある」、関連する規範の趣旨や背景も含めて考察がなされていれば「かなり上にある」、さらに解決策まで明確に指摘できれば「卓越している」。</p> |
| <p>比較憲法学 (4) 成績評価の方法 レポートで評価する。 90 点以上 秀、80 点～89 点 優、70～79 点 良、60～69 点 可、59 点以下 不可。</p> | <p>比較憲法学 (4) 成績評価の方法 レポートで評価する。</p> |
| <p>行政法学 (4) 成績評価の方法 報告、コメントの内容と提出されたレポートにより評価する。両者の割合は 1:1 とする。レポートは、報告者として取り扱った</p> | <p>行政法学 (4) 成績評価の方法 平常点 (報告、コメントの内容、議論への貢献度等) とレポートにより評価する。両者の割合は 1:1 とし、レポートは、報告者</p> |

| | |
|---|--|
| <p>争点の1つを取り上げ、コメントと議論の内容を踏まえて、その後の検討も含め、10,000字程度にまとめることを内容とする。</p> <p>●<u>得点率による評価基準は次のとおりとする。</u></p> <p><u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>【参考文献】 宇賀克也『行政法概説Ⅰ〔行政法総論〕』、『行政法概説Ⅱ〔行政救済法〕』、『行政法概説Ⅲ〔行政組織法／公務員法／公物法〕』、『地方自治法概説』（いずれも有斐閣、頻繁に改訂されているので、開講時の最新の版によること）<u>ほか。</u></p> | <p>として取り扱った争点の1つを取り上げコメントと議論の内容を踏まえて、その後の検討も含め、10,000字程度にまとめることを内容とする。</p> <p>【参考文献】 <u>詳細は開講時に指示するが、この授業で扱う範囲全体をカバーする単独の著者による最新の体系書として、</u>宇賀克也『行政法概説Ⅰ〔行政法総論〕』、『行政法概説Ⅱ〔行政救済法〕』、『行政法概説Ⅲ〔行政組織法／公務員法／公物法〕』、『地方自治法概説』（いずれも有斐閣、頻繁に改訂されているので、開講時の最新の版によること）<u>がある。</u></p> |
| <p>法人税法特論 (4) 成績評価の方法 <u>以下を総合して判定する。</u> 複数回のレポート（80%）および各回の授業への積極的参加（20%） <u>※評価割合は若干の調整を行うことがある。</u> <u>得点率による評価基準は次のとおりとする。</u> <u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>【卓越している】法人税を中心とした所得課税の構造と問題点に対して、正確な理解を示し、関連する規範の趣旨や背景も含めて考察を加え、さらに解決策まで明確に指摘できれば、極めて高い水準にある。</u> <u>【かなり上にある】法人税を中心とした所得課税の構造と問題点に対して、正確な理解を示し、関連する規範の趣旨や背景も含めて考察がなされていれば、非常に高い水準にある。</u> <u>【やや上にある】法人税を中心とした所得課税の構造と問題点に対して、正確な理解が示されていれば、高い水準にある。</u> <u>【その水準にある】法人税を中心とした所得課税の構造と問題点に対して、一定程度</u></p> | <p>法人税法特論 (4) 成績評価の方法 複数回のレポート（80%）および各回の授業への積極的参加（20%）<u>により評価する。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>法人税を中心とした所得課税の構造と問題点に対して一定程度の理解が示されていれば「水準にある」、正確な理解が示されていれば「やや上にある」、関連する規範の趣旨や背景も含めて考察がなされていれば「かなり上にある」、さらに解決策まで明確に指摘できれば「卓越している」。</u></p> |

| | |
|---|--|
| <p>の理解が示されていれば、一定水準にある。</p> <p>【参考文献】 岡村忠生・酒井貴子・田中晶国『租税法』（有斐閣、2017年） 金子宏『租税法〔第22版〕』（弘文堂、2017年） 中里実ほか『租税判例百選〔第6版〕』（有斐閣、2016年） <u>ほか。</u></p> | <p>【参考文献】 岡村忠生・酒井貴子・田中晶国『租税法』（有斐閣、2017年） 金子宏『租税法〔第22版〕』（弘文堂、2017年） 中里実ほか『租税判例百選〔第6版〕』（有斐閣、2016年） <u>その他、適宜指定する。</u></p> |
| <p>社会保障法学 （4）成績評価の方法 <u>2回のレポート（80%）および授業への取り組み方（20%）により総合評価する。</u> <u>評価の割合は若干の調整を行うことがある。</u> <u>得点率による評価基準は次の通りとする。</u> <u>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>（5）成績評価の基準 <u>【水準にある】社会保険制度の構造と理念、法的な問題点に対して一定程度の理解が示されている一定の水準にある。</u> <u>【やや上にある】社会保険制度の構造と理念、法的な問題点に対して正確な理解が示されて高い水準にある。【かなり上にある】社会保険制度の構造と理念、法的な問題点に対して正確に理解した上で、関連する規範の趣旨や背景も含めて考察がなされて非常に高い水準にある。</u> <u>【卓越している】社会保険制度の構造と理念、法的な問題点に対して正確に理解した上で、関連する規範の趣旨や背景も含めて考察がなされて解決策まで明確に指摘され極めて高い水準にある。</u></p> <p>【参考文献】 菊池馨実『社会保障法〔第2版〕』（有斐閣、2018年） 岩村正彦『社会保障法判例百選〔第5版〕』（有斐閣、2016年） 日本社会保障法学会編『新・講座 社会保障法 第1巻これからの医療と公的年金』（法律文化社、2012年） <u>他。</u></p> | <p>社会保障法学 （4）成績評価の方法 <u>複数回のレポート（80%）および各回の授業への積極的参加（20%）により評価する。</u></p> <p>（5）成績評価の基準 <u>社会保険制度の構造と理念、法的な問題点に対して一定程度の理解が示されていれば「水準にある」、正確な理解が示されていれば「やや上にある」、関連する規範の趣旨や背景も含めて考察がなされていれば「かなり上にある」、さらに解決策まで明確に指摘できれば「卓越している」。</u></p> <p>【参考文献】 菊池馨実『社会保障法〔第2版〕』（有斐閣、2018年） 岩村正彦『社会保障法判例百選〔第5版〕』（有斐閣、2016年） 日本社会保障法学会編『新・講座 社会保障法 第1巻これからの医療と公的年金』（法律文化社、2012年） <u>その他、適宜指定する。</u></p> |
| <p>刑事手続法学 （4）成績評価の方法 <u>●以下を総合して判定する。</u></p> | <p>刑事手続法学 （4）成績評価の方法</p> |

| | |
|--|---|
| <p>授業への取り組み方 (70%)、レポート (30%)</p> <p>※評価割合は若干の調整を行うことがある。</p> <p>●得点率による評価基準は次のとおりとする。</p> <p>90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</p> <p>(5) 成績評価の基準</p> <p>【卓越している】刑事訴訟法に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、自律的に考える力を総合して、極めて高い水準にある。</p> <p>【かなり上にある】刑事訴訟法に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、自律的に考える力を総合して、非常に高い水準にある。</p> <p>【やや上にある】刑事訴訟法に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、自律的に考える力を総合して、高い水準にある。</p> <p>【その水準にある】刑事訴訟法に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、自律的に考える力を総合して、一定水準にある。</p> <p>【参考文献】 池田修＝前田雅英『刑事訴訟法 (第6版)』(有斐閣、2018年)</p> | <p>試験 (80%) および各回の授業への積極的参加 (20%) により評価する。</p> <p>(5) 成績評価の基準</p> <p>刑事訴訟法学の基礎理論に対して一定程度の理解が示されていれば「水準にある」、正確な理解が示されていれば「やや上にある」、関連する規範の趣旨や背景も含めて考察がなされていれば「かなり上にある」、さらに解決策まで明確に指摘できれば「卓越している」。</p> <p>【参考文献】 適宜指定する。</p> |
| <p>民事手続法特殊研究</p> <p>(4) 成績評価の方法</p> <p>討論への参加状況 (50%) 及び学期末レポート (50%) による。学期末レポートは、講義の中で取り上げたテーマの中から複数 (上限なし) を選び、自らの問題関心に基づいた考察を具体的に記述すること。</p> <p>得点率による評価基準は、90%以上を秀、89-80%を優、79-70%を良、69-60%を可、59%以下を不可、とする。</p> <p>(5) 成績評価の基準</p> <p>民事手続法に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、自律的に考える力を総合して、授業で説明した内容の復習レベルの宿題ができれば「水準にある (可)」、さらに応用レベルの宿題に対応できれば「やや上にある (良)」、応用レベルの宿題が完全にできれば「かなり上にある (優)」、応用レベルの宿題が完全にでき</p> | <p>民事手続法特殊研究</p> <p>(4) 成績評価の方法</p> <p>討論への参加状況 (50%) 及び学期末レポート (50%) による。学期末レポートは、講義の中で取り上げたテーマの中から複数 (上限なし) を選び、自らの問題関心に基づいた考察を具体的に記述すること</p> <p>(5) 成績評価の基準</p> <p>授業で説明した内容の復習レベルの宿題ができれば「水準にある (可)」、さらに応用レベルの宿題に対応できれば「やや上にある (良)」、応用レベルの宿題が完全にできれば「かなり上にある (優)」、応用レベルの宿題に優れた水準で対応できれば「卓越している (秀)」</p> |

| | |
|---|---|
| <p>ば「かなり上にある（優）」、応用レベルの宿題に優れた水準で対応できれば「卓越している（秀）」</p> <p>【参考文献】 <u>兼子一・竹下守夫『民事訴訟法(法律学講座双書)〔新版〕』(弘文堂、1993年)</u> <u>兼子一『實體法と訴訟法：民事訴訟の基礎理論』(有斐閣、1957年)</u> <u>竹下守夫『民事執行法の論点』(有斐閣、1985年) 他</u></p> | <p>【参考文献】 <u>適宜指示する。</u></p> |
| <p>環境法学 (4) 成績評価の方法 複数回のレポート課題の内容（レポートの形式・内容や報告方法等）：80% 各回の授業への積極的取組状況（発言内容の質（クリティカルな指摘）や量等）：20% <u>得点率による評価基準：90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</u></p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>卓越している（秀）：(i) レポートを含む報告の形式面が適切であり、(ii) 報告の内容面において、環境問題の背景を説明できており、(iii) 当該問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv) それらの課題に対して既存の判例や学説が提示する判断方法が適切に把握できており、(v) その上で自分の見解を提示できており、教員を感心させる極めて高いレベルにある。かなり上にある（優）：上記5項目を満たしており高いレベルにある。やや上にある（良）：上記4項目まで満たしている。水準にある（可）：上記3項目まで満たしている。</u></p> <p>【参考文献】 <u>大塚直『環境法〔第3版〕』(有斐閣、2010年)、北村喜宣『環境法〔第4版〕』(弘文堂、2017年)、黒川 哲志・奥田 進一【編】『環境法のフロンティア』(成文堂、2015年)</u></p> | <p>環境法学 (4) 成績評価の方法 複数回のレポート課題の内容（レポートの形式・内容や報告方法等）：80% 各回の授業への積極的取組状況（発言内容の質・量等）：20%</p> <p>(5) 成績評価の基準 <u>(i) レポートを含む報告の形式面が適切であり、(ii) 報告の内容面において、環境問題の背景を説明できており、(iii) 当該問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv) それらの課題に対して既存の判例や学説が提示する判断方法が適切に把握できており、(v) その上で自分の見解を提示できており、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している（秀）」。(i) から(v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある（優）」。4項目までできていれば「やや上にある（良）」。3項目までできていれば「水準にある（可）」。</u></p> <p>【参考文献】 <u>大塚直『環境法〔第3版〕』(有斐閣、2010年)</u> <u>北村喜宣『環境法〔第4版〕』(弘文堂、2017年)</u> <u>その他については授業中に紹介する。</u></p> |
| <p>公法・刑事法学演習 I 【参考文献】</p> | <p>公法・刑事法学演習 I 【参考文献】 <u>履修者の研究内容及び研究状況に応じて示す。</u></p> |

| | |
|--|--|
| <p>『重要判例解説』（ジュリスト増刊）の最新年度のもの。『最高裁 時の判例IX〔平成27年～平成29年〕』（ジュリスト増刊）。</p> | |
| <p>民事法学演習Ⅰ 【参考文献】 『重要判例解説』（ジュリスト増刊）の最新年度のもの。『最高裁 時の判例IX〔平成27年～平成29年〕』（ジュリスト増刊）。</p> | <p>民事法学演習Ⅰ 【参考文献】 履修者の研究内容及び研究状況に応じて示す。</p> |
| <p>公法・刑事法学演習Ⅱ 【参考文献】 『重要判例解説』（ジュリスト増刊）の最新年度のもの。『最高裁 時の判例IX〔平成27年～平成29年〕』（ジュリスト増刊）。</p> | <p>公法・刑事法学演習Ⅱ 【参考文献】 履修者の研究内容及び研究状況に応じて示す。</p> |
| <p>民事法学演習Ⅱ 【参考文献】 『重要判例解説』（ジュリスト増刊）の最新年度のもの。『最高裁 時の判例IX〔平成27年～平成29年〕』（ジュリスト増刊）。</p> | <p>民事法学演習Ⅱ 【参考文献】 履修者の研究内容及び研究状況に応じて示す。</p> |
| <p>マネジメント特論</p> | <p>(追加)</p> |